

令和5年度

## 所沢市立教育センター研究紀要

◎ 所沢市立教育センター事業について

I 授業実践研究

II 専門研究

III 委託研究

埼玉県所沢市立教育センター

## あいさつ

所沢市立教育センター  
所長 中村 啓

所沢市立教育センターの研究員制度は、昭和47年度に始まり、令和5年度で52年目を迎える伝統ある制度です。教育センター研究員は、これまでも教育課題に対応し、理論と実践に基づいた先進的な研究を推進してきました。

GIGAスクール構想が開始されて3年が経過し、児童生徒が1人1台端末を用いて学習を進めることは自然な光景となりました。コロナ禍によってオンライン活用が促進されたことや、学力・学習状況調査のCBT化が構想を後押ししていることはあれど、研究員が率先して活用方法を研究し、市内に還元したことも、児童生徒が学習ツールとして使いこなせるようになった大きな要素であったと私は考えています。

この度、研究員が情熱をもって研究成果を取りまとめた本研究紀要が、所沢市内の「学校力」の向上に寄与することを心より願っております。

「授業実践研究」では「主体的・対話的で深い学びを実現するために活用するICT」を共通テーマとして7つの研究部が調査・研究に取り組み、そのうち国語科、理科、外国語活動・外国語科、特別活動の4研究部が研究概要をリーフレットにまとめました。授業実践研究部全体の指導者である東京工業大学 赤堀 侃司 名誉教授におかれましては、研究部への指導講評や御講演を通して貴重な御指導・御示唆を賜りました。

「専門研究」では教科等の専門性の高い研究を目指し、大学教授等からの指導を受け、国語科、算数・数学科、外国語活動・外国語科、道徳科、特別活動、教育相談の6研究部が研究に取り組みました。大妻女子大学 樺山 敏郎 教授、十文字学園女子大学 日出間 均 教授、埼玉大学 及川 賢 教授、東京家政大学 鈴木 邦夫 特任准教授、玉川学園大学 川本 和孝 教授、星槎大学大学院 阿部 利彦 教授には、研究員の所属校まで複数回、足を運んでいただき丁寧な御指導をいただきました。

「委託研究」では今日的な課題を取り上げ、先進的な調査・研究に取り組みました。指導者の学校法人湘南学園 住田 昌治 学園長、十文字学園女子大学 安達 一寿 副学長には、今後の教育振興に資する御指導をいただきました。

御指導を賜りました皆様に心より御礼申し上げます。

また、多忙を極める中での研究授業や研究部員研修会につきましては、多くの皆様のお力添えにより今日まで進めてこられたものと心得ております。校長先生をはじめとする研究員所属校教職員の皆様の御理解と御協力に心から感謝申し上げます。

この度の研究紀要発行を迎えるに当たり、研究員の皆さんの情熱に敬意を表すと共に、御指導・御支援くださいました全ての皆様に感謝申し上げ、教育センター所長からのあいさつとさせていただきます。

令和6年2月

# 令和5年度 所沢市立教育センター研究紀要 目次

## 目次

○ 教育センター事業	1
Ⅰ 授業実践研究	
1 国語科授業実践研究部	7
「自分の考えを、話し合い活動を通して、さらに深められる児童生徒の育成」	
2 理科授業実践研究部	12
「主体的に取り組み、思考力を高められるICT活用」	
3 外国語活動・外国語科授業実践研究部	17
「小中連携を意識した主体的・対話的で深い学びを実現するために活用するICT ～ICTを活用したより質の高い言語活動を目指して～」	
4 特別活動授業実践研究部	22
「学級活動を通して自他のよさや可能性を生かす児童の育成」	
Ⅱ 専門研究	
1 国語科専門研究部	27
「『読むこと』における書く活動の充実」 ～重層的な読みと合目的な書きの連動～	
2 算数・数学科専門研究部	39
「数学的な見方・考え方を働かせる授業展開の工夫」	
3 外国語活動・外国語科専門研究部	51
「目的・状況・場面に応じて自分の思いや考えを表現できる児童の育成」 ～個別最適な学びと協働的な学びの工夫～	
4 道徳科専門研究部	63
「心の宝箱をいっぱいにし、未来につなげる児童生徒の育成」	
5 特別活動専門研究部	75
「児童がよりよく合意形成するための指導の工夫」 ～一連の学習過程と思考の視点を意識した話し合い活動を通して～	
6 教育相談専門研究部	87
「どの子ども安心して通えるための校内教育相談体制の確立」	
Ⅲ 委託研究	
1 ESD調査研究協議会	99
「所沢市のESD」の普及	
2 これからのコンピュータネットワーク調査活用研究協議会	
<u>◇令和6年3月にGoogleサイトで研究報告をいたします。</u>	
3 副読本「ところざわ」及び白地図等編集研究協議会	
<u>◇令和6年4月開催予定の社会科副読本等活用研修会にて研究報告をいたします。</u>	

## ◎所沢市立教育センター事業について

### 教育センター事業 Good Practice!

- 令和5年度 所沢市立教育センター事業の概要一覧
  - I 教育課題に対応した学力向上推進事業
  - II 資質向上事業
  - III 教育相談事業
  - IV ICT教育事業
  - V 社会教育事業
- ◆ 調査・研究
- \* 早稲田大学研究連携
- 🌸 心のエネルギープロジェクト

担当 主幹兼副所長

阿部 英貴

# 令和5年度 所沢市立教育センター 事業の概要一覧

所沢市立教育センター 基本理念

## 教師一人一人が力をつけ、学校力を高め、子どもの生き抜く力を育む

学校力とは、「授業力」「学級経営力」それを支える「子どもへの愛情と理解」「組織力」

所沢市の教育の基本理念

みんなが持っている“3つの宝”を  
掘り起こして大きく育てます

- 心身のたくましさ
- 未来を拓く知恵
- ふるさと所沢を愛する心

### I 教育課題に対応した 学力向上推進事業

- 学び創造アクティブPLUS研究校支援研修**
  - 学**主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業づくり研修会(鈴木)
  - 学**わかる授業づくり研修会(清水)
  - 学**ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくり研修会(清水)
  - 学**特別活動授業づくり研修会(石坂)
  - 学**道徳科授業づくり研修会(鈴木)
  - 学**教授と活動のバランスに配慮した授業づくり研修会【**内上**】
  - 学**ICTを活用した授業づくり研修会(森谷)
- 教科等指導力向上研修**
  - 学**国語科充実のための研修会(石坂)
  - 学**算数・数学科充実のための研修会(鈴木)
  - 学**T小・中学校外国語活動・外国語科充実のための研修会(清水)
  - 社会科副読本等活用研修会(齋木)
  - 小学校理科授業力向上研修会(石坂)
- 豊かな心育成支援研修**
  - 人権教育研修会(鈴木)
  - 学**道徳科充実のための研修会(鈴木)
  - 学**学級活動充実のための研修会(石坂)
- 学びノート**
  - ・学びノート維持・管理(石坂・清水)
- 小学校社会科副読本**
  - ・小学校社会科副読本作成委託(齋木)

### II 資質向上事業

- 経験者研修支援**
  - ◇**心**初任者研修(石坂)
  - ◇初任者研修校内指導教員研修会(石坂)
  - ◇ステップ・アップ及びジャンプ・アップ研修(清水)
  - ◇5年経験者研修(石坂)
  - ◇中堅教諭等資質向上研修(清水)
  - ◇20年経験者研修(石坂)
- 資質向上研修**
  - 新任・転入管理職研修会(阿部)
  - 新採用・転入教職員研修会(鈴木)
  - 教務主任等研修会(鈴木)
  - 心**2年次教員研修(石坂)
  - 心**ミドルリーダー研修員研修(清水)
  - T**英語サロン(清水)
  - 研究員合同研修会(鈴木)
  - 事務職員のためのマネジメント研修会【**内上**】
  - 特別支援教育を担う教員養成研修会(岡田香)
  - 特定研修推薦・研修指導者等推薦専門研修(阿部)
- 授業目的公衆送信補償金制度**
  - ・授業目的公衆送信補償金制度の活用(鈴木)

### III 教育相談事業

- 不登校解消・特別支援教育研修**
  - 生徒指導・教育相談中級研修会(服部)
  - 不登校予防研修会(岡田香)
  - 一人一人を大切にす支援を学ぶ研修会(服部)
  - 心**ゲートキーパー養成研修会(岡田香)

#### 相談業務

- ・長期欠席児童生徒調査(岡田香)
- ・面接相談、巡回相談(服部)
- ・電話相談、子ども電話相談(服部)
- ・SSW活用(服部)
- ・医療相談(服部)
- ・相談室啓発活動(服部)
- ・教育支援センター「クwest」(岡田香)

### IV ICT推進事業

- ICT教育推進研修**
  - ICT活用研修会(森谷)
  - ICT教育推進研修会【**NEW**】(齋木)
  - 情報モラル研修会(齋木)
- 教育ネットワーク**
  - \*教育ネットワーク運用・維持管理(山本)
  - \*ホームページ等維持・管理(齋木)
  - \*校務用コンピュータに関する年度更新(酒井)
  - \*学習者用コンピュータ(Chromebook)に関する年度更新(齋木)
  - \*学習者用コンピュータ(Chromebook)更新(次回に向けて)【**NEW**】(齋木)
  - \*デジタル教科書更新(コンテンツ配信サービス)(山本)
  - \*学級数増加に伴うICT環境整備(山本)
  - \*小中学校校務用コンピュータ更新【**NEW**】(山本)
  - \*コンピュータ等管理台帳電子化【**NEW**】(酒井)
  - \*ホームページ作成システム導入【**NEW**】(森谷)

### V 社会教育事業

- ・16mmフィルム視聴覚機器整備貸出(岡田雅)
- ・教科書センター運営管理【**NEW**】(阿部)

#### 心のエネルギープロジェクト

- ①子どもたち一人一人は、かけがえのない存在であり、誰もが夢や希望を持てるようにしたい。
- ②自分も友だちも大切にしたい。

という思いから、今年度も「自己肯定感」を育む取組を継続していきます。

#### TEA-Plan II

「所沢市外国語教育推進プラン」

小中学校7年間で英語によるコミュニケーション能力を育成し、グローバル化社会をたくましく生き抜く児童生徒の育成を目指します。

【令和9年度までの目標】  
英検3級相当の英語力をもつ中学3年生の割合 **80%**

#### 学校支援

- ・センター講師派遣(阿部)
- ・キャリア教育プログラム(石坂)
- ・校内研修等指導者派遣(中村)
- ・教育資料収集、管理、提供(石坂)
- ・T英語指導助手派遣(清水)
- ・T小学校外国語支援員派遣(清水)
- ・日本語サポーター派遣(清水)

#### 学 早稲田大学研究連携

#### 調査・研究

- ・専門研究部(石坂)(国語、算数、T外国語、道徳、特別活動、教育相談)
- ・授業実践研究部(鈴木)(国語、算数・数学、理科、社会、図画工作、T外国語活動・外国語、特別活動)
- ・副読本「ところざわ」及び白地図等編集研究協議会(齋木)
- ・ESD(持続可能な開発のための教育)調査研究協議会(鈴木)
- ・学校事務研究部【**内上**】
- ・全国学力・学習状況調査(実施・分析)(石坂)
- ・市長期研修教員等研究会・発表会【**NEW**】(岡田香)
- ・これからのコンピュータネットワーク調査活用研究協議会(森谷)
- ・ICT活用と効果に関する調査(酒井)



- ◎：学び創造アクティブPLUS研究校支援研修
- ：学校を会場として開催する研修
- ：教育センター等で開催する研修等
- ◇：年次研修
- \*：教育ネットワーク関係
- ・：学校、家庭支援及び調査研究等
- 学：学校力向上プログラム
- 心：心のエネルギープロジェクト
- T：TEA-Plan II(英語教育)関係

# I 教育課題に対応した学力向上推進事業

## 1 本年度の重点

- (1)学校力向上
- (2)社会の変化に対応した支援



## 2 好事例

- ・「小学校外国語活動・外国語科充実のための研修会」及び「中学校外国語科充実のための研修会」には、それぞれ各校1名参加するものとし、異校種の外国語教育の現状や指導方法等について、指導者からの講演や参加者同士の協議を通して相互に学ぶことのできる研修会となった。
- ・日本語指導教材の整備及び必要に応じてサポーターへの貸出を行い、支援を充実させた。



# II 資質向上事業

## 1 本年度の重点

- (1)授業に生きる研修の充実
- (2)訪問による資質向上

## 2 好事例

- ・「校内研修の進め方」研修を研修推進担当者を対象に実施（オンライン）し、ブレイクアウトルームで学校区ごとに協議（小中連携）した。
- ・埼玉県学力・学習状況調査のクロス集計より、成果の大きい学校へインタビューに行き、取組について情報共有した。



## Ⅲ 教育相談事業

### 1 本年度の重点

- (1) 学校力向上
- (2) 不登校児童生徒の支援
- (3) 子どもたちの生き抜く力の育成
- (4) 教育相談室の機能向上



小学生個別活動  
工作、ゲームなど…

### 2 好事例

- 小学生個別活動の拡充  
…受入れ日時、対象を拡充
- アウトリーチの実施  
…児童生徒と学校をつなぐ登校支援
- クwest集團活動の交流会  
…誰でも参加できる内容で

クwest集團活動  
(小6～中3対象)の工夫



## Ⅳ ICT推進事業

### 1 本年度の重点

- (1) 多様なニーズに応じた研修・研究の実施
- (2) 児童生徒一人一台端末の効果的な活用
- (3) 各学校のニーズに応じたICT支援



1つのキャンパス上で  
入力ができ  
対話の必要性  
もうまれます。

### 2 好事例

- グループ課題の作成機能を活用した協働学習  
(schoolTakt)
- 児童生徒と保護者を対象とした情報モラル教室
- 授業の目的に応じた各アプリケーションの活用



学校・家庭の連携を進め、情報  
モラル教育の充実を図ります。

# V 社会教育事業

## 1 本年度の重点

- (1)ニーズに応じた 16mmフィルム等の貸出の継続

## 2 好事例

- (1)16mmフィルムを豊富に取り揃えております。



# ◆ 調査・研究

## 1 本年度の重点

- (1) 人財育成計画の明確化
- (2) 研究成果の充実

## 2 好事例

- (1) 研究構想図の改訂
- (2) Google サイトの活用促進



「人財育成の構想」  
ミドルリーダー  
→ 研究員  
→ 専門研究員  
→ 指導者

複数のアクセス方法  
を確立したり、研修会  
資料掲載等で活用し  
たりすることで、教職  
員に身近なサイトに。



## \* 早稲田大学研究連携

### 1 本年度の重点

- (1) 連携成立数の向上
- (2) 安心して連携できる体制づくり



早稲田大学の先生が研究を実践しつつ、学校に指導助言をくださいます。

### 2 好事例

- (1) 募集した研究連携の成立校数  
R 4 : 3校 → R 5 : 4校
- (2) 安心した体制づくりのための打合せ  
R 4 : 4回 → R 5 : 9回  
協定や書式の改善に向けて協議

事例検討や教職員の指導力向上へのアプローチなどのプログラムを実施しました。



## 🌸 心のエネルギープロジェクト

### 1 本年度の重点

- (1)子どもたちの生き抜く力を育むためのすべての教職員の共通理解
- (2)教師一人一人の自己肯定感をベースとした授業力や学級経営力の向上



不登校予防研修会にて、別冊資料を活用した「ストレスマネジメント」についての模擬授業形式の講義を行った

### 2 好事例

- ・各校での「実践事例集」「学級経営ガイドブック」「教育相談研究部別冊資料」の活用促進
- ・プロジェクトの理念や取組の概要が分かりやすい新リーフレットの作成



教職員の共通理解とプロジェクトの周知を促す

授業実践研究

## 国語科 授業実践研究部

研究主題

主体的・対話的で深い学びを実現するために活用するICT

～自分の考えを、話し合い活動を通して  
さらに深められる児童生徒の育成～

上山口中学校

中川 拓也（リーダー）

中富小学校

森田 一夢

宮前小学校

牧野 桃子

担当指導主事

岡田 香代

**研究主題** 主体的・対話的で深い学びを実現するために活用するICT

**副題** 自分の考えを話し合い活動を通して、さらに深められる児童生徒の育成

## 研究主題について

研究主題である「主体的・対話的で深い学びを実現するために活用するICT」を受け、授業改善に向けて国語科研究員の所属校における実態を把握するために、アンケートを実施したところ「自分の考えを伝えること」に対して好きではないという回答があり、自信のなさや表現することへの抵抗感がある児童生徒が多いことが分かった。

また、友達の考えを見たり聞いたりすることは好きだが、話し合い、自分の意見と比較し、さらに考えを深めることができていない児童生徒もいることも分かり、この結果から「自分の考えを伝える力、深める力」が低下していることが課題として挙げられた。

そこで、下の2つの仮説を立てた。

- ① ICTを活用することで、発信や反応がしやすくなり、主体的に伝え合うことが出来るだろう。
- ② ICTを活用することで、自分の考えと他者の考えを共有・比較しやすくなり、深い学びにつながるだろう。

この仮説をもとにChromebookを活用し、思考・表現するためのツールとすることで、自分の考えを深める工夫を授業の中で取り入れ、本主題に迫っていく。

## 研究の内容と方法

### 1 研究の方向性

学習指導要領には主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に関する配慮事項として、「単元などの内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的、対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること」とある。

これを踏まえた上で、授業改善の視点の例として以下の3点を挙げ、ICTの活用とともに検討し取り組むこととした。

- (1)主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか。
- (2)対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか。
- (3)学びの深まりをつくりだすために、児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか。

### 2 研究方法

- (1)各研究員が所属校で授業実践を行い、仮説をもとに、各自課題に向かう方策を考える。
- (2)授業実践前には、指導案についての協議を行い、方策の妥当性、留意事項について考えた後、授業実践を行う。授業実践後には検討会を開き、有効だった点を明確にしていく。
- (3)特にICTの活用がどの程度効果的であったかは、生徒への事前・事後のアンケート結果を踏まえ考察していく。

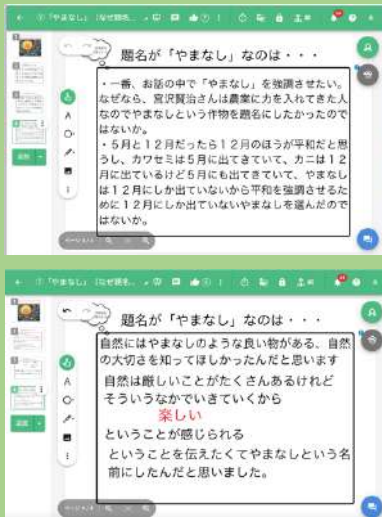
以上を通して、児童生徒が興味関心を持てるようなICTの活用方法は研究員同士で共有し、次回に生かしていくことで授業の質をさらに高めていく。

## 実践事例1「やまなし」(小学校6年生 令和4年10月13日実施)

単元目標である「宮沢賢治の世界を捉え、自分の考えをもつこと」の達成に向け、本時では「五月」と「十二月」のイメージを叙述に即して整理し、「宮沢賢治はどちらの世界の方が好きなのか」について考えた。スクールタクトに自分の考えを書き込み友達と共有したり、全体に自分の考えを発表したりした。



### ICTの活用 (スクールタクト)



#### 〈授業を行って〉

☆PC上だと書いたり消したりすることが簡単にできるので、自分の考えが表現しやすい。  
 ☆教師側が児童の考えを全体に共有するタイミングを決めることができる。  
 ☆友達の考えを聞くだけでなく目で文として見ることができるので、深く伝えることができる。

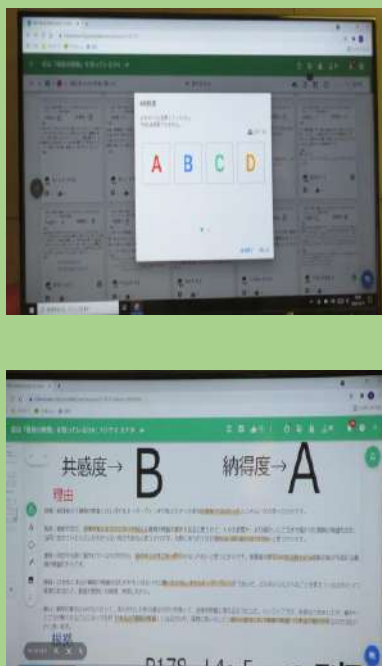
#### 児童の感想

- ・PCだといつも発表しない子の意見を知ることができて、面白かった。不思議と自分の考えが頭にぼんぼん浮かんできた。
  - ・みんなの意見が見ることができたり、自分の意見が誰かにわかってもらえて「いいね」がもらえたりするとすごく嬉しかった。
  - ・PCで授業するのは、すぐに文字を打つことができるのでとてもよかった。
- ☆ICTを使うことで、自分の意見を伝えやすくなったと感じた児童は84%と高い割合を占めた。

## 実践事例2「君は最後の晩餐を知っているか」(中学校2年生 令和4年12月14日実施)

今回の授業では筆者の主張に対する「共感度」と「納得度」を吟味する活動を行った。グループ協議に入る前に、自分の「共感度」と「納得度」はどれくらいかを全体で共有する際、スクールタクトの4択回答機能を使い、グラフで表示した。

### ICTの活用 (スクールタクト)



#### 〈授業を行って〉

☆クラス全体の意見をすぐに集約し、グラフで表示ができるため、自分の意見に自信を持つことにつながり、その後の話し合い活動への能動性を高めることができた。  
 ☆ICTを使うことで自分の意見の深まりや、他者との伝え合いに対する考えが向上したと考えられる。

#### 生徒の感想

- ・他者の意見を聞くことで、自分の考えが見えてきた。
  - ・みんなの意見を聞いて自分の着眼点とは全然違うところに注目してとても新鮮でした。
  - ・筆者の一つの意見から、こんなにも自分の意見や発想が広がるんだなと思った。
- ☆お互いの意見をその場で閲覧することができるため、自信を持って話し合い活動に取り組む姿があった。

### 実践事例3「ありの行列」(小学校3年生 令和5年1月24日 実施)

本時では、自分の感想と友達の感想を共有し、比較するという活動を行った。事前に自分の感想が書いてあるワークシートの写真を撮影し、スクールタクトに貼付けることで、全体での共有をしやすくした。その後の比較する活動は、付箋紙を用いて、発達段階に応じた Chromebook の活用・併用し、感想を比較しやすくした。

#### ICTの活用 (スクールタクト)



#### 〈授業を行って〉

☆PC 上だと書いたり消したりすることが簡単にできるので、自席で他の班の友達の感想文も読むことができた。  
☆自分の感想文を写真で撮影し、画像添付することで、ローマ字入力難しい3年生でも情報共有できた。  
☆自分と他の人の感想文を比べることを通して、同じ文章を読んでいても、感想を注目する部分は人によって違うことに気付けた児童もいた。

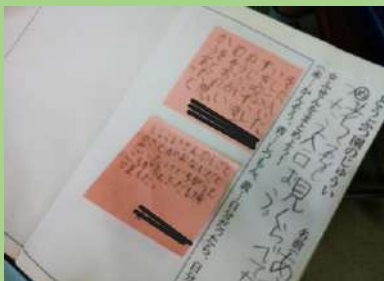
#### 課題点及び改善点

・文字入力が難しい3年生では、ICTを活用しての伝え合いの利点が少なくなりました。  
→絵や図を操作する等、文字入力が難しい学年での活用方法を考えていく必要がある。  
・ICTに頼ってしまい、伝え合う力を高める機会が減りました。  
→はじめの感想文の読み合いも、互いに声に出して行えると、相手に伝える力をより高めることができる。  
・自分の考えを深める段階まで至れなかった児童も多かった。

### 実践事例4「どうぶつ園のじゅうい」(小学校2年生 令和5年9月11日 実施)

この単元では、動物園で働く獣医の1日についておさえ、自分の経験をもとに獣医の仕事に対する考えを書くことが目標である。そして本時では、お互いの考えを比べ、感想を伝え合うという活動を行った。書いた感想文を写真で撮り、あらかじめスクールタクトに貼り付け、班での共有をしやすくした。また、付箋を用いて、赤「感想」・青「質問」・黄「自分だったら、自分の経験」という視点を分けて、班で話し合いをした。

#### ICTの活用 (スクールタクト)



#### 〈授業を行って〉

☆スクールタクトを活用することで、班の友達だけでなく、他の班の友達の意見も見ることができ、様々な考えを知ることができた。  
☆前に画面を映し出すことで、全体への共有が図りやすく、手立てとしてよい。  
☆操作に慣れておらず、見づらいこともあったので、今後工夫が必要である。また、同じところや気になるところに線を引かせてもよかった。



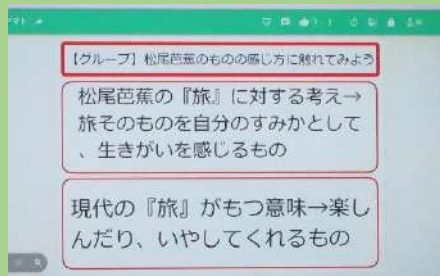
#### 児童の感想

・自分と感想の視点が同じでも、経験が違うなんて思わなくて驚きました。  
・みんなの考えを知ることができてよかったです。  
・感想はたくさん書いたので、今度は質問をしてみたいと思いました。

## 実践事例5「夏草」(中学校3年生 令和5年12月14日 実施)

本時では、「めあて」と「ふりかえり」が正対した授業構成をもとに、見通しの持てる課題提示をし、誰もが主体的に取り組めるようにした。加えて、ICTを活用(スクールタクト)し、自分と他者の意見を比較・共有が出来るようにした。また、生徒が発表する場面では、意見内容を可視化し、話し合い活動における、深い学びに繋がるような学習活動を円滑に進むように工夫した。

### ICTの活用(スクールタクト)



### 〈授業を行って〉

- ☆ ICTを活用し、全体で共有したことで、生徒一人一人の考えを把握しやすくなった。
- ☆ ICTを話し合い活動に用いることで、話すことが苦手な生徒も伝えやすくなった。

### 〈生徒の振り返り〉

- ・ 芭蕉が生きた時代の「旅」と現代の「旅」を比べると意味合いが大きく変わることが分かった。今後の授業では、命がけで旅をした芭蕉の俳句を読み味わい、情景を捉えていきたい。
- ・ ICTを使ったことで班の仲間の意見を共有しやすくなった。仲間の意見を取り入れたことで、自分の考えがより深まったように感じた。

## 児童の変容と成果と課題(授業後アンケートより)

### 成果 ICTの活用

#### ☆主体的に伝え合う力の向上

- ・ 友達と考えを共有することで、自分の意見に自信をもち、話し合い活動に参加することができた。
- ・ クラス全体の意見をすぐに集約し(スクールタクトの4択解答機能)、またそれをグラフ化することで、興味関心を引くことができた。
- ・ タイピングがまだできない発達段階や、苦手とする児童は、ノートに書いたものを画像にし、それをPCで共有することができた。

#### ☆深い学び

- ・ 話し合いをする際、友達の考えたことを聞くだけでなくすぐに読むことができ、より内容を理解しやすく、様々な考えと自分の考えを比較し、考えの深まりを感じることができた。
- ・ スクールタクトで多くの他者の考えを可視化したことで、自分が考えていたことを言語化することができた。

ICTを活用することで、自分の思いを発信することへのハードルが下がり、互いの意見をよく理解し、話し合うことができた。また、他者の考えを共有・比較しやすくなり、自分の考えを深めることにつながった。

### 課題

考えを共有することが簡単にできる一方で、ただの伝え合いになってしまうことがあった。

- ICTはツールであり、児童が出た考えを深く読みとり、自分の考えをどう広げるかが大切である。そのため問題提示の工夫や話し合いの方法や決まり事を指導していくこと必要不可欠である。

発達段階によっては、PCを使うことで、違うところに意識が向いてしまい、自分の言葉で相手に伝える時間が減ってしまった。

- 発達段階によって使い方を検討していかなければならない。
- 入力した内容は頭の中を整理する物であって、人に伝えるときは、自分の言葉で補い、伝えていくよう指導していく。

授業実践研究

## 理科 授業実践研究部

研究主題

主体的・対話的で深い学びを実現するために活用するICT

～主体的に取り組み、思考力を高められる  
ICT活用～

所沢中学校

唐澤ゆき乃（リーダー）

南小学校

芹澤 来渡

担当指導主事

石坂 祐樹

# 主体的・対話的で

## 深い学びを実現するために活用する ICT

～ 主体的に取り組み, 思考力を高められる ICT 活用



### 研究主題について



ICTの普及により

- 児童生徒が触れることのできる情報量の飛躍的な増加
- 観察・実験のデータ処理, 計測が従来よりも容易
- 使用可能なツールの多様化

⇒ ■ ICTの使用が「目的」になりがち  
■ 効果的な「手段」として用いるために, 児童生徒に伝える「明確なねらい」や「視点」を吟味する必要がある



### 仮説

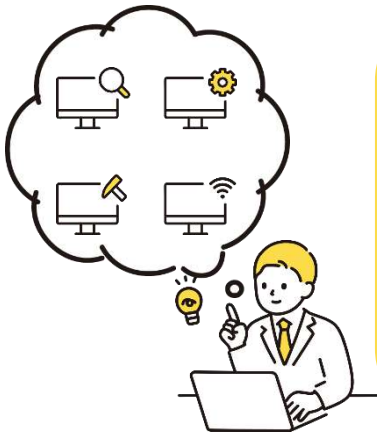
ICT活用の適切な選択・場面設定を行うことで

- 児童生徒の「やってみたい!」「自分にもできる!」という気持ちを引き出せるのでは?

→ 主体性の向上

- 観察・実験でのデータ活用方法を吟味し, 発問や視点を与えることで, 理科の見方・考え方が働き, 思考を深化させられるのでは?

→ 思考力の向上



### 研究方法

- ICT活用により, “気づきの質”を高めることで, 今後の理科における主体性や思考力の向上へ繋がる  
⇒ 記録の方法や見方, 写真, 動画の提示方法での活用を検討
- 導入時に, 考えたくなる「発問」とICTを組み合わせることで, より主体的な活動に繋がる  
⇒ 表現ツールとしての活用
- 実験における指示の視覚化およびデータ収集の効率化によって, 思考力の育成に繋がる  
⇒ 教師からの発信, 共有ツールとして活用



## 実践事例 2

### 考えたくなる「発問」とICT 活用ツール：school Takt

#### 中学校3学年 単元「仕事とエネルギー」(理科)

- 発問『女の子がより楽に『仕事』をする方法はあるか?』に対する考えを school Takt を用いて一人一人が作成・発表
- 解答を基に実験方法を検討 →生徒の考えが活かされる授業展開



#### 生徒の様子

- 編集・修正が容易なため、挙手や発言が少ない生徒でも意欲的に取り組む姿が見られ、どの生徒も集中して課題に取り組んだ
- 「いろいろな持ち上げ方があって楽しかった」「他の人の“シーソー”に感心した」同じ考えでも様々な表現方法が生じ、生徒の関心が高まったことで活発な意見交流が見られた

#### 成果

- 共有が容易なため、教師が生徒の意見を見出しやすい  
課題への取り組みやすさ、自由度の高さから、生徒の考えも多様化

⇒ 主体性が向上



### 指示の視覚化とデータ共有の効率化 活用ツール：二次元コード

Google スプレッドシート等

#### 中学校1学年 単元「身のまわりの物質」(理科)

- 実験手順をPDF化 →プリントで二次元コードを配布
- 実験結果を撮影・スライドに添付や、スプレッドシート・フォームへの入力により、従来よりも共有が容易

#### 生徒の声

- 自分の目で実験方法をしっかり確認するようになった
- 自分たちのペースで実験内容を見られるのでわかりやすくなった
- 結果がスライドだと見やすいし、画像もあるからわかりやすい



試料	色	状態	変化	変化の理由	変化の速度	変化の方向	変化の回数
2) 白粉	白	粉	白く濁った	白く濁った	速く	濁った	濁った
4) 黒糖	黒色	粉	黒く濁った	黒く濁った	速く	濁った	濁った
6) 赤糖	赤色	粉	赤く濁った	赤く濁った	速く	濁った	濁った
8) 白糖	白色	粉	白く濁った	白く濁った	速く	濁った	濁った
10) 黒糖	黒色	粉	黒く濁った	黒く濁った	速く	濁った	濁った
12) 赤糖	赤色	粉	赤く濁った	赤く濁った	速く	濁った	濁った
14) 白糖	白色	粉	白く濁った	白く濁った	速く	濁った	濁った
16) 黒糖	黒色	粉	黒く濁った	黒く濁った	速く	濁った	濁った
18) 赤糖	赤色	粉	赤く濁った	赤く濁った	速く	濁った	濁った
20) 白糖	白色	粉	白く濁った	白く濁った	速く	濁った	濁った

#### 成果

- 説明時間の短縮→活動時間の確保、「わかりやすくなった」という声が80%以上  
⇒ 授業に取り組みやすくなり、授業での主体性が向上

- 結果の撮影ポイントを生徒自身が取捨選択 「根拠のある考察のために」という視点の共有  
⇒ 「理科の見方・考え方」が働き、思考する姿が増加

## 研究を通しての成果

### 楽しむ姿、調べたいという意欲の増加

- ICT機器を「扱えること」が楽しい → ICT機器の使用で「見える、わかるから」楽しいへ  
実践内の例：クロームブックを使って撮影、スプレッドシートによるグラフ作成の支援  
school Takt を用いた“文章以外”の表現の幅の広がり・発表の支援
- 記録のみならず、自ら集めた情報・結果を「活用」させることで、「やってみたい」  
という気持ちが喚起され、より主体性が向上

### 「理科の見方・考え方」を働かせることの重要性

- 小学校低学年でも、「理科の見方・考え方」を働かせることで写真1枚からあらゆる情報の抽出が可能
- 中学校の実験結果の撮影も一声かけるだけで、考察に必要な事象にフォーカスされた画像に変化
- 互いの多様な考えに触れる機会の増加が思考力の向上に関連

## 更なる活用に向けて

### 教材の「ハイブリッド」化による混乱 → 意図的な活用の場面設定

ICT機器の活用は主体性が高まるが、児童生徒の手元に目に見える形で成果が残らない場合が多い  
特に低学年（小学校）においては、1時間の授業の中でプリントとICT機器の併用が困難な  
場面も見られた

ICT機器と従来の紙面による情報提示と使用場面のバランスを見極める必要がある

⇒ 単元を見通した教材の準備・児童生徒の実態把握が不可欠

### 情報過多による思考する時間の減少 → 情報の精査

データの共有できる情報量が多くなり、「何を見ていいのかわからない」という意見が出た  
また低学年においては、授業中の視点の切り替えが多くなったことで、通常よりも多くの指示  
が必要となる場面も見られた

⇒ 児童生徒の視点をより具体化・焦点化するために  
情報の提示方法やその量の検討が必要

授業実践研究

## 外国語活動・外国語科 授業実践研究部

研究主題

主体的・対話的で深い学びを実現するために活用するICT

**小中連携を意識した主体的・対話的で深い学び  
を実現するために活用するICT**

～ICTを活用したより質の高い言語活動を目指して～

小手指小学校 野本由利子（リーダー）

北秋津小学校兼務

南小学校 山本 朱莉

和田小学校 森 和樹

美原小学校 岩渕 拓海

向陽中学校 正木 栄光

東中学校 鈴木 直道

担当指導主事

清水 航

「主体的・対話的で深い学びを実現するために活用するICT」  
小中連携を意識した主体的・対話的で  
深い学びを実現するために活用するICT  
～ICTを活用したより質の高い言語活動を目指して～

## 研究主題について

### 子どもたちが社会に出るころ



様々な文化背景を持つ人々と意思疎通をし、自分の考えを表現することが求められる。

グローバル社会で生きていくための素地や基礎を身につけるため、小中が連携した段階的な質の高い言語活動をする必要がある！！

言語活動とは…  
実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動  
「小学校外国語活動・外国語科研修ガイドブック」より

## 小学校で使える！5つの授業ポイント

1. 児童生徒の興味・関心を高める題材であること。
2. 授業で行う活動のねらいや必要性を児童生徒に理解させること。
3. 必要感を持たせつつ、語彙、音声的特徴、意味、使い方に気付かせること。
4. 新教材と関係の深い既習事項について、児童生徒が活用できる場面を設定すること
5. 児童生徒に「できそう、やりたい」という期待感や学習の見通しを持たせること。

身近にあるデパートのフロアマップをテレビに掲示

I want to buy new shoes at the department store.  
Can you help me?



スーツを着た先生に似合う靴が買えるお店を紹介しよう

コミュニケーションの相手意識を持たせることができる



ICTを効果的に活用することで、英語でわかりやすく説明をしたり言語活動の時間をより多く確保したりすることができます。

## 小中で使える！主体的な学びに向けた ICT の活用

### 1.導入の工夫

AET を写真で紹介

めあてをスライドで提示



Power-Up③ 道案内をしよう

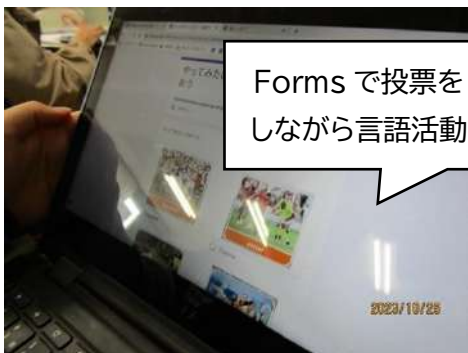


授業の導入では、写真や具体物を見せながら教師の英語を聞かせることで、児童生徒の興味・関心を引き出すことができる。導入時に本時の学習内容のイメージをもたせることが主体的な学びにつながる。

### 2.言語活動の目的・場面・状況のイメージ化

Forms で投票をしながら言語活動

実際の場면을写真で紹介

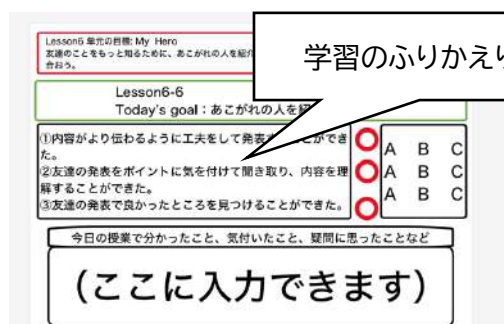
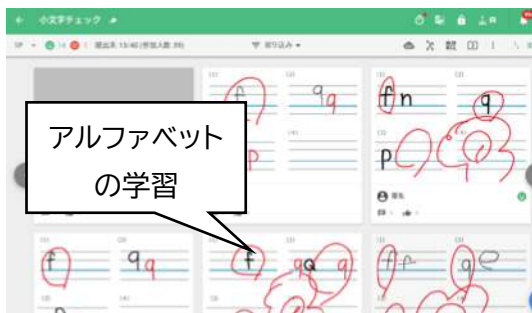


授業の展開では、身近な話題を写真やイラストを使いながら対話をする中で、児童生徒は言語活動の目的・場面・状況をイメージしやすくなる。学習内容の言語活動に必要な性を感じさせることが主体的な学びにつながる。

### 3.学習内容の共有

アルファベット  
の学習

学習のふりかえりの共有



授業のまとめでは、児童生徒同士が学習内容やふりかえりを共有することができ、協働的な学習を促すことで、次の学習への意欲を高めることができる。

## 小中で使える！対話的な学びに向けたICTの活用

### 1. やり取りでの Google Forms の活用

やってみたいスポーツを  
たずねあおう

baseball

soccer

tennis

rugby

Volleyball

basketball

- 1 Google classroom で Forms を配布  
例. やってみたいスポーツをたずねあおう(小6)
- 2 やり取りをしながら相手の答えを Forms に送信
- 3 ペアを変えてやり取りを繰り返す
- 4 授業の終盤で結果発表  
全員の考えを即座に集計・把握でき、コミュニケーション  
(言語活動)の時間を増やすことが可能になる。

### 2. school Takt の活用



Small Talk をする際に、教師がテーマに関する実際の写真等を見せながら話すことで、児童生徒は自分が話す内容を具体的にイメージすることができ、よりその後の言語活動に「必要感・相手意識」を持って取り組むことができる。

### 3. スクリーン・タブレットの活用



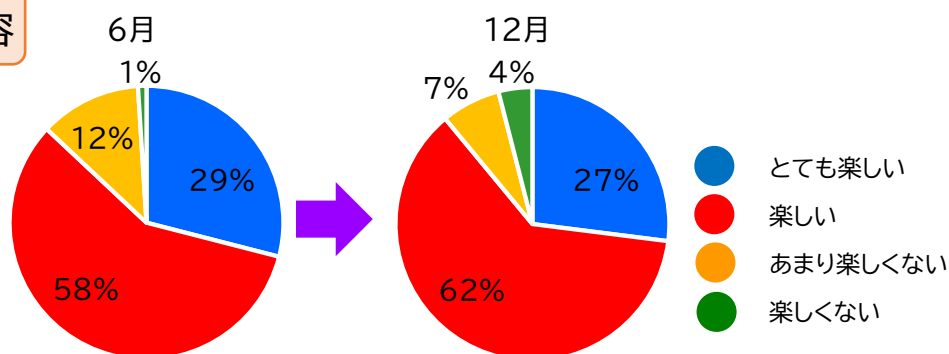
【メリット】

- ① 必要に応じて画面に書き込める
- ② 即座に学級全体に提示できる
- ③ やり取りの内容を可視化できる
- ④ 英語に苦手意識を持っている児童生徒の理解促進

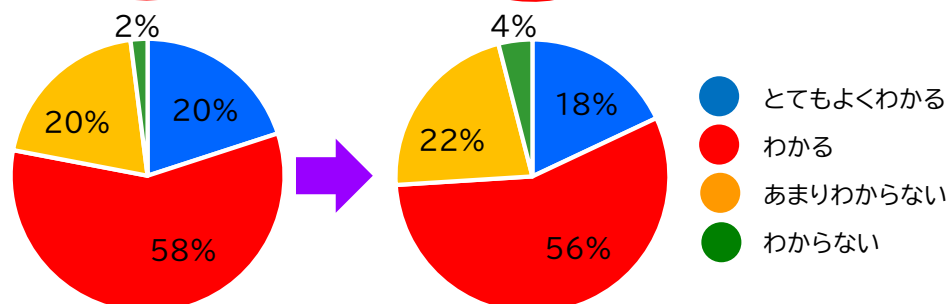
例. デパート内での道案内(中1)  
画面上の地図に経路を書き込みながら対話  
をすることで、臨場感を演出し、視覚的にも理  
解を促進できる。

## 児童生徒の変容

質問1  
外国語の授業は  
楽しいですか。



質問2  
先生の話す英語  
を聞いて、その  
意味がわかりま  
すか。



## 考察

6月と12月に行った調査では、質問1において、「とても楽しい」「楽しい」と肯定的な回答をした児童生徒の割合が微増したものの、質問2においては減少する結果となった。外国語活動・外国語科における児童生徒の理解度を高めるために、ICTを効果的に使用した、個別最適な学びの方法も研究していきたい。また、コミュニケーションの目的・場面・状況を明確にすることで、児童生徒が主体的に言語活動に取り組めるよう工夫改善を行っていく。

## 成果と課題

### 成果

- 導入の場面において、ICT を活用することで、コミュニケーションの目的・場面・状況について、視覚的にも具体的に捉えさせることができ、児童生徒にコミュニケーションへの目的意識や必要感を持たせることができた。特に、社会的な題材などの、自分事としてとらえることが難しい場合には、関心を高めるために効果的である。
- Small Talk の中でもICTを使用して映像や写真等を示すことで、海外の文化や習慣の違いに触れることができると同時に、本時で行う活動の必要感を持たせることができた。
- やり取りの中で 1 人1台端末を使うことで、アンケートの実施や即時の取りまとめが容易になり、児童生徒が英語を使用する時間を増やすことができた。
- ICTを活用することで、学習の途中や振り返りの場面で児童生徒が互いの学習内容を分かち合うことができ、協働的な学びや深い学びを促進することができる。

### 課題

- 多くの情報を一度に与えると、児童生徒が混乱したり、主体的な思考を妨げたりする可能性があるため、ICTを活用して指導をする際にも内容を精選し、スモールステップを意識して行う必要がある。
- 児童生徒の理解度を高めるためには、教師による日本語での補助を入れるのではなく、ICT やジェスチャーを活用し、視覚情報と音声だけで内容を推測できる力を育成できるよう工夫する必要がある。

授業実践研究

## 特別活動 授業実践研究部

研究主題

主体的・対話的で深い学びを実現するために活用するICT

～学級活動を通して自他のよさや可能性を生かす  
児童の育成～

柳瀬小学校 井上 海（リーダー）

中央小学校 坂本 佳織

松井小学校 齋藤 駿

牛沼小学校 北田 麻衣

担当指導主事

石坂 祐樹

# 主体的・対話的で深い学びを実現するために活用するICT ～学級活動を通して自他のよさや可能性を生かす児童の育成～

## 研究主題について

平成29年度告示の小学校学習指導要領 特別活動編  
第2章第1節の1 特別活動の目標(3)③

### 集団活動における合意形成

○意見の相違  
価値観の違い

○批判的思考力

×他者に迎合

×相手の意見を無理にねじ伏せる

×同調圧力に流される

他者の意見も受け入れつつ、自分の考えも主張できるようにすることが大切



ICTを活用してその効果を高めたい！

【手立て①可視化】

【手立て②Google アプリ】

自他のよさや可能性を生かす児童を育てたいこと

## 手立て①【可視化】学級会ノートの意見共有

### ①出し合う

キャプタワー  
みんなで協力し  
あいながら楽し  
めるから

モグラたた  
き 笑い  
ながらでき  
るから

男女一緒にやる  
休み時間にあ  
まり一緒にいな  
い人もなかよ  
くできるから

呼びかけ 呼び  
かけをしたらひ  
とがくるからで  
す。

かざりがかり  
部屋中がお店み  
たいになるから

スタンプが  
かり クラ  
スなかがふ  
かまるから

工夫①「Google Jamboard」  
提案理由やめあてに沿った  
意見が記入できている児童を  
取り上げ、その場で全体に共有  
し、広めることができる。ジャム  
ボードを活用することで、お互  
いのノートが見合えるように！

### ②ふり返り

#### 学級会ふり返り⑥

★友だちの発表をよく聞けましたが ○ ○ △

★進んで意見を言えましたが ○ ○ △

★今日とくにかんばったことや次回もっとがんばりたいことを書きましよう。

今回は、まえよりいけんがはっぴょうでき  
たのでよかったです。次は、もうちょっと  
言うのを頑張ると、もうちょっと目当て  
にそった意見が言えるように頑張ります。



工夫②「school Takt」  
ノートを配布・回収する時間  
が省略され、めあてに沿った  
ふり返りの記入が済んでいる  
児童を評価することもできる。

# 手立て②【Google アプリ】学級会の新しい事前準備

## ① Google スプレッドシートを活用した、話し合い活動シートを使用。

1	提案者	司会	副司会	記録	
3	議題	永遠の思い出作り会			
4	提案理由	卒業まで残り2,3日となりました。6年3組では、松井夏の間・運動会・修学旅行・音楽会・クラスで企画したお楽しみ会を通して絆を深めてきました。3学期は行事が少なく、絆を深める機会が少ない状況です。 そこで、6年3組で絆を深める会を開き、クラスの行事を盛り上げたいと思いました。 そうすることで、クラスの絆がより深まり、いい雰囲気卒業することができると思います。			
5	話し合いのめあて	卒業に向けて、みんなの思い出に残る絆が深まる会にしよう。			
6	決まっていること	2月20日 朝昼で開催 場所は2つ			

今までの話し合いの準備では、紙を使用していたがこれを廃止した。新しく Google のスプレッドシートを活用することでネットに繋がってれば離れた場所にも共同編集ができる。集まることなく与えられた作業をすることができるため児童や教師の作業時間も少なくなった。

## ② 「出し合う」意見を Google forms で事前に集める。

【議題】 「絆を深める会」

【提案理由】  
卒業まで残り2,3日となりました。6年3組では、松井夏の間・運動会・修学旅行・音楽会・クラスで企画したお楽しみ会を通して絆を深めてきました。3学期は行事が少なく、絆を深める機会が少ない状況です。  
そこで、6年3組で絆を深める会を開き、クラスの行事を盛り上げたいと思いました。  
そうすることで、クラスの絆がより深まり、いい雰囲気卒業することができると思います。

【話し合いのめあて】  
みんなの思い出に残る絆が深まる会にしよう。

紙の話し合いシートの活用を廃止することで、意見集約も Google forms を使うことにした。

そうすることで今までにかかっていた作業時間や手間を大幅に削減することができるようになった。今まで、30分以上かけていた作業が5分程で済むようになった。

# 手立て②【Google アプリ】学級会での新しい板書の形

## スプレッドシートが黒板の代わりに！



柱1	何をするか。	今やっていること	出し合う	理由
賛成・反対	カード	意見		
1	決定	陣取り		・みんな陣取りが好きだから。絆を深めるには、みんなの力を合わせているから。 ・チームで協力するから。陣取りをするのが好きだから。みんなで協力して勝つから。 ・みんなで協力して勝つから。陣取りをするのが好きだから。みんなで協力して勝つから。 ・みんなで協力して勝つから。陣取りをするのが好きだから。みんなで協力して勝つから。
2	ありがとう	ドッジボール		
3	ありがとう	ドローケイ		・みんなが助けてくれるから。仲間と協力して勝つから。みんなの力を合わせて勝つから。 ・みんなが助けてくれるから。仲間と協力して勝つから。みんなの力を合わせて勝つから。
4	ありがとう	増え丸		
5	ありがとう	サッカー		
6	決定	BBQ		・運動会で作って、使ったから。・3人で協力するから。・みんなの運動会で作ったから。 ・チームで協力してリレー形式だから。・運動会で作って、使ったから。
7	ありがとう	色おに		
8	ありがとう	ことごとく		・チームで協力するから

スプレッドシートの話し合い活動シートに従来の黒板と同じようなシート（ICTを活用した学級会の事前準備の工夫①）を作成して、話し合いができる形にした。下部のシートに議題、柱1～3のシートがまとめて入っている。選択をすれば、簡単に画面を切り替えることができる。

司会グループがやる内容は従来とほとんど変わらない。ここで変わるの、賛成反対の磁石からボタンの操作でプルダウン選択になり、理由はチョークからタイピング入力になったことである。

## 授業実践①

小学校5年生 学級活動(1) 「24人の思いが詰まったクラスの旗を作ろう！」

### 手立て②【Google アプリ】スプレッドシート

#### ◎話合いの整理

クロームブックは、話合い活動時に活用し、黒板には、以前のように議題や提案理由、話合いのめあて、柱、決定したこと等、を整理する場として活用したことで、進行状況を把握しながら、話合いを進めることができた。

#### ◎話合いの活性化

スプレッドシートを効果的に活用することで、学級会の動き（提案理由に沿っている意見、工夫等を短く入力するので）を素早くクラス全員に知らせられるようにし、話合い活動を活発にできるようにした。



#### ◎児童生徒の実態把握

意見を全体で言うことが苦手な児童も一人一回は発表する機会を設けていきたいので、誰が何回発言しているか司会と記録が瞬時に把握できるようシートにチェックを付けていった。教師側もそのシートを見ることによって、発言していない児童に対して意図的に声をかけることができた。

## 授業実践②

小学校3年生 学級活動(1) 「3の2フェスティバルを開こう！」

### 手立て①【可視化】理由の焦点化と板書の工夫

#### ◎めあてを意識した意見が視覚的にわかりやすい工夫

めあて

みんなが楽しく協力できる会を考えよう！

クラスのチームワークを高めよう

楽しい ◆ 協力 ◆



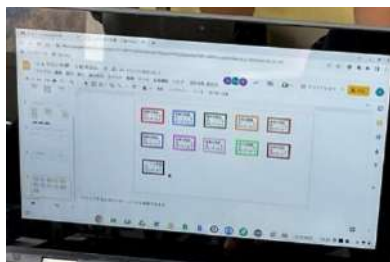
意見集約、話合いの記録はクロームブックを活用することで、準備や集約の時間を削減することができた。

こんなことをしたらみんなにとって楽しくなる!こんな場面で協力できる!とめあてに沿った意見には、磁石の横にきらきらマークをつけた。そうすることで、出てきた意見に対する理由をすばやく書き留めたり、タイピングしたりすることができない学年であっても、めあてにより近い意見を「まとめる」の際選びやすくなった。また、めあてに沿った意見を意識して発言しようとする姿が見られた。

## 授業実践③

小学校3年生 学級活動(2) 「どうして勉強するのかな～将来の夢と勉強はつながっている～」

### 手立て①【可視化】情報の整理



- ① 1枚のスライドに必要な情報だけのせる
- ② コピーペーストだけの簡単な作業
- ③ 記録係をつけ、話し合いをメインに

1枚のスライドを見ながら話し合いをすることで、話し合い活発化!

児童のふり返りより

- ・いろいろな学習とつながっていることがわかった!
- ・スポーツ選手が海外で活躍するために、体育や英語が大事だと思ったけど、外国の人とコミュニケーションをとるには道徳も大事だとわかった。

小学校6年生 学級活動(2)  
「将来の夢に向けて取り組む自主学习」



- ① 1枚のスライドに必要な情報だけのせる
- ② 調べながらの話し合い
- ③ 友達からの意見をもらい意識改革

より根拠のある意見や理由を友達に伝えることで思考が深まった!

## 成果と課題

### 成果

【準備の効率化と思考の深まり】

#### ① 考えの可視化

- ・自己決定の場で必要な情報が1枚のスライドにまとめてあったことで、話し合い活動が活発に行えた。
- ・スライドを見ながら話すため、アドバイスや意見をスムーズに交換できていた。

#### ② Google アプリを使った新たな学級会の形

- ・黒板では見えにくい意見に対する理由もスプレッドシートの活用により、見やすくなった。そのため理由をもとに発表をより工夫する児童の発言が見られた。
- ・Google アプリを使っただけの事前準備により、学級会準備にかかる時間を削減することができた。

### 課題

【情報の整理と簡略化・ICTと黒板を使ったハイブリッド学級会】

#### ① 考えの可視化

- ・話し合いながらのタイピングには、個人差が見られた。
- ・情報が1枚にありすぎると話し合いの際に焦点化するのが難しい。

#### ② Google アプリを使った新たな学級会の形

- ・児童が発表する時に、聞く児童が画面に集中してしまっ、顔が見られない場面もあった。
- ・全てを画面に映すだけでなく、黒板も活用できるような工夫があるとよかった。

専門研究

## 国語科 専門研究部

研究主題

### 「読むこと」における書く活動の充実

～重層的な読みと合目的な書きの連動～

東所沢小学校

清水 浩幸

所沢中学校

木村 宏輝

指導者 大妻女子大学

教授 樺山 敏郎

担当指導主事

岡田 香代

本年度の専門研究員の研究主題は、『読むこと』における書く活動の充実～重層的な読みと合目的な書きの連動』であった。この題目は、小生の研究課題でもある。国内外の学力調査において、再三にわたり指摘されている、読解と記述に焦点を当て、両方を意図的に絡ませながら、それらが相まって向上できるような国語科授業及び日常の実践の方向を模索している。

読解には、“重層的”という視点を強調する。段落や場面で輪切りにせず、層を重ねる読みを提唱している。層は、三層構造を基本とする。第一層は、「論理的・分析的読み」である。「論理的な読み」とは、目的に応じて筋道立てて読み解くことである。「分析的な読み」とは、観点を明確にして内部を細やかに読み解くことである。第二層は、「批判的・建設的な読み」である。「批判的な読み」とは、書かれている内容に対する疑問を切り口として書かれていないことに注目し、読みを広げ深めることである。「建設的な読み」とは、「批判的な読み」を経由した上で、学習者が書かれていることに書かれていないことを補足したり想像したりして読みを広げ深めることである。第三層は、「生成的・共創的な読み」である。「生成的な読み」とは、初読の段階からの読みがどのようにその意味世界を広げていったかを自覚することである。「共創的な読み」とは、多様な立場に立って対話し、読むことを通した新しい価値を共に創り上げていくことである。

他方、記述には、“合目的”という視点を重視する。「合目的な書き」とは、文字どおり、目的に合わせて書くことである。それは、第三者から付与される諸々の条件に即応することなどを意味する。

従来、こうした視点は意識されていることであろう。小生は、それらの質と量を一層強化することを主張している。言い換えると、“多読多書”である。読解に“多読”を、記述には目的に応じた“多書”を意識する。“多書”とは、本来多くの書物という意味をもつが、小生は“多く書く”ことと定位している。

本年度、お二方の研究実践の核として、筆者が提唱する“Learning・Mountain”にも取り組んでいただいた。「ラーニング・マウンテン」とは、「Let's Climb the Mountains of Learning」（学びの山に登ろう）の略称で、国語科の三領域における単元の学び全体を“山登り”に例え、子どもたちが目指す頂上（ゴール）とルート（プロセス）をデザインし、見える化したものである。このラーニング・マウンテンは、「重層的な読みと合目的な書きの連動」に大きく貢献していた。読んで書くという山頂をイメージし、付けるべき能力を意識しながら、学びに向かう子供たちの姿を見取ることができた。詳細は、お二方の実践事例を参照していただきたい。本年度の研究の理念と実践の輪が広がっていくことを期待している。

お二方の更なる御活躍と、貴市のますますの御発展を祈念して筆を置く。

## I 研究主題

「読むこと」における書く活動の充実 ～重層的な読みと合目的な書きの連動～

## II 研究主題について

学習指導要領解説・国語編の第2節、国語科の内容「思考力・判断力・表現力等の内容」の「C読むこと」の言語活動例には、「詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動（小学3年及び4年生）」「論説や報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする活動（中学3年生）」などがあり、本研究ではこれらを「読むことにおける書く活動」と規定した。

実際に授業の中でそのような書く活動に取り組みせると、「何をどのように書けば良いのかわからない」という「書けない」児童生徒や「書き切れない」児童生徒が多くいる。このことは、埼玉県学力・学習状況調査の本市の「無解答」の割合にも表われていると思われる。そのような現状から、「書けない」「書き切れない」のは、その児童生徒に「書く力」がないのではなく、前提となる教材文の正確な読解がないからではないかと考えた。

そこで、本研究主題を「『読むこと』における書く活動の充実～重層的な読みと合目的な書きの連動～」とした。教材文を目的に応じて何度も読む「重層的な読み」と自分の考えや意見を第三者から付与される条件に応じて記述する「合目的な書き」を連動させた授業を構築し、子どもの「読解力」と「書く力」を向上させていくために、本研究主題を設定した。

## III 研究の内容と方法

### 1 研究内容

重層的な読みと合目的な書きが連動する授業を展開することで、「読解力」並びに「書く力」の向上を図る。

#### 【手立て①】重層的な読み

- (1) 目的に応じて、同じ文章を何度も繰り返し読む。  
→論理的・分析的読み 批判的・建設的読み 生成的・共創的読み
- (2) 書かれていないことを想像して、自分の解釈を明確にする。  
→自分の考えをもつ。考えを伝え合い、文章内容の理解を深める。

#### 【手立て②】合目的な書き

どのような内容を、どのような形式で記述するのかという観点からの意図的な指導を行う。

- (1) 書く活動の機会（時間）を十分に確保する。
- (2) 多様な書く行為（書き足しや書き換え等）を経験する。
- (3) 一定の基準となる文量を満たして（越えて）書く。

## 2 研究方法

- (1) 7月・9月に「国語科の授業に関するアンケート調査」を実施し、児童の実態を把握する。
- (2) 9月・10月に検証授業を実施する。
- (3) 11月に「国語科の授業に関するアンケート」を実施し、成果と課題を分析する。

## IV 実践事例

### 1 所沢市立東所沢小学校 第4学年3組 清水 浩幸

- (1) 単元名 登場人物の気持ちの変化を想像し、日記にまとめよう  
教材名 「ごんぎつね」(光村図書)

#### (2) 研究主題との関わり

① 系統性については以下に示すとおりである。

三年	登場人物の変化に気を付けて読む 「まいごのかぎ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増す。</li> <li>・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像する。</li> </ul>
	登場人物について、話し合う 「モチモチの木」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方に違いがあることに気づく。</li> <li>・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつ。</li> </ul>
四年	話し合って、考えを深める 「ごんぎつね」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動や気持ちを表す言葉、情景から登場人物の気持ちを想像する。</li> <li>・自分と違う見方を知ると、考えを深めることができる。</li> </ul>
	登場人物の変化と出来事の関係をつめる 「プラタナスの木」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面の移り変わりを読み、登場人物の気持ちや考え方が表れている部分を見つける。</li> <li>・人物の変化に、どんな出来事がどう関わっているのかを考える。</li> </ul>
五年	登場人物どうしの関わりを読む 「なまえつけてよ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の会話や行動を読み、場面ごとの心情を想像することによって、登場人物どうしの関わりをつめる。出来事に着目し、登場人物の関係の変化について考える。</li> </ul>
	物語の全体像から考えたことを伝え合う 「たずねびと」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心情の描き方や中心となる人物が出会う人やもの、経験が物語においてどんな役割を持っているかなどの視点で考えたことを伝え合う。</li> </ul>

② 文章を「読むこと」に重点を置き、叙述を基にした記述を行うようにする。

③ 叙述を基に、想像したことを一定の字数で書く。

④ 学習のゴールイメージを教師と児童が共有する。

⑤ 学級で話し合って学習計画を作成する。

→「学びのプラン」

#### (3) 単元の見直し

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(1)オ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。C(1)エ</li> <li>・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。C(1)オ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。</li> </ul>

単元名【登場人物の気持ちの変化を想像し、日記にまとめよう ごんぎつね】全（ 12 ）時間

Let's climb  
the mountain  
of learning

学習かだい（みんなでかいついたい間い）

学びの山に登ろう！

登場人物の気持ちを想像しながら読み、感想や考えたことを「ごん日記」にまとめよう。

学びの  
プラン

□分かること・できること

ア 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにする。

□工夫して学ぼうとすること

エ 「ごんぎつね」を繰り返し読み、「ごんの日記」を何度も書き直ししながら、自分の考えをまとめようとする。

□考えること・表すこと

イ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像する。

ウ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつ。

第3ステージ（2）時間

⑪⑫「登場人物の気持ちを想像して日記を書く」という言語活動の面白さや手順を確かめたり、身に付けた力について振り返ったりする。

第1ステージ（2）時間

①「ごんぎつね」を読んだ感想や考えを「ごん日記」「ごんへの日記」にまとめて友達と共有する学習の計画を立てる。  
②「日記」を書くために必要なことを考え、「学びのプラン」を作成する。

第2ステージ（8）時間

③④⑤⑥登場人物の行動や気持ちを捉えるために、第1場面から第6場面に小見出しをつける。  
⑦⑧複数の場面の叙述を結び付けながらごんの気持ちの変化を想像し、ごんの立場になって「ごんの日記」を書く。  
⑨⑩複数の場面の叙述を結び付けながらごんに対する兵十の気持ちの変化を想像し、ごんに対して語りかけたいこと「ごんへの日記」を書く。

この単元に関わってこれまでに知っていること  
（前の学年や前の単元までに）

物語全体を通して、複数の記述を基に登場人物の行動や気持ちを捉えながら読む。

(4) 本時の学習指導（本時 7/12 時）

①目標

○ごんの気持ちを想像して、ごんの日記として自分の考えをまとめることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 C (1) オ

② 評価規準

○登場人物の気持ちの変化をとらえ、自分の考えたことや想像したことを記述している。 【思考・判断・表現】

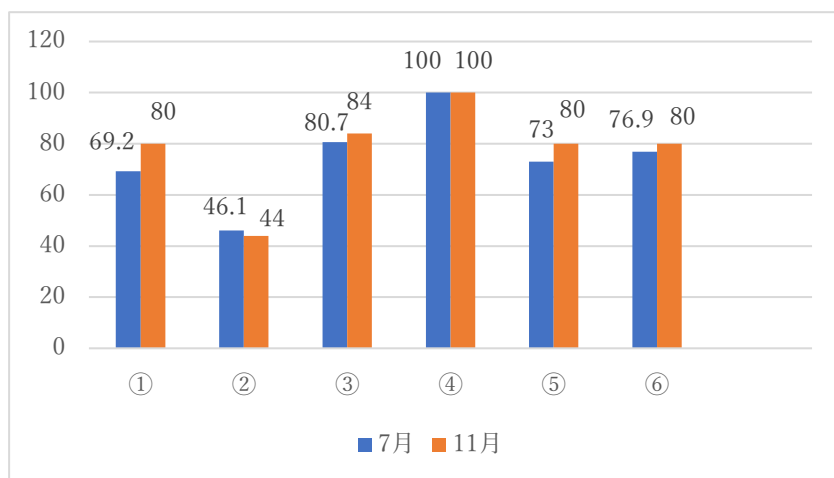
③展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 前時までの学習を振り返り、本時の課題を確認する。	○学習の見通しをもつこと	・ごんの心情を捉えて日記を書くことに留意させ、単に事実を述べた日記にならないように指導する。	3
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     ごんの気持ちを想像して、ごんの日記にまとめよう。                 </div>			

<p>2 ごんの気持ちの変化について、グループで話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 記述を基に考えを持つこと</li> <li>○ 自分の考えと比較して考えを聞くこと</li> <li>○ 考えを伝え合うこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ごんの心情が、最初から最後までどのように変化していくかを話し合うように指示する。</li> <li>・ 叙述を基にして心情を捉えているかを確認しながら児童の発言を観察する。</li> </ul>	<p>10</p>
<p>3 「ごんの日記」を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 登場人物の行動・会話・様子を表す言葉</li> <li>○ 叙述に基づいた自分の考えの書き方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日記の書き方の視点を板書で示す。</li> <li>・ 本題材でおさえたいごんの心情、情況（ひとりぼっち・後悔・償いたい・ひきあわない・分かってほしい）をおさえているか確認する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">評価場面 【思考・判断・表現】 評価方法 ワークシート・観察</p> <p>叙述を基にごんの心情の変化を捉え、日記にまとめることができた児童を B 評価とする。</p> <p style="text-align: center;">〈上位児童への手立て〉</p> <p>十分に書くことができた児童には、最後の一文「青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました」の意味するものについても考えさせる。</p> <p style="text-align: center;">〈中位児童への手立て〉</p> <p>ごんの心情の変化を確認して、一つの心情にこだわらず、兵十に伝えたいこと書くように促す。</p> <p style="text-align: center;">〈低位児童への手立て〉</p> <p>兵十に伝えたいことを中心に、兵十に撃たれた後のごんの心情に注目して書くように促す。</p>	<p>17</p>
<p>4 「ごんの日記」を伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友達との感じ方の共通点・相違点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童に考えさせたい心情を記述している児童の日記を発表させて、学級全体の問いとする。</li> </ul>	<p>10</p>
<p>5 学習の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新たな見方・考え方を取り入れた考えの書き方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新しい考えや疑問について記述ができるように指導する。</li> </ul>	<p>5</p>

## (5) 実践の結果

①アンケート調査の結果(「はい」「どちらかといえば好き」と答えた児童の割合。)



- ① 国語の学習は好きですか。
- ② 自分の考えを発表するのは好きですか。
- ③ 自分の考えをもとに、みんなと話し合うのは好きですか。
- ④ 友達の考えを聞くのは好きですか。
- ⑤ 自分の考えや感想を書くのは好きですか。
- ⑥ 文章の大切なところや、登場人物の気持ちを考えながら読むのは好きですか。

②成果 (○) と課題 (●)

【手立て① 重層的な読みについて】

- 「自分の考えを書くために、しっかり読む」ことを学級全体で大切にしようと心掛けたことにより、読むたびに新しい発見があったり、考えが変化したりする児童が増えた。「重層的な読み」を繰り返すことにより、どういった点に気をつけて文章を読めばよいか、児童が自覚して読むようになった。
- アンケート調査では、概ねすべての項目で「はい」「どちらかといえば好き」と回答した児童が増えた。児童の文章の内容は質、量ともに高まってきたので、今後も「書くために読む」ことについて意識して授業を展開していく。

【手立て② 合目的な書きについて】

- アンケート調査で、「国語の学習は好きですか。」の項目に、「はい」「どちらかといえば好き」と回答した児童が大幅に増加した。「自分の考えを書くために、この時間にやることはこれだ」と、児童が意欲をもって学習に取り組むことができるようになった。
- 「書くこと」への抵抗が少なくなった。書き出しに困っていた児童が多かったが、何を書けばいいのか、文章の構成をあらかじめ指示したことにより、書くことに戸惑う児童が少なくなった。
- 授業実践では、「書くこと」の条件を児童に示しすぎてしまい、児童が何から書いたらよいか分からなくなってしまったように思う。児童への指示は、明確に、簡潔に、具体的に行うことにこれからも注意していく。
- 「書く活動の機会(時間)を十分に確保する。」「多様な書く行為(書き足しや書き換え等)を経験する。」ことが難しかった。書き足し、書き換えを通して、児童が読み手を意識し、構成の整った文章を書くことのできる力を今後も伸ばしていく。

2 所沢市立所沢中学校 第3学年5組 木村宏輝

(1) 単元名 「文章を批判的に読み、自立した読者を目指そう！」

教材名 「人工知能との未来」 羽生 善治 (光村図書 国語3)

「人間と人工知能と創造性」 松原 仁 (光村図書 国語3)

(2) 研究主題との関わり

本研究の主題である【重層的な読み】と【合目的な書き】についてそれぞれ以下のよ  
うな手立てを踏まえて単元を構成した。

手立て①【重層的な読みについて】		手立て②【合目的な書きについて】
第一層の読み 【論理的・分析的な読み】	・文章の構成とそれぞれの筆者の意見を読みとる。	・要旨を100字以内でまとめる活動を行う。
第二層の読み 【批判的・建設的な読み】	・二つの文章の共通点と相違点をまとめ、立場や事例の挙げ方、それぞれの主張を確かめつつ、論理の整合性や書き手の主張の妥当性や信ぴょう性を検討していく活動を取り入れながら読解を深める。	・どちらの文章のほうが納得できたかについて自分の考えを、「文章中の表現を用いる」「3段落構成で書く」「接続語を積極的に使う」という条件を設定し、まとめる課題を行う。
第三層の読み 【生成的・共創的な読み】	・二つの文章を読んでAIに対しての新しい価値や捉え方を見いだす。	・「人口知能と共生」というテーマで自分の意見を「800字以内で」「自分の実体験や見たことを聞いたことを踏まえた理由付けをして」という条件で文章を書く。

(3) 単元の目標

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(2) ア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。C(1) ア</li> <li>・文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価することができる。C(1) ウ</li> <li>・文章を読んで考えを広げたり深めたりして、自分の意見をもつことができる。C(1) エ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粘り強く論理の展開の仕方を捉え、学習課題に沿って考えたことについて文章にまとめようとしている。</li> </ul>

文章を批判的に読み、自立した読者を目指そう！

学びのプラン

□分かること・できること

□思考すること・表現すること

**ア** 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。

**イ** 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。  
**ウ** 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価している。  
**エ** 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、自分の意見をもっている。

□工夫して学ぼうとすること

**オ** 粘り強く論理の展開の仕方を捉え、学習課題に沿って考えたことについて文章にまとめようとしている。

第3ステージ

こんな学習をしてこんな力を！

⑥ 「人工知能と人間のかかわり方」について、自分の考えをまとめる。

評価

**エ**

**オ**

提出された作文の内容

第1ステージ

こんな学習をしてこんな力を！

① 学習課題を設定し、学びのプランを立てる。  
 ② 本文を読み、それぞれの文章の要旨をつかむ。

第2ステージ

こんな学習をしてこんな力を！

③ 観点を決め文章を比較する。  
 ④ それぞれの文章の特徴をつかむ。  
 ⑤ 二つの文章の論の展開や構成、表現の仕方などの比較をもとに、どちらに納得できるかについて文章を書く。

評価

**ア**

**イ**

**ウ**

**オ**

ワークシートの内容  
 schoolTakr の内容

この単元に関わってこれまでに知っていることできること 具体と抽象の関係に着目した読むこと。 文章の構成や論理の展開を評価すること。

(4) 本時の学習指導（本時 3 / 4 時間）

① 目標

○文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価し、自分の意見を文章にまとめる。

【思考力、判断力、表現力等】C (1) ウ

② 評価規準

○「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価している。


【思考・判断・表現】

○二つの文章を批判的に読み、どちらの文章が良いと思ったかについて文章にまとめようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

③ 本時の展開

	学習活動 ○予想される子どもの活動・子どもの気づき	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
め あ て ・ 見 通 し	1. 前時の振り返り ○それぞれの文章の要旨や、文章の特徴について振り返る。	○各文章の要旨 ○論理の展開 ○事例		5
	2. 本時のめあての提示			2
	3. 本時の学習課題の提示			3
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     今日のめあて：文章を批判的に読み、自分の考えをまとめよう                 </div>				
〈本時の課題〉 「人口知能との未来」と「人間と人工知能と創造性」を読み比べたときに、「納得度」が高いのはどちらですか？自分の考えをまとめよう！				

学び 合い	4. どちらの文章の論証の仕方に納得するか立場を決め、自分の考えをもつ。 ○文章を読み説得力を持たせている工夫を探す。 ・身近な事例を挙げている方が良いな。 ・説明の順序に工夫がある。	○各文章の特徴 ○批判的に文章を読むための着眼点	○schoolTakt を使用して、お互いの意見を交流しやすくする。	10
	5. グループや全体で意見を共有する。 ○交流を通して、自分では気付かなかった文章の特徴を知る。	○納得させるための文章の工夫 ○自分だけでは気がつかなかった、批判的に文章を読むための着眼点	○schoolTakt の閲覧機能を使用し、意見を共有しやすくする。	10
	6. どちらの文章に納得できたかについて自分の考えを文章にまとめる。	○立場を明確にした意見の述べ方	○文章にまとめる際は、「時間、字数、条件」を明確に提示する。	15
 <div data-bbox="582 1025 965 1288" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>文章にまとめよう！</p> <p>文章を書くときのポイント！→評価のポイント！</p> <p>①どちらの文章のほうが納得度が高いかを明確にすること。 ②そのような立場をとった理由を書くこと。 ③理由を書く際は、文章中の根拠を取り上げて説明すること。 ④3段落構成で書くこと。</p> <p>☆理由付けが複数あるといいね！ ☆接続語を積極的に使えよ！ ☆自分の文章が羽生さん・松原さんに読まれるという緊張感をもって書けるといいね！</p> </div>		<div data-bbox="981 974 1380 1265" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>文章はこちらへどうぞ！</p> <p>私は「人間と人工知能と創造性」の方が納得度が高い。理由は人間と人工知能、それぞれの得意・不得意の事例から、それらをどう活かしていけばよいか分かりやすく示されているからだ。小説や数字をばらばらに書いていくなど、想像しやすい事例が用いられている一方、「人工知能との未来」は事例が骨格のことに偏っていて一部の人のしか共感されないのではないかと思った。また、創造性という面から双方を見ることで、より比較がしやすかった。このように、「人間と人工知能と創造性」はわかりやすい表現で説明しているからより多くの人が理解しやすく、説得力があったので、私はこの文章の方が納得度が高い。</p> </div>		
まとめ ・ 振り返り	7. 出来上がった文章を読み合い、感想を伝え合う。  8. 本時の振り返りを記入する。 ○「今日の授業は自分にとってどうでしたか」という視点で、授業の振り返りを行う。		○読み合う際は schoolTakt のコメント機能を使用互いに感想を伝えあうように指示する。	7  3

〈取り組みの様子と生徒〉      〈生徒に提示したスクールタクトの内容と生徒が書いた作文〉

<上位生徒への手立て>

- ・制限時間内に条件に従って決められた字数の文章が書けた生徒には、自分の意見が論理的に述べられているか、自分の意見を支える根拠がより高いレベルのものになっているかについて推敲するように指示をする。

<中位生徒への手立て>

- ・自分の意見を述べる際は理由付けを複数用意し、接続語を積極的に用いることや他者意識を踏まえた文章を書くように促す。

<下位生徒への手立て>

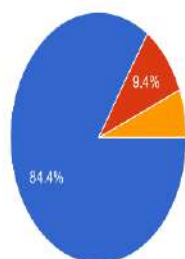
- ・何を書いていいか分からない生徒には、自分の意見と似ている他者の意見を参考にしたりして、再度課題や見通しが持てるように指導する。

#### (4) 実践の結果

##### ① アンケート調査の結果

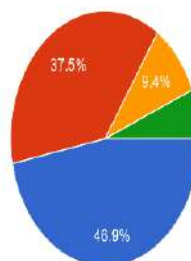
「人工知能との未来」／「人間と人工知能と創造性」の文章の内容は理解できましたか？ 筆者の説明の仕方を吟味したり筆者の主張の正当性などに着目して読むことができましたか？

32件の回答



● ほぼできたと思う!  
● あんまりできなかった...  
● 全然できなかった...

32件の回答



● はい!  
● どちらかといえばできたか!  
● あんまりできなかった.....  
● 全然できなかった!

##### ② 成果 (○) と課題 (●)

###### 【手立て①重層的な読みについて】

○授業後のアンケートにおいて「本文の内容は理解できましたか？」という質問に対し、約85パーセントの子どもが「ほぼできた」と答えており、重層的な読みを意識した授業の成果が出た。また、「筆者の説明の仕方を吟味したり筆者の主張の正当性などに着目して読むことができましたか？」という質問に対し、約85パーセントの子どもが「できた・どちらかといえばできた」と回答しており、批判的に読む力を身についたと考えられる。

●文章をより批判的に、かつ高いレベルで批判ができるように、立場を決めたら「あえて筆者を全否定しよう」というような働きかけをすることや、自分の考えを深めるためにも、教科書に載っていないAIに関する文章を用意すると良かったと指導者より助言をいただいた。今後も本文の教材研究を進めていくにあたり、必要であればプラスアルファの文章を用意することや、批判のレベルを上げるための働きかけを考えて授業を組み立てて行くことが必要である。

###### 【手立て②合目的な書きについて】

○どちらの文章の方が納得できるかについて自分の意見をまとめる際の条件の一つとして、「自分の書いた文章が筆者に読まれるという気持ちで書こう」と設定したことで、よりレベルの高い批判をすることに繋がった。

●自分の文章を書く際の条件として、字数の条件の設定が甘かった。文章中の表現を必ず引用することや「一方で」「対して」という言葉を必ず使用してなどの言葉や表現に関する条件を設定することでより合目的な書きの質を向上させていきたい。

## V 成果と課題

### 1 (成果)

#### 【重層的な読みについて】

(1)「重層的な読み」を行ったことにより、今までよりも、児童生徒の本文の内容の読み取りが向上したり、どういった点に気をつけて文章を読めばよいかを自覚して本文を読んだりすることができた。

- (2) 「重層的な読み」を繰り返すことにより、どんなことに気をつけて文章を読めばよいか、児童生徒が自覚できるようになった。読むたびに新たな発見があり、自分の今までの考えと比較して、友達と話し合うことを繰り返すことで、新しい考えにつなげる経験を重ねていくことができた。

【合目的な書きについて】

- (1) 合目的な書く活動を行ったことで何を書けばよいか分からないという児童生徒や、書くことに抵抗感を感じる児童生徒が減った。二つの実践でも、どの児童生徒も意欲的に文章にまとめる姿が見られた。
- (2) 以前より課題としていた、「書き出しに困っていた児童」に対して、何を書けばよいかを具体的に提示し、これから書く文章の構成（段落・字数・書き出しの表現など）をあらかじめ示すことにより、書くことに戸惑う児童生徒が少なくなった。

2 〈課題〉

【重層的な読みについて】

- (1) 授業と実践研究を通して、児童の文章の内容は質、量ともに高まったが、自信をもって自分の考えを発表することにはつながらなかった。考えを伝え合う、意見を認め合う機会を授業でもさらに増やし、児童生徒に自信をつけさせていくことが必要である。

【合目的な書きについて】

- (1) 書く際の条件設定に甘さが見られた。書く活動における「時間・条件・字数」を明確に提示する必要がある。また、「時間・条件・字数」も授業が進むごとにより難易度を上げていくことにより、児童生徒の書く力が向上すると考えられる。
- (2) 書くことについての児童生徒の抵抗は少なくなり、与えた時間当たりの文章量も増えてきたので、今後は文章の質を高めていくことを目指して指導を続けていく。単なる想像や利己的な考えに陥ることなく、叙述に即して自分の考えを書くこと、叙述を基に想像することを継続して指導していく。
- (3) 書く活動の機会（時間）を十分に確保すること、多様な書く行為（書き足しや書き換え等）を経験することが物理的に、時間的に難しかった。書き足し、書き換えを通して、児童生徒が読み手を意識し、構成の整った文章を書くことのできる力を今後も伸ばす必要がある。

## VI 引用・参考文献

樺山敏郎著（2022）『読解×記述 重層的な読みと合目的な書きの連動』

教育出版

文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編 東洋館出版

文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編 東洋館出版

専門研究

## 算数・数学科 専門研究部

研究主題

数学的な見方・考え方を働かせる授業展開の工夫

和田小学校

深山 公介

所沢中学校

小松 大祐

指導者 十文字学園女子大学

教授 日出間 均

担当指導主事

森谷 慎平

## 算数・数学科 専門研究員の研究によせて

十文字学園女子大学 教授 日出間 均

学習指導要領では、小学校算数科の目標を、「知識及び技能」「思考力・判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に基づき、その柱書に「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して」と示されています。つまり、この三つの柱は、数学的な見方・考え方と数学的活動とを相互に関連をもたせながら育成していくと解釈できます。その手立てとして主体的な学びを目指す「問いの連続」そして「学び合いの設定」があります。最終的に「言語化」を進めながら、「見方・考え方」の成長に繋げていくことが望まれます。まさに深山公介先生と小松大祐先生のお二人の授業が目指す視点であります。

まず、お二人の授業の共通している点は、「授業力」「学級経営力」それを支える「子供への愛情と理解」を備えていることです。特に導入における課題意識のたせ方は、見事であります。教師から出された発問に対して多くの児童生徒が自分の考えをつぶやいていたのが印象的であります。さらにそのつぶやきの中には、多くの「見方・考え方」が含まれておりました。主体的な授業を期待でき、問いの連続により進めることができていました。先生ご自身が再度振り返って、自分の授業分析を試み、成果と課題を明確にしてほしいです。「なぜ、そのように考えたのか」考える場面を大切にし、着眼点を価値付け、「今後、どのように課題解決していけばよいのか」まとめから広がる授業展開を期待したいです。

今後も、学び続ける教師を目指し、理論と実践に基づいた先進的な研究を進めてほしいです。また、研究授業を実施するにおいては、常に「何のためにこの教材はあるのか。本質は何か。この教材を通してどんな力をつけたいのか」など、「教材の価値」を意識しながら教材研究を進め、向上心をもって臨んでほしいです。

深山公介先生の「円と球」の授業であれば、子供たち一人一人の「円」との出会いを大切に、「なんて美しいのだろう」「美しさの秘密はどこにあるのだろう」「今までの図形とどこが違うのだろう」「身の回りには円がたくさんあります」「自分でもかいてみたい、作ってみたい」と知的好奇心あふれる出会いを大切にすることにより、多くの児童のつぶやきや願いが聞こえてくるのです。そして、その願いを叶えてあげることが、算数数学科が目指す「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりに繋がるのです。

小松大祐先生の「方程式」の授業においては、「どうして後からスタートしたのに追いつくのか」「追いつくってどういうことなのだろう」「もしかしていつも追いつくとは限らない」更には、「方程式を使わなくとも解決できそうだ」と自分事として問題場面向き合うことが大切です。

今回の学習指導要領の特徴として数学的な見方・考え方は、子供の内にあるものの見方・考え方であり、成長するものであると捉えられます。つまり以前より子供主体で捉えています。本研究では、見方・考え方を働かせるための手がかりとなる「問い」、「学び合い」そして「言語化」を効果的に学習活動の中に取り入れ、児童生徒一人一人の見方・考え方の成長を促していこうとする点が優れています。

継続は力なり。今後の研究の発展を祈念いたします。

## I 研究主題

「数学的な見方・考え方を働かせる授業展開の工夫」

## II 研究主題設定の理由

社会の変化を正確に予測することが困難なこれからの時代においては、主体的に社会に関わり、多様な人々との交流を通じて、新たな価値を創造し、人生や社会の未来を切り拓くことのできる力が求められている。そのような時代の中で、小学校では令和2年度、中学校では令和3年度より現行の学習指導要領が全面実施された。

また、平成28年12月21日の中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」では、「算数・数学の学習においては、『数学的な見方・考え方』を働かせながら、知識・技能を習得したり、習得した知識・技能を活用して探究したりすることにより、生きて働く知識となり、技能の習熟・熟達にもつながるとともに、より広い領域や複雑な事象を基に思考・判断・表現できる力が育成される」と述べられている。また、「算数・数学において育成を目指す『学びに向かう力・人間性等』についても、『数学的な見方・考え方』を通して社会や世界にどのように関わっていくかが大きく作用しており、『数学的な見方・考え方』は資質・能力の三つの柱である「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の全てに働くものである」とされている。

以上を鑑みて、本研究部では、研究主題を「数学的な見方・考え方を働かせる授業展開の工夫」とした。これまでも授業実践の様々な場面で数学的な見方・考え方を働かせるための指導法が工夫されてきたが、本研究部では、さらに焦点を絞り、①連続した「問い」の創造、②「学び合い」の中で見方・考え方をより効果的に発揮するための工夫、③自分の見方・考え方を表現するための「言語化」を中心に研究を進めていく。

## III 研究の内容と方法

### 1 研究の内容

#### (1) 連続した「問い」の創造

学習の中で何について学ぶのかという「問い」を児童生徒の疑問や気づきから創造していく。また、その「問い」を学んだことから発展させ、次時にはその「新たな問い」について学習していく。このように、問いが単元を貫くことを意識することで「連続性のある問い」を児童生徒と共に創造していく。

さらに、「問い」を明確にすることにより、学習内容の焦点化も図っていく。そして、児童生徒の気づきから創造することで、学ぶことの必要性や学習に対する主体性を引き出すことができるのではないかと考えた。学んだことから問いへと発展させる過程こそが、「数学的な見方・考え方」を働かせることにつながると思う。

(2) 「学び合い」の中で見方・考え方をより効果的に発揮するための工夫

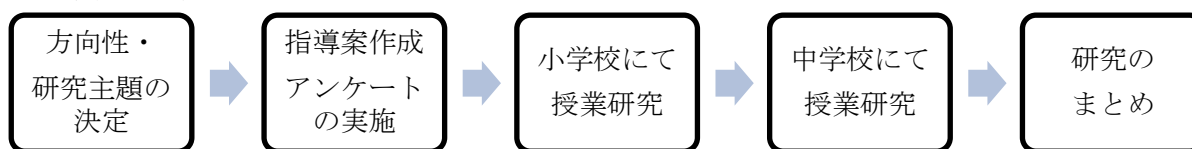
問題解決学習では「見通し」を持たせる学習過程が多くあるが、これのみが最適だといえるものではない。他にも様々な学習に向かわせるアプローチがある。今回の研究では、「よりよい自力解決」を目指すため、「まずは自分で解決に向かわせる」ことを基本とした。しかし、見通しの持てない児童生徒にとっては非常に難易度が高いものと考えられるため、難しいと感じている児童生徒には、教師とともに考える「学び合い」の場を設定することで、解決に向け自走できるように支援環境を整えていく。

授業の中で、児童生徒は様々な解き方・考え方について思考を巡らせていく。その考えこそがまさに「数学的な見方・考え方」だと考える。その見方・考え方を児童生徒相互に「学び合う」ことで、児童生徒の「数学的な見方・考え方」を広げ、深めることができるのではないかと考えた。

(3) 自分の見方・考え方を表現するための「言語化」

自力解決させる過程で自分の考えについて「言語化」をさせていく。学び合いをする中では、相手に自分の考えを説明することが必要になってくる。相手に伝えることを踏まえて言語化することが、「数学的な見方・考え方」をさらに深めていくと考えた。

## 2 研究の方法



## IV 実践事例

### 1 所沢市立和田小学校第3学年 算数科 単元名「まるい形を調べよう」

#### (1) 研究主題との関わり

本単元の指導にあたっては、まずは、既習の形の特徴や性質について考えさせる。その中で、「まるい形」の特徴については分からないことに気づかせ、学びの視点を与えることで「まるい形とはどのような形なのか」という問いを児童から引き出していく。

続いて「玉入ゲーム」の場面を提示し、その並びの不公平さから全員が等しい距離に並ぶことの必要性に気づかせる。そこから「どのように並べば全員が等しい距離に並べるのか」という「問い」を共有し、様々な考えを持たせる。その考えを基に実際に線を描き、12人の人物を並べる。出た意見の中から「どれが等しい距離に並べているのか」を検討することは、児童が「学び合う」ことができる学習活動になっていると考えられる。また学習の最後には、「まるい形」の特徴や性質について「言語化」しまとめ、円の定義や特徴を明確にしていくところまで取り組ませたい。また、「より丁寧な円を描きたい」という気持ちを持てるように授業を構成していく。

#### (2) 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・円の中心や半径、直径について、円に関連して球の直径などを理解し、それらを活用してコンパスで円をかいたり、等しい長さをはかり取ったり移したりすることができる。	・円や球を構成する要素に着目し、構成の仕方や身の回りのものに図形の性質がどのように活用されているかについて考え、説明している。	・円や既習の図形の作図を基に模様をかくなどの活動を通して、身の回りから円や球を見つけたり、図形のもつ美しさに関心をもったりしたことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

(3) 本時の目標

円の中心や半径の長さに着目して、円の構成の仕方や性質について考え、説明することができる。  
[思考力、判断力、表現力]

(4) 本時の展開

	学習活動(○) 予想される児童の反応(◆)	指導上の留意点(・) 評価の観点(●) 研究の視点(★)
導入 5分	<p>○形とその性質について考える。 ◆正方形は4つのかどがどれも直角。 ◆4つの辺の長さがどれも同じ。 ◆三角形は3つの辺で囲まれた形。 ◆長方形は、4つの角がどれも直角。 ◆まるい形ってどんな形なのかな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて まるい形はどんな形か考えよう。</p> </div>	<p>・具体物をもとに考えさせる。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>★各図形の性質について考える中で、「まるい」形の性質については知らないことに気づかせ、そこから「問い」に発展させる。 【連続性のある問い】</p> </div>
展開 30分	<p>○教科書の例示(一直線上に並んだ場合)について考える。 ◆端の人は入れられない。 ◆真ん中の人は近すぎる。 ◆みんなが同じになるように並ぶことができればいいのに。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>問題 玉入れゲームで、みんながかごから同じ長さになるには、どのようにすればよいか考えよう。</p> </div> <p>○かごからの長さが全員同じになるような並び方のアイデアについて考えさせる。 ◆まるい形に並ぶ。 ◆四角形の形に並ぶ。 ◆三角形の形に並ぶ。</p> <p>○アイデアを元に線を書いて12人を並ばせる。</p> <p>○かごから線までの長さに注目して話し合う。 ◆四角形だと角の人は遠いな。 ◆三角形もみんなが同じようには並べていないよ。</p>	<p>・玉入れゲームのルールの確認をする。 ・真ん中の人は近く、端の人は遠いことからそれぞれの条件が同じではないことに気づかせる。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>★どのように並べば条件が同じになるのか、アイデアを出させる。アイデアを出し合うことで見方・考え方を深めていく。 【学び合い】</p> </div> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>★ワークシートに自分の考えを書かせる。それをもとにどれが「かごからの長さが全員同じになるのか」について話し合う。 【学び合い】</p> </div> <p>・黒板にワークシートに書かせたものを出す。</p>

<p>まとめ 10分</p>	<p>○まるい形についてどのような形かを考える。  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「言語化」・「学び合い」</span></p> <p>◆かごからの長さがいつも同じ形。  ◆かどのない形。  ◆直線のない形。</p> <p>○出てきた考えについて視点を持って、整理分析する。</p> <p>○まるい形についての性質について整理分析したものの中からまとめについて考える。  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「言語化」・「学びあい」</span></p> <p>◆まるい形は、真ん中から線までの長さがいつも同じ形。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>まとめ まるい形は「                      」形。</p> </div> <p>○振り返りを書く。  ◆きれいな丸を書けるようになりたい。  ◆丸にはもっと他に特徴があるかもしれないから調べたい。</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>★整理分析の視点を基に「まるい形」の性質について考える。  視点1 「間違いない」  視点2 「可能性あり」  <span style="float: right;">【学び合い】</span></p> </div> <p>●円の中心や半径の長さに着目して、円の構成の仕方や性質について考え、説明している。  (思・判・表)  (観察・ノート)</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>★まとめが書けた児童から友達と交流し、フィードバックをもらう。  <span style="float: right;">【学び合い】</span></p> </div> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>★「リード文」を示し、考えるヒントとする。「まるい形は・・・形。」  <span style="float: right;">【言語化】</span></p> </div> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>★振り返りから次時の学習へとつなげていく。  <span style="float: right;">【連続性のある問い】</span></p> </div>
--------------------	---	--

2 所沢市立所沢中学校第1学年 数学科 単元名 「方程式」

(1) 研究主題との関わり

本時では、速さに関する2つの問題を連続して解決することを通して、方程式を用いて求めた解が問題に適しているかを考えていく。その過程で

- ・道のり、速さ、時間に着目して考えること。
- ・同じ場所にいるということは道のりが等しいこと。
- ・道のり・速さ・時間の関係から一元一次方程式をつくっていくこと。
- ・方程式の解が問題の答えとして適切であるか判断すること。

などの数学的な見方・考え方を問題や連続する発問、小グループによる指導を通して働かせられるようにしていく。

(2) 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"> <li>方程式の必要性和意味及び方程式の中の文字や解の意味を理解することができる。</li> <li>簡単な方程式、比例式を解くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>等式の性質を基にして、方程式を解く方法を考察し表現することができる。</li> <li>方程式、比例式を具体的な場面で活用することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>方程式のよさに気づいて粘り強く考え、方程式について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、方程式を活用した問題解決の過程をふり返って検討しようとしたりすることができる。</li> </ul>

(3) 本時の目標

速さに関する連続する問題を解決することを通して、方程式を用いて求めた解が問題に適しているかどうかを考え、説明することができる。 [思考力、判断力、表現力]

(4) 本時の展開

	学習活動(○) 予想される生徒の反応(◆)	指導上の留意点(・) 評価の観点(●) 研究の視点(★)
導入	<p>○本時で学習する内容をイメージする。 先にいる人を走って追いかけたり、逆に追いかけられたりしたことなどがあるか聞く。</p> <p style="text-align: center;"><b>【連続性のある問い】</b></p> <p><b>【めあて】</b> 方程式の解が問題に適しているか確かめよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道のり、速さ、時間の関係を本時で使うことを連想させる。</li> </ul>
展開	<p>○問題を把握する。</p> <p><b>【問題1】</b> 弟が、2 km離れた駅に向かって家を出発しました。 それから10分たって、姉が弟の忘れ物に気づき、自転車で同じ道を追いかけてました。 弟は分速80 m、姉は分速240 mで進むとすると、姉は出発してから何分後に弟に追いつきますか。</p>	<p><b>★見方・考え方を働かせるための発問</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家から駅までは、どのくらい離れている？</li> <li>姉と弟のどちらが家を早くでた？</li> <li>弟の速さは？ 姉の速さは？</li> <li>姉は何分後に追いついた？</li> <li>求めるものはなに？</li> <li>追いつくことってどういうこと？</li> </ul>
	<p>○わかっている数量を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆家と駅は2 km(2000 m)離れている。</li> <li>◆速度は弟が分速80 m、姉が分速240 m。</li> <li>◆時間は弟が10分長く歩いている。</li> <li>◆求めることは、姉が出発してから何分後に追いつくか。</li> </ul>	<p><b>★道のり・速さ・時間の関係を連想させる連続した問いにより、見方・考え方を働かせる。</b></p> <p><b>【連続性のある問い】</b></p>

○問題を解決するための見通しをもつ。

	速さ(m/min)	時間(分)	道のり(m)
弟	80	10+x	80(10+x)
姉	240	x	240x

- ◆ ・表を使う。 ・線分図を使う。
- ・何を文字で表すかを考える。
- ・等しい数量関係を見つける。
- ・数量関係を方程式で表す。

○自分なりの考え方で課題解決に取り組む。

◆式  $80(10+x)=240$   
 式  $800+80x=240x$   
 式  $800\div(240-80)=800\div160=5$   
 $\Rightarrow x=5$  5分後に追いつく

○方程式の解が問題にあっているか確認する。

◆ 姉  $240\times5=1200$   
 弟  $80\times15=1200$   
 2人とも同じだけの道のりを歩いているので、追いつくことができる。

○小グループでお互いの考え方を発表する。

○全体で発表する。 【学び合い】・【言語化】

・方程式を使う方法、使わない方法の両方を考えさせる。

★見通しが立たない生徒を小グループで集めデジタル教科書を活用し、自力解決に向けての支援を行う。  
【学び合い】

★小グループでお互いの考え方を発表する。  
【言語化】

○問題2を把握する。

**【問題2】**  
 問題1で、雨が降りそうだったので、弟が出発してから20分後に、兄が傘を持って、同じ道を分速280mで追いかけてきました。弟が駅に着くまでに、兄は弟に追いつくことができますか。

○自分なりの考え方で問題に取り組む。

◆ ・式  $80(x+20)=280x$  .....  $x=8$   
 ・兄が出発してから8分後に追いつく。  
 ・  $280\times8=2240$  の場所になるから弟が駅にたどり着くまでには追いつけない。

・立式から解を求めることまでを主とするのではなく、その後の解の吟味を重点的に行う。

★小グループでお互いの考え方を発表する。  
【言語化】

	<p>○求めた方程式の解が問題の答えとして適切であるか理由を含めて考察し、自分の言葉で説明する。 【学び合い】 【言語化】</p> <p>○方程式の解が問題にあっているか確認する。</p> <p>○問題2の確認を全体で行う。</p>	<p>●方程式の解が問題の答えとして適切であるか吟味し、説明している。 (思・判・表) (観察)</p> <p>・方程式の解が問題の答えとして適切であるかを理解させる。</p>
まとめ	<p>○本時をふり返り、わかったこと、気づいたことなどをまとめる。</p> <p style="text-align: center;">【言語化】・【連続性のある問い】</p>	<p style="text-align: center;">★ふり返りを自分の言葉でまとめる。 【言語化】</p>

## V 研究の成果

### 1 成果

#### (1) 連続性のある問いに関して

授業の導入で既習事項を取り上げ、本時の問題と比較することで、必然性のある「問い」が生まれ、1時間の授業内容の焦点化を図ることができた。

さらに、本時のまとめをした後、児童生徒から新たな疑問が生まれることがあった。円の中心を見つける学習では、円周に沿って2回折ることで、中心を見つけることができることを考え、学んだ。授業の終わりには、「実物がある場合には、この方法でいい。しかし、実物がなかった場合にはどのようにするべきか」といった疑問が出された。これこそが「連続性のある問い」であると考えられる。「問い」について研究することで、学んだこと・考えたことから新たな疑問へと発展させていく学びの風土が醸成されたと実感できた。

また、問いを研究することで、児童生徒がより深い思考をすることができると感じた。以下、問題把握の際の、生徒(中学校1年)とのやり取りである。

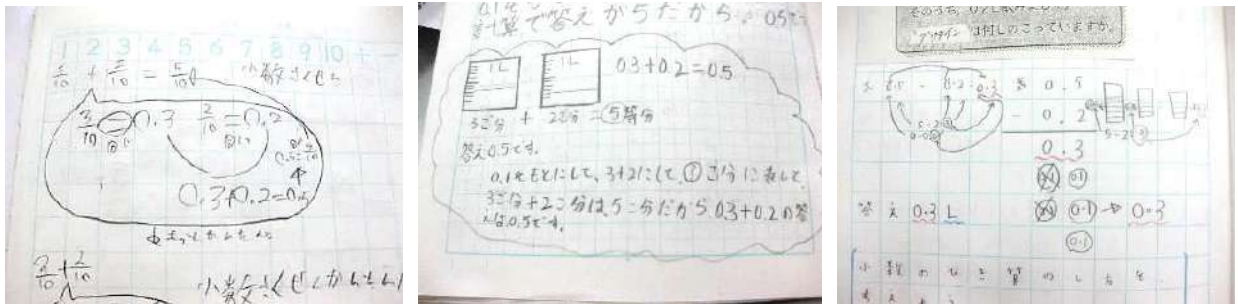
T: 「追いつくということはどういうことだろう？」  
 C: 「同じ位置にいる。」  
 T: 「同じって等しいってことだよな？何が等しいのだろう？」  
 C: 「進んだ道のりが等しい。」

生徒の問題に対する気づきから、主な考え方である「進んだ道のりが等しい」を引き出すことができた。普段、授業で行っている発問に、明確な意図を加えることで児童生徒の思考の深まりに結びついていく。

#### (2) 学び合いに関して

自分の考えを説明する機会や、いくつかある答えの求め方の中から「どれが最適か」という視点で学び合う機会を授業の中に多く取り入れた。その積み重ねにより児童生徒は、自分の考えを適切に説明することができるようになった。順序を表す言葉を用いて説明ができるようになったり、自分のノートを見せながら説明することができるようになったり、説明の仕方も学び方に合ったものを選択できるようになった。また、学び合いを意図的に学習に取り入れることで「相手意識」を持ちながら学習に取り組めるようになり、児童生徒のノートの記述を見ると、誰にでも伝わるように、分かりやすくまとめたり書くことができるようになってきたことも、学び合いの成果だといえる。

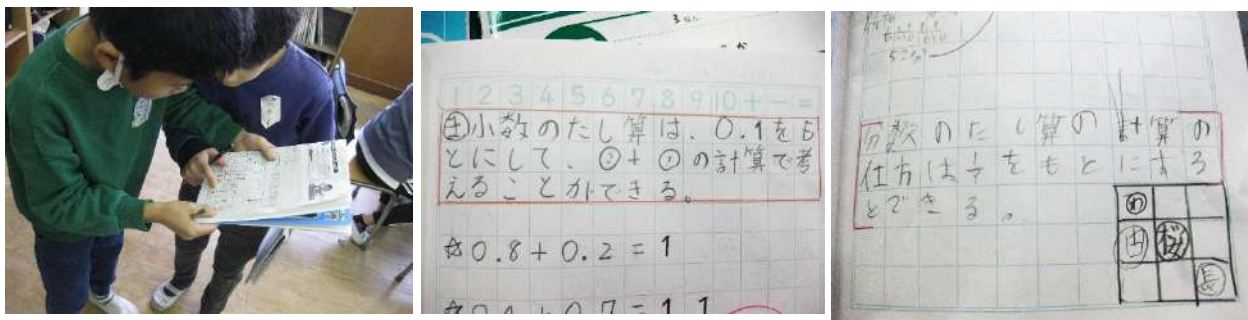
また、今回の研究では主に、「導入段階の考えを友だちと共有する」、「問題に対する考え方、解法の根拠を説明する」、「他のやり方がないか、十分に試行錯誤させる」を意識し授業を展開した。年度当初は、数学的な能力の高い一定の児童生徒が一方向的に説明をすることが多かったが、学び合いの中で生まれる「気づき」を取り上げることで、他の児童生徒から「すごい。」「その発想はなかった。」などの言葉をもらい、考え、表現する楽しさを感じられるようになった。また、どのように説明したら相手に伝わりやすいかなどの工夫もすることができ、学びをより深いものにすることができたと思う。



### (3) 言語化に関して

説明の場面以外でも言語化の手段として、学習のまとめを自分の言葉で書くことにも取り組んだ。また、言語化した後、児童生徒同士でフィードバックをする時間も設けることで、児童生徒が自分の言葉と向き合い、さらに質を高めようとすることができた。

以下の写真のとおり、児童によっては、まとめにおいて、学んだことを「一般化」することにも取り組み、どの場合でも活用ができるように「□」や、新たに浮かんだ疑問を表すために「？」といった記号を自発的に使うようになってきた。「このまとめだと、このような問題の時に生かせないけれどいいの?」、「このまとめにはキーワードが足りない。この言葉を入れた方がいい。」と発言する児童の様子が多く見られるようになったことも大きな成果である。



### (4) アンケートの結果より

4月当初と2学期末に研究主題に関わるにアンケートを実施した。その結果について考察する。以下に載せるアンケートは伸びが認められるものになる。左側が年度当初、右側が2学期末の結果となっている。

① 設問 「書いたものを見せながら説明することができるか」

(単位：%)

	6月	12月
説明することができる	28.6	62.5
どちらかといえば説明することができる	54.3	21.9
どちらかといえば説明することができない	14.3	12.5
説明することができない	2.8	3.1

授業の中に「学び合い」を取り入れ、児童生徒相互に自分の考えについて発表する機会を多く設けたことによる要因が大きいと考えられる。また、その取組が児童生徒の「より説明しやすいようにノートやタブレットにまとめる」という意識を高めていったように感じる。

② 設問 「算数の授業の内容はよく分かりますか」

(単位：%)

	6月	12月
よくわかる	51.4	68.8
よくわからない	48.6	31.2

これは、本研究の中で重視した「連続性のある問い」・「学び合い」・「言語化」の3つの柱によって、児童生徒が「数学的な見方・考え方」を働かせることができ、それが学習内容の理解の深まりにつながったといえることを証明している結果だと考えられる。

## 2 課題

### (1) 教材研究の追求

本研究について御指導いただいた日出間教授には「円の持つ美しさに触れて欲しい」と助言をいただいた。授業をする上で児童生徒が計算ができるようになったり、作図ができるようになったりすることはもちろん重要であるが、そこに傾倒しすぎてはいけないと考えさせられた。円には円の持つ「美しさ」があり、筆算には機能的な「美しさ」が存在する。そのような部分も含めて授業を展開することで、児童生徒は「数学的な見方・考え方」を働かせて学習に取り組めるようになるのではないかと考えられる。

児童生徒は授業の中で様々な「気づき」をする。小学校3年生での分数の授業では「仮分数」と「真分数」について学習するが、「帯分数」については学習しない。しかし、帰納的に「帯分数」を導き出した児童もいた。これまでは、教えることで児童生徒の混乱を招くのではないかと考え、「帯分数」については授業で触れることはしなかった。担任のである自分自身の「児童生徒はどのように考えるのか」という教材研究への追求心が不足していたことが原因であると考えられる。児童生徒がどのような思考をし、何に着目し、どう課題に取り組むのか、どうすれば「数学的な見方・考え方」を深め広げることができるのかを明確にして授業を展開していくことが課題である。

また、授業において見方・考え方を働かせ続けるためには、教師の意図的な働きかけが必要である。そのためには、1単位時間の学習内容だけでなく、既習事項はもちろんのこと、小・中学校の学習の系統性・連続性を意識し、児童生徒の見方・考え方がより深まるような手立てを多く用意しなければならない。さらには、授業の中で、ささやきや疑問などを見逃さずに取り上げ、そこから具体性を持たせ、課題につなげていくことにも、あくなき教材研究への準備と深い知識が必要であると感じる。

### (2) 学び合いの追求

「学び合い」は、児童生徒相互や教師とのコミュニケーションを促進し、理解を深めるために有効的な手段である。また、学び合いによって児童生徒は自己表現力や、協働して課題を解決する力等を身に付けていく。しかし、一方で他者の意見や視点を尊重できずに自分の考えだけを押し付ける形になってしまったり、見方・考え方を共有するのではなく、答えの出し方を伝えあったりするのみになる可能性があることを踏まえ、指導計画を意図的に作成する必要がある。

### (3) 言語化の追求

言語化の一つの手段として「学習のまとめを自分で書くこと」に取り組んできたが、児童生徒の言語感覚によって差異が生まれたことが課題として挙げられる。

学んだことから、自分で学習内容をまとめていき、そのまとめが学習内容に適しているのか児童生徒相互でフィードバックを行った。この活動は、集団のボトムアップには非常に適しており、友だちにまとめを見てもらい、アドバイスをもらうことで、より質の高いまとめを書くことができた。

しかし、数学的に高度なまとめを書く児童生徒のまとめは、他の児童生徒には理解されないということが起きてしまった。まとめを一般化させるために記号等を用いて書く児童生徒のまとめは、話し合った相手に理解されないということがあったので、今後は教員が適切な「視点」を示し、読み合う視点を児童生徒と共有することでまとめの充実が図られると考える。「一般化されているか」「学んだことのキーワードが入っているか」といった、思考の視点を学習内容に応じて、適切に示すことで言語化の充実を図っていく。

## VI 引用・参考文献

- 伊藤説朗（2008）算数科の未来型学力＝思考力・表現力を育てる授業 明治図書  
文部科学省（2017）小学校学習指導要領解説 算数編 東洋館出版社  
文部科学省（2017）中学校学習指導要領解説 数学編 東洋館出版社

専門研究

## 外国語活動・外国語科 専門研究部

研究主題

目的・状況・場面に応じて自分の思いや考えを  
表現できる児童の育成

～個別最適な学びと協働的な学びの工夫～

中央小学校

菅野 未緒

東所沢小学校

本橋 晴香

柳瀬小学校兼務

指導者 埼玉大学

教授 及川 賢

担当指導主事

清水 航

この報告書は、約半年に亘り、本橋晴香先生、菅野未緒先生、そして指導主事の清水航先生が小学校における外国語の授業の改善を目指して進めてこられた取り組みの記録です。まずは、お疲れ様でした、と申し上げたいと思います。

小学校の外国語を巡る状況はここ数年で大きく変化しています。まずは、外国語の開始学年がそれまでの5年生から3年生になった「低学年化」です。2019年度まで外国語は「外国語活動」として5、6年生のみが対象でしたが、2020年度から3、4年生が「外国語活動」、5、6年生が「外国語」として履修することになりました。それまで、全学年の3分の1だった外国語が3分の2になり、さらに、5、6年生は授業時数が年間70時間で、35時間の「外国語活動」の2倍になりました。この「低学年化」に伴い、より多くの先生方が外国語の授業に携わるようになりました。この点を踏まえて、3人の先生方は、より多くの先生が無理なく取り組める実践を模索してきました。そのヒントが本書には数多く示されています。

また、これに伴い、5、6年生の「外国語」が「教科」になりました（「教科化」）。外国語での体験が主眼であった「外国語活動」と異なり、「外国語」は学んだことを身に付けることが目的となりました。6年生を担当されている本橋先生の授業はこの教科化に対応する実践となっています。

また、2020年の新学習指導要領開始と同時に始まった新型コロナウイルス感染症によるパンデミックへの対応として、全国の児童生徒に一台ずつ端末が用意され、ICT化が急速に進みました。外国語科でもこの新たな環境に応じた実践が数多く報告されておりますが、本実践でもICTを積極的に利用し、児童の学習を効果的に進める工夫が提案されています。

2021年1月には「令和の日本型学校教育」に関する答申があり、現在、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指した教育が推進されています。「個別」と「協働」は一見すると相反する概念ですが、お二人の先生はICTを用いるなどさまざまな工夫をされて、これらを取り入れた見事な実践をなさいました。

毎回私が先生方の授業を拝見し、授業後に4人でその日の授業について、また、より良い外国語の授業とは何かについて、熱く議論しました。実に楽しく、有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

学校の先生方と行政、そして外部機関による授業改善を長期にわたり実施している自治体は極めて少ないと思います。所沢市様の取り組みが全国に広がることを祈念しております。

## 外国語活動・外国語科専門研究部

東所沢小学校・柳瀬小学校 本橋 晴香  
中央小学校 菅野 未緒

### I 研究主題

「目的・場面・状況に応じて自分の思いや考えを表現できる児童の育成  
～個別最適な学びと協働的な学びの工夫～」

### II 研究主題について

現行学習指導要領の実施から4年が経ち、小学校中学年の外国語活動、小学校高学年の外国語科の指導方法は小学校に浸透し、英語を専門としない小学校教員が授業をすることにも慣れてきたように感じる。様々な研修会を通して、実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う活動が「言語活動」であることを私たち教員が理解し、授業実践できるようになってきた。令和3年1月26日に出された中央教育審議会答申では、2020年代を通じて実現を目指す学校教育を「令和の日本型教育」とし、その姿として「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」の実現が提言された。そこで、目的・場面・状況に応じて自分の考えや思いを表現できる児童の育成のために、「個別最適な学びと協働的な学び」の視点で研究したいと思い、この主題・副題を設定した。また、「学習指導要領の趣旨の実現に向けた 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する 参考資料」（令和3年3月）では、「未来の社会を見据え、児童・生徒の資質・能力を育成するに当たっては、～中略～学習指導要領の趣旨を踏まえ、『個別最適な学び』と『協働的な学び』という観点から学習活動の充実の方向性を改めて捉え直し、これまで培われてきた工夫とともに、ICTの新たな可能性を指導に生かすことで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていくことが重要である」とも書かれている。実際に児童生徒の学習者用コンピューターを使用した授業も定着してきており、教師用デジタル教科書に加え、今年度からは文部科学省の実証事業として、小学校5・6年生全員に学習者用デジタル教科書が提供されている。これらICTを活用した「個別最適な学びと協働的な学び」を通して、自分の思いや考えを表現できる児童の育成に努めたいと考え、本主題を設定した。

### III 研究の内容と方法

#### 1 研究の内容

個別最適な学びと、協働的な学びを取り入れた授業を行い、目的・場面・状況に応じて自分の思いや考えを表現できる児童を育成する。

#### 2 研究方法

##### (1) 個別最適な学びと協働的な学びを取り入れた授業構成

・個人学習、ペア、4人グループ、一斉指導など学習の目的に応じた学習形態の工夫

##### (2) Small Talk の充実

・既習の表現や語句、本時で扱う言語材料などを意図的に織り交ぜる  
・学年や児童の実態に応じて、教師対児童、児童対児童などでのやりとりの機会の設定

##### (3) ICTを取り入れた授業

・Google Classroom、school Takt、Google Forms、教師用・学習者用デジタル教科書の活用  
・ワークシートの配布及び記入や授業の振り返りなどを各自のChromebookで行うことで必要に応じて、全体で共有する  
・児童が自宅で撮影した写真をGoogle Classroomに保存し、言語活動時に活用することで、児童自身の言葉に臨場感を持たせる  
・学習者用デジタル教科書や自作の音声教材で英語の表現を聞き、発音を練習したり内容を聞き取ったりする

- (4) 目的・場面・状況を意識した導入の工夫
- ・あまり話したことがないAETに、自分のことを知ってもらうために好きな色を紹介する会話場面の設定（中央小学校1年生で実施）
  - ・親善体育大会で他校の人と仲を深めるためにやってみたいスポーツを話し合う場面の設定（柳瀬小学校6年生で実施）
  - ・小学校でお世話になった先生方に成長ぶりをみてもらうために自分の将来の夢についてスピーチをするという場面の設定（柳瀬小学校6年生で実施）

## IV 実践事例

### 1 柳瀬小学校における実践 6年生 I have a dream. (Junior Sunshine 6 Lesson 9)

#### (1) 研究主題との関わり

この単元のゴールは「柳瀬小の先生に成長を見てもらうために英語で将来の夢を語る」と設定した。単元の1時間目にあたる本時の授業は自分の生き方・考え方を見つめるために、いろいろな子どもや大人の夢とその理由について聞く学習である。ただ聞くのではなく、要点を整理しながら聞くことで、自分のスピーチづくりに役立てる。このように単元のゴールや毎時間の目標に明確な目的・場面・状況を設定することで英語を使った活動がより深くなると考えた。また、本時の「聞くこと」が中心となる授業では、あらかじめ録音された音声を、児童がChromebookで個々にイヤホンで聞いて、周りの友達と共有・協力して聞き取ったり、自分の思い・考えを伝え合ったりする「個別最適な学びと協働的な学び」の視点を取り入れた。これらによって児童を一人として取り残さず、高め合える学びとなると考えた。

#### (2) 単元の目標

柳瀬小の先生方に、考え方や英語力などの6年間での成長を見てもらうために、自分の夢やその理由などを英語で発表する。

#### (3) 学習指導要領における5つの領域ごとの目標との関連

##### 【聞くこと（ウ）】

ゆっくりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができる。

##### 【話すこと〔発表〕（イ）】

自分のことについて伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

#### (4) 単元の評価基準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<p>&lt;知識&gt;職業の言い方や“What do you want to be?” “I want to be a ~.”の尋ね方や答え方について理解している。</p> <p>&lt;技能&gt;将来の夢や理由などを含む話の概要を捉える技能を身に付けている。</p>	<p>話し手のことをよく知るために、将来の夢やなりたい理由などを含む話の概要を聞き取っている。</p>	<p>話し手のことをよく知るために、将来の夢やなりたい理由などを含む話の概要を聞き取ろうとしている。</p>
話すこと・発表	<p>&lt;知識&gt;職業の言い方や“What do you want to be?” “I want to be a ~.”の尋ね方や答え方について理解している。</p> <p>&lt;技能&gt;職業の言い方や“What do you want to be?” “I want to be a ~.”などの表現を用いて自分の考えや気持ちなどを含めて話す技能を身に付けている。</p>	<p>柳瀬小の先生たちに今の自分のことをよく知ってもらうために、自分の将来の夢やそれになりたい理由などについて、自分の考えや気持ちなどを含めて話している。</p>	<p>柳瀬小の先生たちに今の自分のことをよく知ってもらうために、自分の将来の夢やそれになりたい理由などについて、自分の考えや気持ちなどを含めて話そうとしている。</p>

(5) 単元計画

時	■目標 (内容は省略)	評 価		
		知	思	主
1 本時	■いろいろな人の将来の夢に触れ、自分の将来について考える。			聞
2	■友達と夢についてたずね合える。		※	
3	■将来の夢について理由を加えて言える。		※	
4	■将来の夢とその理由をたずね合える。		※	
5	■将来の夢とその理由について書ける。		※	
6	■将来の夢のスピーチに向けて準備する。	聞	聞	聞
7	■将来の夢のスピーチを作る。		※	
8	■将来の夢のスピーチを完成、練習する。		※	
9	■柳瀬小の先生方に自分の将来の夢をスピーチしよう。	話	話	話

※学習を積み重ねていく中で、徐々に身についていくという外国語との特性から、記録に残す評価の場面は、単元計画の中盤以降に設定をしているが、ねらいに即して児童の活動の状況を確認に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないよう十分留意する。

※「主体的に学習に取り組む態度」は「思考・判断・表現」と一体的に評価することができるという考え方から、「思考力、判断力、表現力等」を発揮させる言語活動において、相手に配慮しながらコミュニケーションを図ろうとしている状況の評価する。

(6) 本時の学習

本時の目標 自分の将来について考えるために、いろいろな人の将来の夢についての話を聞き、理解することができる。

本時の展開 (1/9)

時間	児童の活動や学習内容	・指導上の留意点 ◎評価<方法>
2分	(授業前に職業チャンツを流しておく) ①あいさつ ・全体、ペアであいさつする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気分、天気、曜日、日付について英語でたずねる。</li> <li>・職業名を当てるクイズを3問出す</li> <li>・時間をかけずにいくつか出す。</li> <li>・本時の内容に近づけていく。</li> <li>・先生と児童のやりとりで単元・本時の目標に近づける。</li> </ul>
5分	②Warm Up (スリーヒントクイズ) ③知っている英語の職業名を出し合う。 ④Small Talk ・T1 や友達の話の聞いたり答えたりする。	
<p>T : There are many jobs, a teacher, a doctor, a cook, a pilot and so on. Everyone, do you have any dreams? S : Yes. / No. T : What is your dream ? S1 : Soccer player. T : Nice dream. Why? S1 : I like soccer. T : Good. How about you? S2 : うーん...。 T : O.K. ○○さん。まだ決まってない人もいて当然だよ。 How about you ? ※何人かに夢とその理由を繰り返し聞く。 T : Everyone, make pair and ask each other, "what is your dream"? S : What is your dream? S : Nurse. ※全員が隣の人と夢を尋ね合う。</p>		

⑤単元・本時の目標の提示

**本時の目標**

いろいろな人の将来の夢を聞き、自分の将来について考えよう。

3分

⑥Let's Listen 1

・和矢とハンナの会話を聞く。

3分

⑦Let's Listen 2

・外国の子どもたちの話を聞く。

3分

⑧「大人の夢」について

・専科教諭と外国語支援員の夢についての会話を聞く。

15分

⑨3人の先生方の夢を聞いてメモを取る。(VTR)  
(6-1担任、6-2担任、AET)

・職業名を聞き取ればよい。  
・将来の夢について聞き、好きなことが夢のきっかけになることに気付かせる。

<専科教諭と外国語支援員との Small Talk>

T1 : 大人も夢はあるかな？美和先生に聞いてみよう。Do you have any dreams, Miwa sensei?

T2 : Yes, I do. My dream is a pastry chef.

T1 : A pastry chef? ケーキ屋さん？ Nice dream. Why?

T2 : I like cake very much. And I want to make people happy to eat my cake.

T1 : Wow! Good idea. I want to eat Miwa sensei's cake.

T2 : What is your dream, Ms. Motohashi?

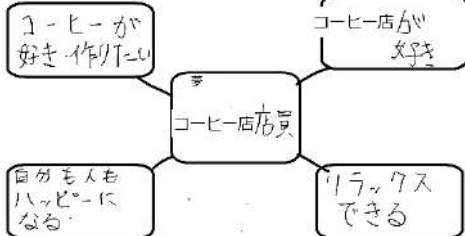
T1 : My dream is a traveler. I want to travel around the world.世界中。 And I want to tell people 人々に伝えたい。 good Japanese places, delicious Japanese food, and so on.

T2 : Sounds fun.

T1 : Yes. I want people around the world to know about Japan.

T2 : Wonderful.

( K 先生 ) の夢



( W 先生 ) の夢



児童のマッピングメモ



個人でイヤホンで聞く学習



メモした内容を共有する様子

7分

- ⑩絵を見て何を表現しているか予想する。
- ・ツバルの13歳の男の子の夢だと伝え、感想を述べる。

- ・自分たちと同世代の外国の子どもの夢や考えていることを聞き、夢について考えを深められるようにする。

◎「聞くこと」の記録に残す評価（⑨・⑩で評価）  
話し手のことをよく知るために、将来の夢や、なりたい理由などを含む話の概要を聞き取ろうとしている。〈行動観察〉

3分

- ⑪再度、夢について教師とやりとりする。
- ・今回は理由も聞いてみる。

- ・再び夢について尋ねる。理由は日本語でもよい。授業の始めと違う答えや深い理由が返ってくることも予想される。

4分

- ⑫本時の活動の振り返りをする。
- ・振り返りを記入する。
- ・数名がふりかえりを発表する。

- ・school Taktに振り返りを記入する。
- ・教師から本時の児童の取り組みについて話す。

⑬挨拶をする。

児童の振り返り記述（school Takt）

1回目

みんな、自分の好きなことを、夢にしていた。「I like」を使っていた。

1回目

好きなものを将来の夢にしている人が多かった。先生たちの新たな一面をしくて面白かった。

1回目

最後に十三歳の子が地球温暖化について考えていていいなと思った

1回目

他の人の夢を聞き取れました。将来の自分の夢も言えました。〇〇になりたいだけでなく、こうしたいなどの夢もいいと思いました。

1回目

他の人の夢をあまり聞き取れなかったけど、なぜその夢なのかを考える事ができた。

1回目

色々な人の夢を聞き取ることができた。いろんな職業などの言い方がわかった。英語で自分の思ったことを伝えられるようになりたいと思った。

(7) 研究協議・及川教授からの御指導

- ・単元の導入場面だったので「聞くこと」中心のインプット中心の授業であったが、受け身のインプットではなく、能動的なインプットであった。それは、児童が聞く目的を理解し、内容を整理しながら聞くためのマッピング式メモの工夫があったのがよかった。
- ・少しずつ文が増え内容も深くなっていく別の人の夢を何度も聞くが「個人で聞いて、友達と共有する」のパターンが同じであるので、児童は安心してチャレンジしていった。
- ・児童は一人一人自分のペースで、途中止めたり、何回も聞いたりする個別最適の学びができていた。また、個別で聞いた内容を友人と共有する時間はみんなで助け合いながら考える協働的な学びもあった。
- ・学習していない単語も含まれたが「前後の内容から推測してみよう」という先生の声掛けが中学英語につながるのよかった。
- ・児童用 PC でのマッピングメモは他の児童と共有できてよい。
- ・今回での「聞く」活動でのマッピングメモは、自分がスピーチを作るときの内容や構成の考え方のトレーニングにつながるメモであったので効果的であった。

2 中央小学校における実践 1年生 「すきないろをえいごでつたえよう！」

(1) 研究主題との関わり

本単元では、小学校低学年で行う外国語活動という点で、次のことに配慮しながら授業を進めていく。一つ目は、音の強弱やリズム、体の動きを使って英語に慣れ親しませるということである。無理にアウトプットさせるのではなく、聞こえた単語などを自然と声に出して表現できるような指導をしていきたい。二つ目は、本研究のテーマである「個別最適な学び」と「協働的な学び」を取り入れ、児童の理解がより深まるような授業の工夫をすることである。デジタル教材を使用して個別で学ぶ時間、ペアでやりとりをする時間、一斉に学ぶ時間をバランスよく組み合わせることで、色を表す英語により慣れ親しませるようにしていきたい。

(2) 単元の目標

AETや友達に自分のことをよく知ってもらうために、色を表す英語の表現を使って、自分の好きな色を紹介する。

(3) 言語材料

- ・色 (red, blue, yellow, pink, green, purple, orange, black, white)
- ・I like~.
- ・How about you?

(4) 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	色を表す英語の表現を聞くことに慣れ親しんでいる。		
話すこと(や)	色を表す英語の表現を話すことに慣れ親しんでいる。	色を表す英語を使って、自分の好きな色を相手に話している。	色を表す英語を使って、自分の好きな色を相手に話そうとしている。

記録を残す計画で指導案を作成したが、低学年の外国語活動は、インプットすることが中心の学習活動となるため、形成的評価でもよいと御指導をいただき、授業では形成的評価で留めている。

(5) 単元計画 (2時間扱い)


時	■目標 (内容は省略)	評 価		
		知	思	主
1	■色の言い方を知り、その言い方に慣れ親しむ。	聞		
2 本時	■自分の好きな色の言い方を知り、友達や先生に伝える。	や	や	や

(6) 本時の学習

本時の目標 A E Tや友達に自分の好きな色を伝えるために、色を表す英語を使って、自分の好きな色を話している。

本時の展開 (2 / 2)

時間	○児童の活動	・指導者の活動 ◎評価<方法>	準備物
1分	○Greeting	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体に挨拶し、今の気分を伝え合う。</li> </ul>	絵カ デ教
3分	○Let's Sing		
1分	○本時のめあてを確認する。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;"> <p>T : この前の授業で、ネイサン先生が好きな色を教えてくださいよね。                      S : 黒と青が好きって教えてくださいよ。                      AET : Yes. I like blue and black. What color do you like?                      S : Red!                      S : I like blue.                      AET : OK! Please tell me your favorite color.                      T : 今日は自分の好きな色をネイサン先生にも伝えてみよう!</p> </div>			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 60%;"> <p>じぶんのすきないろをえいごでいってみよう!</p> </div>			
5分	○Color Touching Game ・色の名前を聞いて、言われた色をリピートしながらその色のカードに触れる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは全体で色の言い方を確認する。</li> <li>・何度も聞いたり声に出したりして、色の言い方に親しませる。</li> </ul>	デ教 絵カ
10分	○Small Talk	T1 : I like Sushi. I like red! ネイサン先生、Do you like red? AET : I don't like red. I like black. T1 : That's right. You like black. T1 : (タブレットの画面を指さして) What's this? ○○さん。 S1 : お気に入りのぬいぐるみ! T1 : Oh! This is green. Do you like green? S1 : I like green. T1 : That's right. You like green. (同じやり取りを何人かとする。)	デ教
20分	○自分の好きな色を友達や先生に伝えよう! ・3つのグループになり、自分の好きな色を「I like～」で伝える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・I like～の表現を用いて会話ができるよう声掛けをする。</li> <li>・色だけでなく、タブレットを見せながら自分の好きな物を紹介しても良いことを伝える。</li> </ul>	デ教

1分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童は3つのグループに分かれて行う。</li> <li>・それぞれのグループに担任、AET、校長先生が分かれ、Do you like~? と質問する。</li> <li>・児童はタブレットの写真を見せながら I like~.の表現を使って答える。</li> <li>・5分ごとに教員が各グループをローテーションする。</li> </ul> <p>○本時の活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートに書く。</li> <li>・気づきや思いを友達と伝え合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間指導では、何組かのペアを発表させ、よかったところを称賛したり、言い方がわからない言葉を全体で確認したりする。</li> </ul> <div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの内容について、自分や友達の輝きを発表することで、伝え合う喜びを分かち合えるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◎「話すこと（や）」の形成的評価 色を表す英語を使って、自分の好きな色を相手に話している。&lt;行動観察、発言、振り返りシート&gt;</p> </div>
----	--	---

(7) 研究協議・及川教授からの御指導

- ・インプットをたくさんさせることで、無理なく英語表現に親しむことができた。
- ・歌やチャンツなどで、無理なく英語を声に出すことができた。
- ・目的・場面・状況をより身近なものに設定することで、児童の学習意欲が上がり「AETに自分の好きな色を伝える」というめあてを全員が達成することができた。
- ・自分が撮ってきた写真を活用するなど、ICTを活用した授業を行うことにより児童の意欲を高めることができた。
- ・低学年の外国語活動だが、協働的な学びと個別最適な学びを組み合わせることによって、児童全員が個人対個人で自分の伝えたいことを英語で伝えることができた。
- ・タブレットの使い方については考える必要がある。タブレットを触ってしまったたり、画面に気を取られたりして授業に集中できない場面があった。
- ・全体で英語表現などをしっかりインプットさせる時間を設けることも必要。
- ・自分が会話をする時間以外の時間は何をさせるかを考える必要がある。
- ・日本語での説明を減らすことが大事。ジェスチャーなども用いて、英語での説明を多くすると良い。

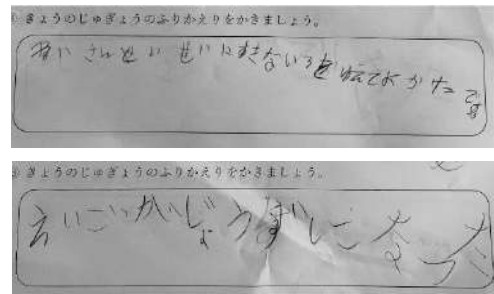
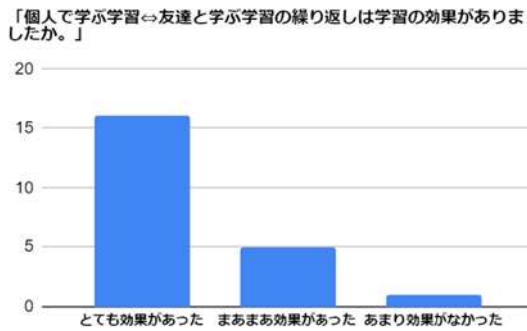
## Ⅴ 成果と課題

### 1 研究の成果

#### (1) 個別最適な学びと協働的な学びを取り入れた授業構成

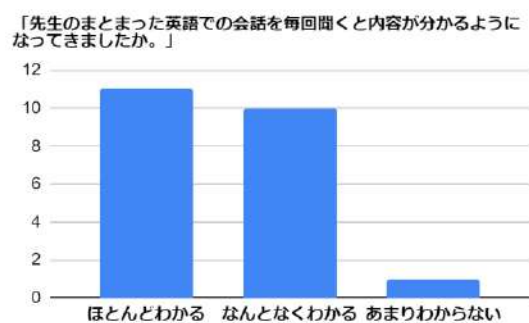
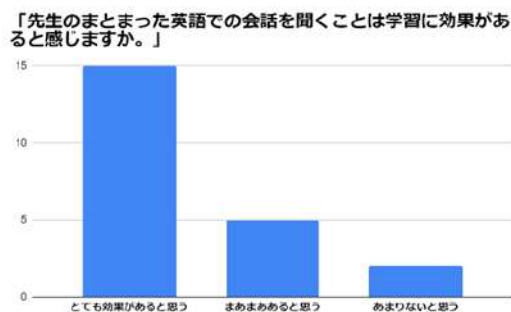
個別最適な学びと協働的な学びを取り入れた授業構成をすることについて授業実施クラスで1月にアンケートを取ったところ、個人で学ぶことと友達と学ぶことの繰り返しの学習の効果がとてもある・まあまああると答えた児童は95.4%で、具体的な児童の記述には、「緊張がなくなって、言いたいことが言えることになった」や「グループで学習することで自分になかったアイデアが出てくる」など、児童が自信を持てるようになったり、考えをより深められるようになったりしたということが、児童観察や児童の振り返りから分かった。低学年では、低学年では、「ネイサンせんせいにすきなことをいえてよかったです」という記述が見られ、英語表現に触れる楽しさを味わわせること、高学年では、自分の考えや思いを英語で表現し、他者の考えや思いを聞き、学びを深めるために、個人

で学ぶ時間と一斉に学ぶ時間を取り入れていくことが重要であると実感することができた。



## (2) Small Talk の充実

低学年では、誰もが聞いたことのある色、動物などの身近な英語表現を題材にして、より多くの言葉を教員から聞かせ、英語表現をインプットさせることを中心とした Small Talk を行った。教員から聞いた言葉を自然と口に出して言えるような Small Talk を繰り返すことで、「先生の真似をして言ってみたら、自分の英語が相手に伝わった。」などの成功体験を積み、自信をつけさせることができた。高学年では単元の内容に関わる Small Talk を行うが、児童の身近なもの、知っていることから徐々に新出事項に迫っていき、児童は気づいたら英語を聞いて理解できていたと思えるように工夫した。また、学習していない英語表現を用いるときは、その表現の前後の文脈を簡単な英語で丁寧に話すことで児童が文脈から推測する力もつけられるように実践してきた。はじめは教師からたっぷり聞かせ、児童が内容を把握してきたと感じられたら、教師から児童に質問し答えさせる。さらに、児童の答えにプラス1文質問をしてやりとりしたり、児童の答えを取り上げ、また別の児童に尋ねたりするなど、児童と児童をつなぎ、最終的には児童間での Small Talk となるように段階を踏んで発展的な Small Talk を実施してきた。1月のアンケートでは、90.9%が先生のまとまった英語での会話を聞くことは学習に効果がある・まあまあ効果があると答え、さらに先生のまとまった英語での会話を毎回聞くと内容が分かるようになってきた・まあまあわかるようになってきたと答えた児童が95.5%であった。「将来の夢」を扱った授業後の感想では、「いろいろな人の夢を理解することができた」「違う国の人の夢も分かった」「なぜ、その夢を抱いているのか理由が分かった」等、聞いたことを踏まえ、内容を推測し、理解に繋げることができたという記述が多く、Small Talk を通して内容理解の充実も図ることができた。



## (3) ICTを取り入れた授業

低学年では、自分の好きな色を紹介するために、児童が自宅で撮影した写真を Google Classroom に保存し、授業で共有して Small Talk などの活動を行った。写真で実物を見せながら言語活動を行うことにより、児童がより意欲的に授業に参加することができた。また、色だけでなく、自分以外の友達の好きな物についても、より興味をもって聞くことができ、友達のことについてよく知るきっかけとなった。

本研究の実践を行った学級の児童へのアンケート結果では、学習者用デジタル教科書について「学習に効果的・やや効果的」と答えた児童が100%、イヤホンを使って個人で学ぶことが「学習に効果的・やや効果的」と答えた児童が100%であり、児童自身もICTの使用・イヤホンでの個別の学びが学習に効果があると感じていると分かっ

た。所沢市ICT支援員の協力を得て作成した school Takt での振り返りシートは児童が授業の振り返りを毎回入力し自分の学習の積み重ねを把握できたり、教員が一覧表にして見られたりするので便利であった。また、school Takt でのワークシートは記入した後の追記や修正も簡単であり、席が遠い友達作品を移動せずに見たりコメントし合ったりできた。イヤホンで音声を個々に、聞きたい部分を何度でも聞けることで、児童がわからないままの状態がなくなり各自の力を伸ばすことができた。ただし、ICTはあくまでツールの一つとして、メリットを生かし有効に活用していきたい。

#### (4) 目的・場面・状況を意識した導入の工夫

低学年では、あまり話したことのないAETに、自分のことを知ってもらうために好きな色を紹介する会話場面を設定した。1年生にとって、AETと会話することは初めての経験であったが、授業の導入でAETからのメッセージ動画を流したり、実際に授業に入ってもらい、一緒に発音練習をしたりすることで、児童に自分のことを知ってもらいたいという気持ちにさせることができた。また、AETと英語で会話することができたという経験が、児童に自信を持たせることにつながった。

高学年では、児童の生活、学校行事、日常で接する相手など、児童が身近に感じられる物事を用いて目的・場面・状況を設定した。題材は無理に見つけようとしなくても、身の周りにあることもわかった。また目的・場面・状況を細かく設定することで、児童が学習に取り組みやすくなり、言語活動において会話量が増えたり、内容がより深いものになったりした。また、細かい設定にすると児童が自分自身を見つめ、自分の気持ち・考えについて悩み、友達の意見を聞きたくなるようであった。英語で言いたいけれど言えないことが増えたので、知識が増えるチャンスともなった。

## 2 研究の課題

今回、4つの内容に沿って研究テーマに迫る授業を行い、多くの成果を得ることができた。その中で、一番課題が多いのはICTを取り入れた授業についてである。

特に、低学年における児童用タブレットの活用の仕方については、児童の実態によって使用方法を試行したり、他校の実践例を参考にしたりしていく必要がある。低学年はタイピングができないため、活用方法の範囲が狭いと感じた。今後も、音声入力したり、指で触って移動させたり、写真を撮って保存したり等、児童の発達段階に応じて、できることから、より効果的な学習法を模索していきたい。高学年は、ある程度使いこなせるようになってきたので、多様な使用方法を今後も探していきたい。また、外国語のスピーチにおいて資料作成の際にも Chromebook を使用しているが、より相手に伝わりやすい効果的な補助資料の工夫にも折に触れて指導していきたい。

そして Google Classroom、school Takt、Google Forms、教師用・学習者用デジタル教科書などのICTを使うと児童の学びに効果があるが、校内、市内での使用には差があるように感じる。まずは先生方が使いたくなるように、今回私たちが学んだ使用方法や使用のメリットをお伝えしていきたい。タブレットとネットワークがあれば、日本国内だけでなく、世界とつながった学習も可能である。更に有効な方法を研究していきたい。

## VI 参考文献

- ・文部科学省（平成29年）「小学校学習指導要領解説 外国語編」（関東図書株式会社）
- ・文部科学省（平成29年）「中学校学習指導要領解説 外国語編」（関東図書株式会社）
- ・国立教育政策研究所（令和2年）「「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」（東洋館出版社）
- ・埼玉県（令和2年）「埼玉県小学校教育課程指導・評価資料」（関東図書株式会社）
- ・埼玉県（令和4年）「埼玉県小学校教育課程実践事例」（関東図書株式会社）

専門研究

## 道徳科 専門研究部

研究主題

心の宝箱をいっぱいにし、未来につなげる  
児童生徒の育成

牛沼小学校

楯 菜都子

中央中学校

田中 千尋

指導者 東京家政大学

特任准教授 鈴木 邦夫

担当指導主事

鈴木 進也

## 「道徳科専門研究員の研究によせて」

東京家政大学 特任准教授 鈴木邦夫

今年度、小学校では道徳の時間が「特別の教科 道徳」になり6年目を迎えました。現行学習指導要領を用いる期間を全面改定から10年と考えると、後半に突入したわけです。この間、コロナ禍による一斉学校休校や授業時の会話の縮小など、学校教育の根幹を損ないかねない事態が生じた時期がありました。しかし、GIGA スクール構想のもと一人一台端末が導入され ICT 活用の日常化しつつあります。読み取り道徳と揶揄された授業方式も改善され、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習等を取り入れる工夫など積極的に行われるようにもなりました。また、令和3年の「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)に示された個別指導、個別学習、協働的な学びは道徳科の授業展開の本質に関わる部分であり、ICTの活用も含め授業改善が求められています。令和5年6月には、新たな「教育振興基本計画」が公表され、そのコンセプトの一つに幸せや生きがいを感じられる教育の推進とも言える「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」、目標の2には「豊かな心の育成」道徳教育の推進が掲げられました。一方、令和5年10月に文部科学省が公表した昨年度、全国の小中学校で30日以上欠席した不登校の児童・生徒の数はおよそ29万9千人。過去最多を更新する深刻な事態に至っており、その対応は急務です。

そのような中、今日的諸課題を踏まえ、今年度の道徳科専門研究員である牛沼小学校 楯 菜都子先生、中央中学校 田中千尋先生の研究成果をここに報告できる運びとなりました。研究主題を「心の宝箱をいっぱいにし、未来につなげる児童生徒の育成」として一年間の研究に取り組まれました。「宝」とは、主体的・対話的で深い学びの実践を通して、児童生徒が到達した納得解です。友達と学び合い切磋琢磨した「宝」の感得を目指す実践とも言えます。

本研究のすばらしさは、指導過程に「対話」の際、「多面的・多角的」に思考する手段を明確にし、深まりや広がりをもたせて自分事として、生き方を見つめる視点を明確にされたこと。「多面的・多角的」な思考とそれらを自分事として自己を見つめ、生き方に反映し自分にあつたこれからの生き方を考える展開を工夫されたことが挙げられます。学習指導要領やその解説書は、指導の内容と方向性を示したものであり、本来、各地各校の児童の実態に応じて指導方法は工夫されるべきものです。教科化により教科書を用いた道徳科授業が着実に実施されるようになった反面、教科書の教師用指導参考書に頼りがちになってはいないでしょうか。道徳科授業の質的な向上が求められている中、市や自校の児童生徒の実態に応じた指導の工夫を、「宝箱」の比喻と二つの手立てを用いてわかりやすく示したことに本研究の意義があります。

この一年間、お二人はこれまでの多くの実践を参考に、道徳科専門研究員にふさわしい提案に挑戦されました。所沢市の教育方針に「子どもたちが未来へ主体的に歩む土台を築きます」とあるように、市内の先生方が本研究を積極的に活用され、児童生徒の学びの土台とも言える道徳性を培うことを願って止みません。

## I 研究主題

「心の宝箱をいっぱいにし、未来につなげる児童生徒の育成」

## II 研究主題について

令和3年度実施の「道徳教育実施状況調査」では、右図のとおり「小・中学校ともに半数を超える学校が、『議論して考えを深める』、『多面的・多角的に考える』、『道徳的価値の理解を自分との関わりで深める』ための指導に課題を感じている。」という結果が公表されている。



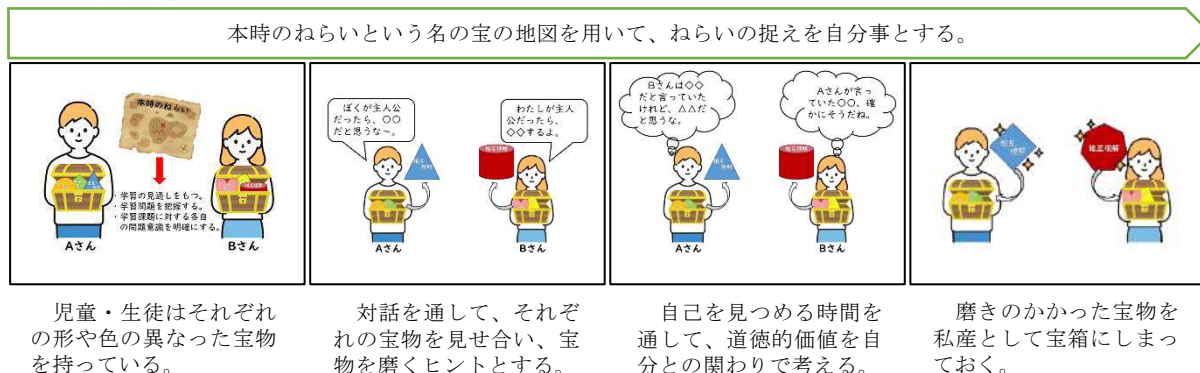
本研究では「児童生徒の道徳的価値観」＝「宝物」とした。児童生徒のもつ「宝物」は、まだ磨き切れておらず、よいところも足りないところも内包している。その「宝物」により磨きをかけ、「宝箱（＝自分で考えたり、多様な考えに触れたりした後で、納得解をしまっておく箱）」を磨き上げた宝物でいっぱいにし、未来への私産（道徳性）にしてほしいという願いが込められている。磨き上げるためには、「対話」と「自己を見つめる」学習活動が必要であると考えた。その中で様々な宝物に触れ、自身の宝物について磨き上げることのできる授業こそが重要であると捉え、本主題を設定した。

## III 研究の内容と方法

### 1 研究仮説

- (1) 仮説1 教師が授業の「ねらいを明確にする」ことで、宝物に磨きをかける次の「対話」「自己を見つめる」を充実させることができる。
- (2) 仮説2 「対話」を行うことで、多様な考えに触れることができ、自分にあつたこれからの生き方を考えるもととなる。
- (3) 仮説3 道徳的価値を自分との関わりで捉え、自分のこととして考えたり、振り返ったりすることで、「自己を見つめる」児童生徒を育成することができる。

### 2 研究構想



## IV 実践事例

### 1 実践した方策について

#### (1) 宝物に磨きをかけるための「ねらい」の方策

本時の授業で考えさせたいこと・気付かせたいことをねらいで具体的に示す。授業者のねらいの示し方は、授業の改善・充実のために大変重要である。ねらいが明確であることで、「対話」や「自己を見つめる時間」を充実させることができ、児童生徒の宝物により磨きがかかると考えた。次のポイントをおさえ、指導の意図を明確に示すとよい。

<A>を通して<B>に気づき（を理解し）<C>を育てる（高める、養う）。

<A>…<B>のための中心的な学習活動。

<B>…本時の授業で理解を深めさせたいことは何か。

<C>…授業を通して育成を目指す道德性の諸様相。

#### ◆明確な狙いに基づく授業の結果としての児童生徒の記述

**事例1** 臓器提供という現代的な課題を通して、生命の尊さを深く理解し、自他の生命をかけがえのないものとして尊重しようとする判断力を育てる。（出典：日本文教出版「あすを生きる③」より）

弟	が	5	年	前	？	く	ら	い	に	う	ま	れ	て	。	自	分	は	立	ち
あ	い	と	せ	て	も	ら	え	な	か	。	た	け	ど	。	そ	の	あ	と	に
初	め	て	顔	を	合	わ	せ	て	思	っ	て	い	た	よ	り	も	ち	っ	ち
キ	く	て	。	「	こ	れ	が	赤	ち	ゃ	ん	か	」	。	て	思	っ	た	。
弟	が	寝	て	る	時	。	手	の	平	に	小	指	も	置	く	と	に	ど	。
て	く	れ	た	あ	の	と	き	も	思	い	出	す	と	。	心	が	温	か	く
な	る	。																	

弟の手のぬくもりから他者の命の大切さを感じ、自分もまた周囲の人々によって生かされていることに気づいた記述が見られた。

**事例2** ピエロの中からサムを憎む気持ちが無くなった理由を考える学習を通して、相手の思いや考えを尊重することの大切さについての考えを深め、相手の立場に立って広い心で接していこうとする心情を育てる。（出典：Gakken「新 みんなの道徳 6年」より）

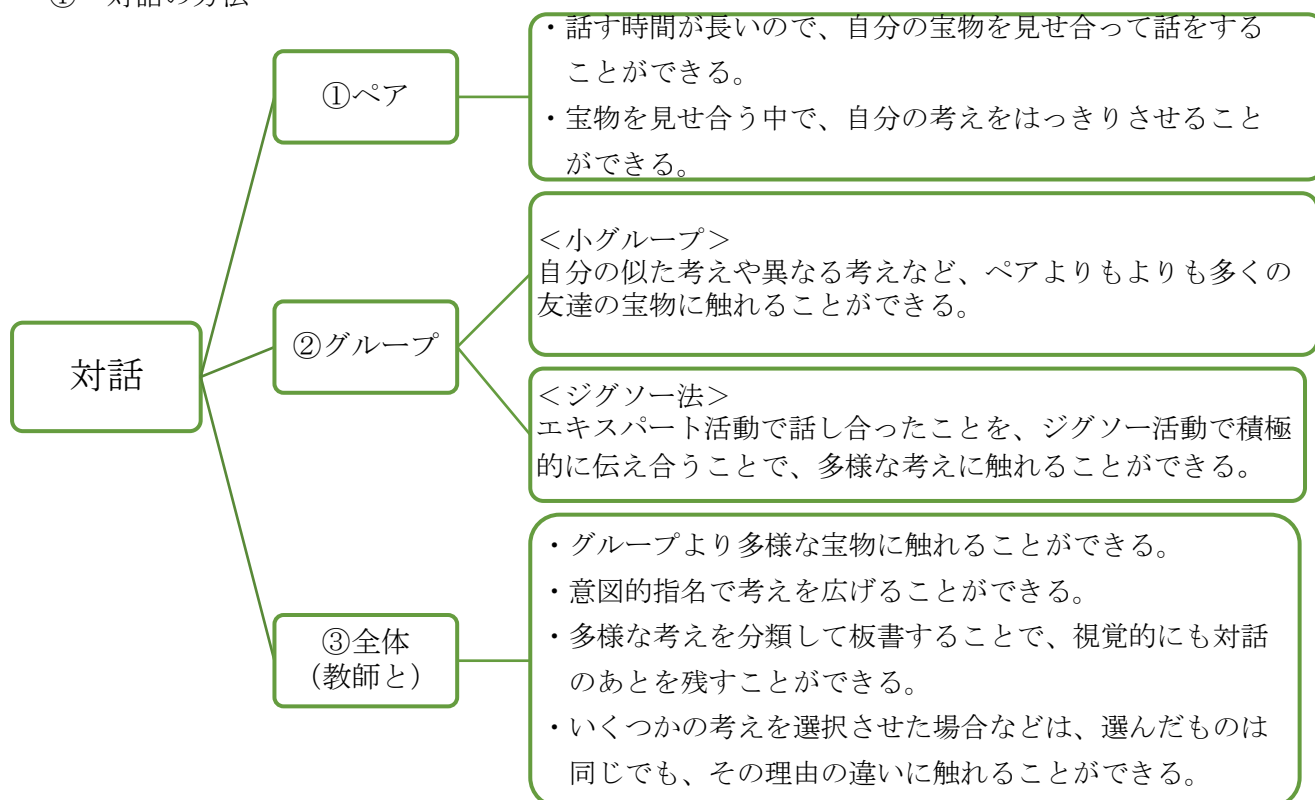
これまで友達と意見が合わなかったときのことを思い出して、これからは相手の立場も考えて行動しようとする記述が見られた。

(2) 多様な考えに触れるための「対話」を充実させる手段

「心の宝箱」を「宝物」(＝価値観)でいっぱいにするには、児童生徒それぞれの「宝物」を見せ合うことが必要である。そのために、児童生徒同士や児童生徒と教師の「対話」が必要であると考えた。その中で、多様な考えに触れ、自分自身の「宝物」に磨きをかけることができる。

「対話」を充実させるために、①対話の方法と、②対話を促すプラスの発問を行った。

① 対話の方法

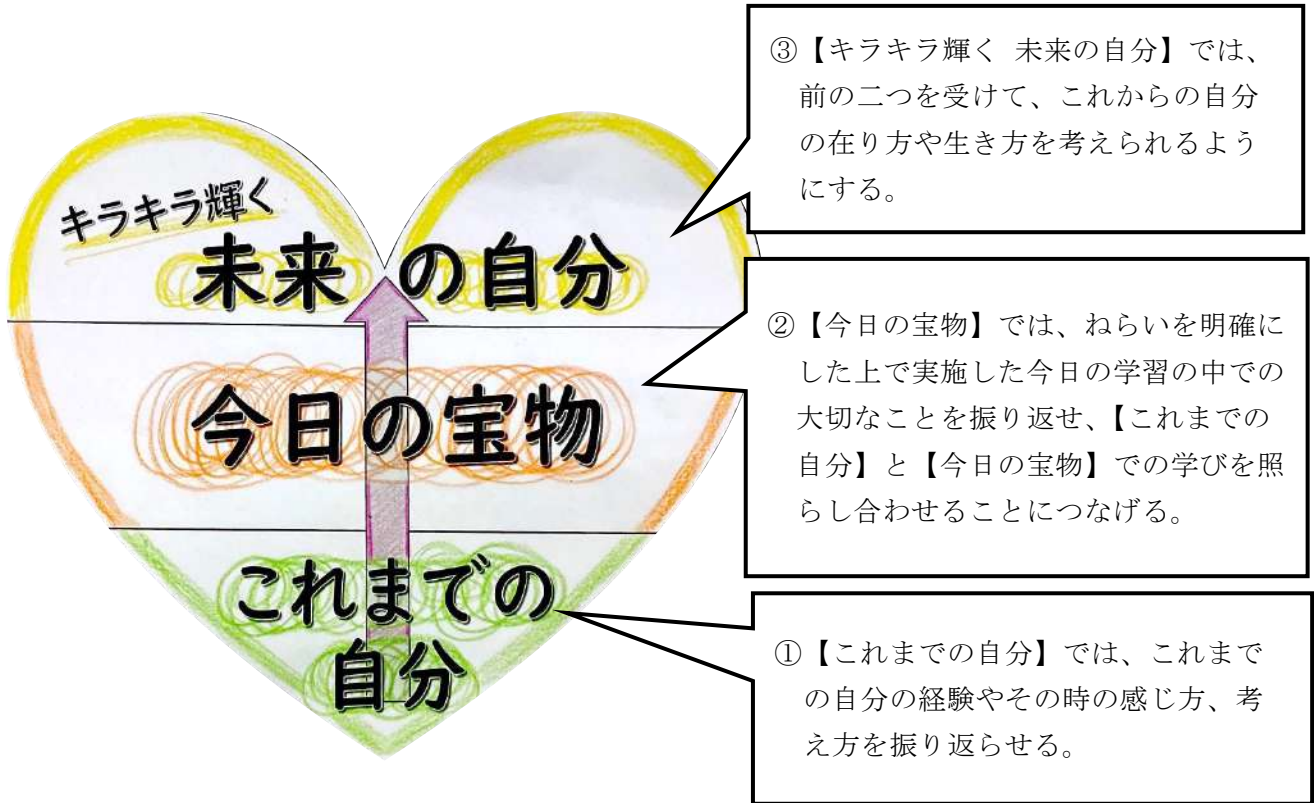


② 対話を促すプラスの発問

「〇〇さんの考えを聞いて、どう思いましたか。」
「〇〇さんの考えに、何か質問はありますか。」
「〇〇さんの考え、わかるな～という人はいますか。」
*記述から少しニュアンスの違うことを書いている場合 「この二人の考えって同じ？違う？」 ⇒「どんなところが同じ／違う？」
*記述に同じ表現がでてきている場合 「同じように考えた人はいますか。」 ⇒「どうしてそう考えたのかな。」(同じ考えの理由を聞く)
*発表した児童に対して意見を広げたい場合 「今の〇〇さんの考えについて、どう思いますか。」

(3) 「自己を見つめる」ための表現方法を提示

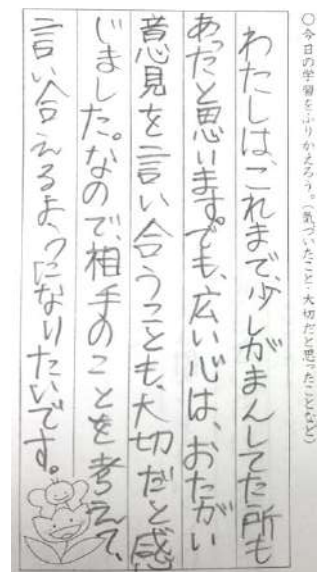
本研究では「自己を見つめる」ことを、これまでの自分の経験やその時の感じ方、考え方と照らし合わせながら、さらに考えを深めることで、道徳的価値を自分との関りで考えること、と定義している。児童生徒に、視覚的な思考ツールを提示することで、「自己を見つめる」時間を充実させられると考えた。そのために、【これまでの自分】【今日の宝物】【キラキラ輝く 未来の自分】の3つの項目を提示し、視覚的に思考を助ける手段とした。



◆「自己を見つめる」表現方法を提示した授業の児童生徒の記述

事例1 中学校3年生

事例2 小学校6年生




思考ツールがあることによって、教材だけの読みではなく児童生徒がこれまでの自分を振り返ることができた。また、自分と今日の宝物を照らし合わせて、自己をみつめることに繋げることができた。

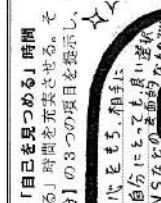





(3) 事例3 中学校3年生 令和5年11月21日(火)


- 1 主観名 相手の気持ちを考える 内容項目B【相互理解、寛容】
- 2 れらい それぞれの立場を尊重することを通して、いるなるもの見方や考え方があ  
ることを理解し、他者に対して寛容の心をもち相互理解に努めようとする態度を  
育てる。
- 3 教材名 「言葉の向こうに」(出典：日本文教出版)
- 4 学習指導過程

段階	学習活動 (○) 主な疑問	予想される生徒の発言	指導上の留意点 ★質問の意図
導入	1 だまし絵を見せ、どんな見え方がするかな聞かす。 ○宝物の内幕をつかむ	・Aに見える。 ・Bに見える。 ・なかなかBには見えない。 ・宝物の内幕をつかむ	・指導上の留意点 ★質問の意図 ・見方を変えれば色々な見え方があがる。 ・多様な価値観を受け入れることが大事である。
	2 教材「言葉の向こうに」を読み聞かせさせ考えを深める。	・相手の顔が見えないことで、「私」の言葉がエスカーレートしていったことに気づかせる。	
	3 教材について話し合う。		
	<b>手だて① 多様な考えに触れ、宝物を磨く基となる「対話」の時間</b> 「私」、「相手サポーター」、「ファンサイトを見た人」それぞれで書き込みをした人たちの気持ちを共有し立場によって見方や考え方の多様性があることに気づかせ、考えの違う者どうしの関わりにはどのようなことが大切なのか考える。	 <p>話し合いでは宝物を黒板に貼り付け、全員が見えるようにした。</p> <p>話し合いの様子</p> <p>→状況によって感じ取り方や考え方が変わることを気づかせ、相手にはその状況が見えないからこそ自分の残す言葉によって、それをよくとらえたり悪くとらえたりする人が出てくることを実感する。</p>	
	4 「私」…「いけばん大切なことを忘れていた。」と言っています。どんなことを忘れていたのだから ○「相手サポーター」…相手チームのサポーターは「ネットの特性」を踏まえ、どのように行動しな	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「私」…自分とは関係ない人だからとたくさん言っていました。</li> <li>・「相手サポーター」…自分が応援しているチームの力を潰さるべきである。</li> <li>・「ファンサイトを見た人」…その言葉がどう読み取れるかいろいろ考え受け取</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★「私」、「ファンサイトを見た人」、「A選手の口癖」で書き込みをした立場で書き込みを見たとある気持ちについて考える。</li> <li>★「相手サポーター」…自分が応援しているチームの力を潰さるべきである。</li> <li>★「ファンサイトを見た人」…その言葉がどう読み取れるかいろいろ考え受け取</li> </ul>

<p>り方を考えてみて誰も不 快にならない言葉を見つ ける。</p> <p>○「ファンサイトを見た人」 …SNSや掲示板に投稿 するときに、どのような ことを確認して投稿する べきだったでしょうか。</p> <p>◎相手の気持ちを考えた行 動とは、どんなものだろ う。</p> <p>★それぞれの意見を共有し 立場によって見方や考え 方の多様性があることに 気づかせ、考えの違う者 どうしの関わりにはどのよ うなことが大切なのか考 える活動。</p>	<p>・自分が言われて嫌なこと はない。 ・異なる立場の人の意見を 否定せずに耳を傾ける。 ・自分の考えを押し付け ず、言葉の向こうにいる 人々のことをじっくり考 える。</p> <p>★教材の人物や生徒同士の 対話を通して、相互理解 に対するさまざまな価値 観に触れたりうえで、他者 に対して寛容の心をもち 相互理解について深める 活動。</p>	<p>4 自己を見つめる。 自分が今まで経験した ことを思い出して、考え の違う者どうしの関わり は、どのようなことが必 要なのかふり返り、これ からはどのようなように行動し ようか。</p> <p>・自分の気持ちを優先し、 相手の状況を知ろうとも せずに強行してしまつた ことがあった。きつと相 手は傷ついただろう。 ・きつと話してもわかって もらえないと最初からあ きらめて自分の気持ちを 伝えなかつたことが多々 あった。相手に自分の状 況を分かつてもらおうこと も大事だと思つた。</p>	<p>5 教師の話を聞く。</p>
<p>手だて② 自分との関わりで捉え、より宝物に磨きかける「自己を見つめる」時間 →視覚的な思考ツールを提示することで、「自己を見つめる」時間を充実させる。そ のために、「これまでの自分」「今日の学習」「未来の自分」の3つの項目を提示し、 視覚的に思考を助ける手段とし</p>  <p>それぞれの意見を共有し立場によって見 方や考え方の多様性があることに気づき、 これからの自分はどうのよう行動してい きたいか強さが変わった。</p> <p>今日の学習 と、でも自分にとっても、長い遠征 を、SNSなどの活動の 近く相手の気持ちを 感じ取れよう。</p> <p>自分を見つめる 自分を見つめる 自分を見つめる</p> <p>今日の学習 と、でも自分にとっても、長い遠征 を、SNSなどの活動の 近く相手の気持ちを 感じ取れよう。</p> <p>自分を見つめる 自分を見つめる 自分を見つめる</p>	<p>5 教師の話を聞く。</p>		

(4) 事例4 小学校6年生 令和5年11月21日(火)

<p>→頑張っている姿があれば、傅む気持ちは消えるのです。</p> <p>(3) 2人の関係を変えたものは何でしょうか。</p> <p>4 自己を見つめる。</p>	<p>【サムの立場に立って認める】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>サムは一生懸命頑張っていたから。</li> <li>【サムを考えを受け入れて尊重】</li> <li>見えないところで頑張っていたのだなと思っただけ。</li> <li>【自分の非に気づく】</li> <li>サムだけを責めたけど、自分にもよくないところがあったから。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>お互いを受け入れたこと</li> <li>お互いの頑張りを認めたこと</li> <li>相手を尊重する気持ち</li> <li>素直になろうとしたこと</li> </ul> <p>○今まではあまり相手のことを考えられていなかったけど、今日の学習を通して、相手の思いも大切にしたいと思う。</p> <p>→今まではどうかと思っただろうけど、どうありたいかを考えよう。</p>	<p>→頑張りだけだけでなく、どうしてその行動にでたのかを考えさせることで、ヒロも自身のことも振り返らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広い心で相手を受け入れることの大切さについて考えさせる。</li> <li>「広い心」とは具体的にどんなことなのかを問い返す。</li> <li>広い心について、これまでの自分を振り返りながら、自分との関わりで考えている。(ワークシート)</li> </ul> <p>手だて④ 自分との関わりで捉え、より宝物に磨きをかける「自己を見つめる」時間</p> <p>思考ツールの提示</p> <p>＜これまでの自分＞＜今日の宝物＞＜未来につなげる＞の3つの観点</p> <p>→思考ツールの提示することで、自分自身について振り返らせやすくなる。「意見が違ふときに大切にしたいこと」についての様々な考えやそのよさについて触れたいうえで、今の自分の「意見が違ふときに大切にしたいこと」に対する思いを深めることができた。</p>  <p>作成した思考ツール (説明後、黒板に提示)</p> <p>思考ツールの場で、今までの自分を振り返った上で、今日の宝物について考えている児童が多く見られた。</p>	<p>5 教師の説話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の立場に立って、相手を受け入れることがいい関係にもつながっていくんだね。</li> </ul> <p>同じ目的に向かうが、意見が違った時、自分だったらと考えて相手を受け入れて行動したことで、いい結果、いい関係性につながった話をする。</p>
--	--	---	--

<p>1 主題名 分かり合う喜び 内容項目[C 相互理解、寛容]</p> <p>2 ねらい ビエロの中からサムを憎む気持ちがなくなってきた理由を考える学習を通して、相手の思いや考えを尊重することの大切さについての考えを深め、相手の立場に立って広い心で接していこうとする心構を育てる。</p> <p>3 教材名 「ブランコ乗りとビエロ」 (出典：新 みんなの道徳 6年)</p> <p>4 学習指導課程</p>	<p>学習活動(主な発問)</p> <p>1 アンケートから、「意見の違い」について考える。</p> <p>○アンケートの結果を見よう。</p> <p>①友達と意見や考えが違ふ時はどんな気持ちでしたか。</p> <p>2 宝物の内容をつかむ。</p> <p>★指導上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果を大型テレビに提示して、自分事として道徳的価値を捉え、考えていけるようにする。</li> <li>★「相手に共感する」考えが多かったことから、自分の考えを我慢することは、本当にいいことなのかを問い、めあてにつなげる。</li> </ul>	<p>予想される児童の発言</p> <p>★意図</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読み聞かせの前に、登場人物やその状況について知り、より深く主人公の気持ちになっただけ目立っていて、なんて自分勝手なんだ。</li> <li>・僕の出番が無くなってしまいうじやないか!</li> <li>・ワークシートに記入することとで、自分の考えを巡らせ、表現させる。</li> </ul>	<p>手だて① 多様な考えに触れ、宝物を磨く基となる「対話」の時間</p> <p>グループでの対話</p> <p>→ワークシートに書いた自分の考えを、3、4人グループで伝え合う。自分の考えを伝え、友達からの考えを聞く中で、そうだなと共感したり、どうして考えたのと聞いたこととで、自分の考え(宝物)に磨きをかけていく。</p>  <p>「なるほど!」</p> <p>「なんでそう思ったの?」</p> <p>「出してきた考えを投票して多様な考えに触れるようにした。」</p>
--	---	---	--

## V 成果と課題

### 1 研究の成果と課題

#### (1) 宝物に磨きをかけるための「ねらい」の設定

##### ① 成果

本時の授業で考えさせたいこと・気づかせたいことを「ねらい」として明確にすることで、多くの児童生徒が本時のねらいに沿った記述を振り返りとして書いていた。そこから、まず教師自身が明確な「ねらい」をもって授業を行うことで、児童生徒の宝物により磨きのかかる時間を作ることができると考えた。「対話」「自己を見つめる」を充実させることにつながったかは、以下の(2)で示す。

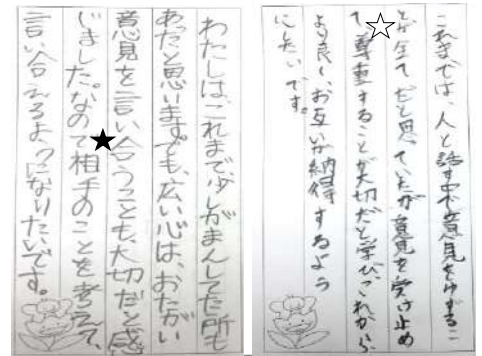
#### 児童生徒の振り返りの記述から

小学6年生 「ブランコ乗りとピエロ」

ねらい：ピエロの中からサムを憎む気持ちがなくなった理由を考える学習を通して、☆相手の思いや考えを尊重することの大切さについての考えを深め、★相手の立場に立って広い心で接していこうとする心づかひを育てる。

中学3年生 「言葉の向こうに」

ねらい：それぞれの立場を尊重することを通して、☆いろいろなもの見方や考え方があつたことを理解し、★他者に対して寛容の心を持ち相互理解に努めようとする態度を養う。



今日の学び  
入らずに考えや  
感じ方受け取り方  
ちがう。

今日の学び  
から考える  
未来の自分

☆寛容な心を持ち、相手に  
とっても自分にとつても、良い選択  
をし、SNSなどの表面的なものでは  
なく、相手の考えを  
読みとりたい。

##### ② 課題

本時のねらいではなく、他の様々な内容項目をもとに考える児童生徒も見られた。そのため「ねらい」を設定する際に、取り扱う道徳的価値の何について考えるのか焦点化することが必要である。本時の授業では、どんな宝物について考えさせたいのかを、授業者がより具体的に考えることが改めて重要だと感じた。

#### (2) 多様な考えに触れるための「対話」を充実させる手段

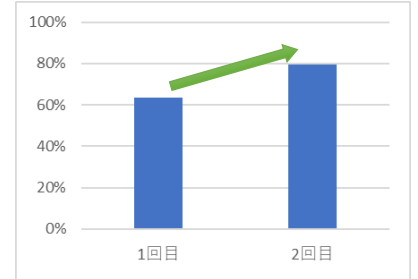
##### ○ 成果と課題

		○成果 →よりよい活用方法	●課題 →改善方法
対話の手段	ペア	○自分の宝物を見せやすく、対話がしやすくなった。 ○対話を通して、自分の宝物をはっきりとさせることができた。	●多様な考えに触れることにはつながらなかった。 ●間延びしてしまった。 →時間を決める/終わったら前を向くなどの工夫が必要である。
	グループ	○ペアよりも共感や質問が多いので、自分の宝物に磨きをかけやすくなった。 ○友達の考えから、自分の宝物に磨きをかけることにつながつた。	●多様な考えに触れることにはつながりにくかつた。 →意図的なグループ作りや座席配置の工夫が必要である。
	ジグソー法	○自分の考えを、責任をもって伝えることができた。 ○中学生で実施をしたが、自分から発言することに遠慮がちな発達段階に合つていた。	●展開前段で用いる際、大幅な時間が必要になる。 →時間配分についての声掛けなど、適切な机間指導をする。

	全体	○より多くの多様な考えに触れることができた。 →書いたものを提示する／板書して残すとより効果的である。 ○似ている考えでも、理由を問うことでその違いにも触れさせることができた。	●一気に全体になげかけてしまうと、全員が自分事として考えられず取り残されてしまった。 →教師と児童のやりとりから、児童と児童のやりとりへとつないだり、思考する『間』をとったりすることが効果的である。
対話の対象	保護者 地域の方	○児童生徒が考えられない立場についての視点を知ることができた。	●準備に時間がかかる。 →アンケート等実施する際は、質問の内容や方法など管理職との相談が必要である。

アンケート結果から

「友達に自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりするのが好きですか」の質問に「好き・どちらかというとき」と回答した児童生徒が、63.7%から79.7%に上がった。このことから、一人で考えることからペアやグループなどでの「対話」のよさや楽しさを感じ「対話」を通して自分の考えに磨きをかけることにつながったと考えられる。



(3) 「自己を見つめる」ための表現方法の提示

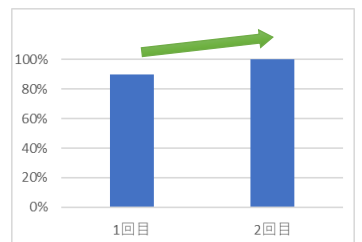
① 成果

児童生徒の振り返りの記述から

【これまでの自分】【今日の宝物】【キラキラ輝く未来の自分】の3つの項目を提示することで、児童生徒が道徳的価値を自分との関りで考えて「自己を見つめる」ことができていた記述が多く見られた。

アンケート結果から

「今までの自分を振り返って考えることができていますか。」「これからの自分について考えることができましたか。」という質問に「はい」と回答した児童生徒が、90.9%から100%へ上昇した。これは、視覚的な思考ツールを提示することで、「自己を見つめる」時間を充実させられたと考えられる。



② 課題

今日の宝物を踏まえての「自己を見つめる」時間なので、何を考えるのか、ねらいに即した発問が重要になる。そのためには「展開前段で触れておくべきことは何か」をねらいに即して明確にし、そこから学習活動を逆向き設計する必要がある。

VI 参考文献

- ・ 道徳教育アーカイブ 「令和3年度道徳教育実施状況調査（結果概要）・（報告書）」
- ・ 文部科学省（2017） 「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」 廣済堂あかつき
- ・ 文部科学省（2018） 「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」 教育出版
- ・ 学研教育みらい 「新・みんなの道徳⑥ 教師用指導書[指導編]」
- ・ 日本文教出版 「あすを生きる③ 教師用指導書 [指導編]」

専門研究

## 特別活動 専門研究部

研究主題

児童がよりよく合意形成するための指導の工夫

～一連の学習過程と思考の視点を意識した話し合い活動を通して～

山口小学校

三輪 広樹

林小学校

新井 愛実

指導者 玉川大学

准教授 川本 和孝

担当指導主事

石坂 祐樹

## 特別活動 専門研究員の研究によせて

玉川大学 准教授 川本 和孝

特別活動の方法原理である「なすことによって学ぶ」ということは、現在の学校において、必要だと思われつつ軽視されがちになるものである。特に、新型コロナウイルス感染症によって、様々な制約を受けてきた学校においては、大人によって「管理」される場面が多くあり、児童が実体験を通じて「学び」を得ていくことは、非常に難しい環境であった。しかし、新型コロナウイルス感染症が、徐々に収束しつつある今日においても、依然として希薄化したままになってはいないだろうか。また、近年では、「主体的な学び」や「探求的な学び」、といった「自ら学ぶ」という姿勢が非常に重視されてきているが、そうした学ぶ姿勢を形成していく上でも、「なすことによって学ぶ」ことや「自分たちの生活づくり」を自分たちで話し合い、創意工夫しながらつくっていくという「自治的能力」の育成は、まさに特別活動の教育課程における固有の役割でもあり、「自ら学ぶ」ことの基盤を醸成する役割を果たしているとも考えている。

そのような中で、山口小学校の三輪広樹先生、林小学校の新井愛実先生、両名の専門研究員の取り組みは、今日の特別活動のあり方を考える上でも、非常に意義深いものであった。学級という集団の中には様々な児童がいるため、おそらく日々の学級経営に頭を悩ましていたに違いない。しかし、だからこそ今回の学級会の実践研究は、そうした学級経営の悩みに直結した研究となったのではないだろうか。特別活動の中核とも言える様々な話し合い活動において、「学級会」は自分たちの生活をつくっていく上でも、欠かすことの出来ない活動である。しかしながら、今日においては形骸化した学級会が散見されているのも事実である。学級会は、形式や流れだけを追ってしまうと、その本質を失い、「話し合いのための話し合い」「手段を合理的に決定するだけの話し合い」に陥ってしまう。大切なのは、学級の児童1人1人が持つ、「学級をよりよくしたい」という願いや想いを引き出すことである。そして、そこには様々な感情や思考が伴うことになるが、それが故にぶつかることも出てくるのである。しかし、そうした中で、お互いに抱く感情に気づき、寄り添い、折り合いをつけて、全員が納得・同意できる決定を目指していくのが「学級会」のあるべき姿なのである。三輪先生、新井先生両名が今回の研究を通じて向き合ったのは、まさにそうした児童の「学級や学校をよりよい場所にしたい」という願いや想いの具現化と、その言語化に向けての、教師としてのファシリテーターとしての役割であり、今後の学校の未来において重要な非認知能力の育成そのものであったと考えている。

私が所属する玉川大学の創始者である小原國芳が大事にしていた言葉の一つに、ドイツの教育者が述べた「進みつつある教師のみ人を教える権利あり」という言葉がある。三輪先生と新井先生は、まさにこの言葉が示すとおり、進みつつある教師であると考えている。今後も、教師自らが「なすことによって学ぶ」ことを実践しつつ、いつまでも進みつつある教師であって欲しいと願っている。

研究主題 「児童がよりよく合意形成するための指導の工夫

～一連の学習過程と思考の視点を意識した話し合い活動を通して～

専門研究員 特別活動

所沢市立山口小学校 三輪 広樹

所沢市立林小学校 新井 愛実

## I 研究主題について

学校は、児童生徒や教職員、保護者、地域の人々などから構成される1つの社会である。その社会の中で児童生徒は、様々な人を関わりながら学び、その学びを通して自分の存在が認められることや、自分の活動によって何かを変えたり、社会をよりよくしたりできることの実感をもつことができる。そのため、学校教育では、互いに認め合い思いやることのできる心や、協力し合ってよりよい生活を築いていくことのできる豊かな人間関係を育むことが重要であると考え。そうした意味で、よりよい人間関係形成を1つの目標として掲げている特別活動の果たす役割はとても大きいと言える。

本研究を通して育てたい児童像は以下の通りである。

- ・人によって考え方や価値観に違いがあることが分かる。
- ・自分の考え方をもち、相手に伝えることができる。
- ・他者の考えを受容したり、他者の立場に立って物事を考えたりすることができる。
- ・目的に向かって話し合い、自分たちで合意形成することができる。

本研究では、特別活動の学級活動(1)の学級会に焦点をあてた。学級の全員が提案理由(何のために話し合うのか)を意識して話し合い、合意形成に向けて自発的、自治的に関わることのできる児童を育てたいと考え、本研究主題を設定した。

そこで、児童のよりよい合意形成がうまれる学級会になるための手立てとして、話し合いにおける思考の視点の与え方に着目して研究を進め、児童の思考の視点がぶれることなく、提案理由の達成に向けて主体的に話し合える学級会を目指す。また、一連の学習過程を押さえて実践を繰り返すなかで、クラスは自分たちの力でよりよくしていけることを実感を伴って理解させ、児童の望ましい人間関係形成につなげていきたい。

## II 研究の内容と方法

1 仮説① 事前準備が充実すれば、主体的に話し合い活動に取り組むだろう。

〈手立て1〉学級会開催までの流れを統一する。見通しをもって準備に取り組めるようにする。

〈手立て2〉提案理由から、話し合いの目的を考え、思考の視点を明確化させておく。

〈手立て3〉学級会ノート、短冊の作成で全ての児童の意見が反映した上での学級会にする。

2 仮説② 板書や掲示の工夫をすれば、話し合いの流れや考えるべきことが分かりやすくなり、合意形成に向けた話し合いがより深まることになるだろう。

〈手立て1〉思考ツール(Yチャート、座標軸、マトリックスなど)の効果的に活用する。

〈手立て2〉事前に集めておいた意見の視点を整理した短冊を掲示する。

〈手立て3〉仮説①〈手立て2〉で考えた話し合いの目的を大型モニター等に掲示し、適宜活用する。

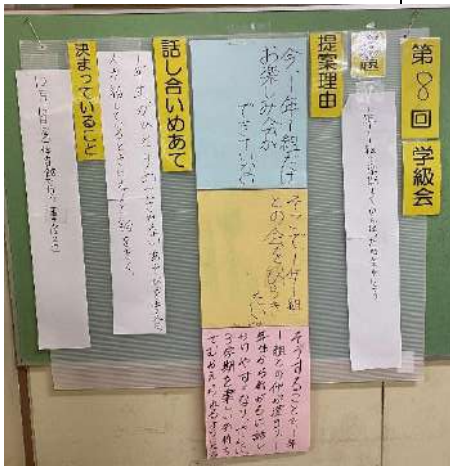
### III 実践事例

#### 1 山口小学校による実践事例（第6学年）

(1) 議題 「1年生2学期よくがんばったね集会を開こう」

(2) 展開の過程

##### ① 事前の活動（本時に至るまでの活動の流れ）

日時 活動の場	児童の活動 ○計画委員会 ●全員の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】（評価方法）
11月17日(金) 業間休み	○出された議題を確認し、選定する。	・児童の自発的、自治的な活動とすることができるよう、学校として児童に任せられないことを明確に示す。特に金銭面、安全面については配慮する。	◎学級生活をよりよくするために、進んで議題を考えたり、選んだりしようとしている。【主】 (提案カード、観察)
帰りの会	●議題を決定する。	・計画委員会の提案のもと、学級全員で決定することを改めて確認する。	
11月21日(火) 業間休み	○活動計画を作成する。 (提案理由、めあて、話し合うこと、決まっていること、役割分担、学級会ノート原稿作成)		<p>【仮説①手立て1】 プラダンに張り付ける形で掲示する。普段は学級会コーナーに掲示しておき、学級会の際に黒板横に移動する。これにより学級会で黒板を広く使うことができる。</p>
	<p>【仮説①手立て2】 何のために話し合いをするのか、計画委員と共に提案理由の焦点化を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案者の思いや願いもふまえて、<u>学級の児童一人一人の必要感や切実感が高まるように提案理由の明確化を図ることができるよう助言する。</u></li> <li>・日時や場所などの条件は教師が設定する。</li> </ul>	<p>◎計画委員会の役割、話し合いの進行の仕方等を理解している。 【知】 (活動計画、観察)</p>
帰りの会	○話し合うことを全員に知らせる ●学級会ノートに自分の考えを記入する。	・提案理由に沿った理由を添えて意見を書くことができるよう、状況に応じて個別に支援する。	◎提案理由や話し合いのめあてに沿った自分の考えを書いている。 【思】(学級会ノート)

<p>11月22日(水) 業間休み 昼休み</p>	<p>○学級会ノートの整理、確認する。同じような意見をまとめていき、6つ程度に絞る。</p>		<p>【仮説①手立て3】 学級会ノートに自分の意見を書く。計画委員はこれを見て短冊に意見をまとめていく。</p>	
<p>11月24日(金) 業間休み</p>	<p>○学級会進行原稿の用意、板書に使う短冊等の用意をする。</p>			<p>【仮説①手立て1】 司会進行用原稿。紙芝居形式になっており、事前に裏面の言葉を書いておく。</p>
<p>11月27日(月) 業間休み</p>	<p>○計画委員全員で役割の最終確認、決め方の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いが上手く進まないことも想定し、対応策を一緒に考えておく。</li> <li>・一人一人ノートに励ましの言葉を記入した上で返却することで、話し合いの見通しが立つようにする。</li> </ul>		

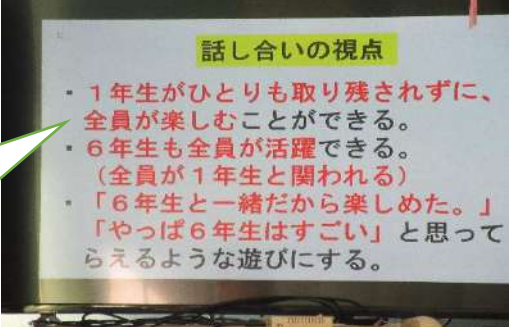
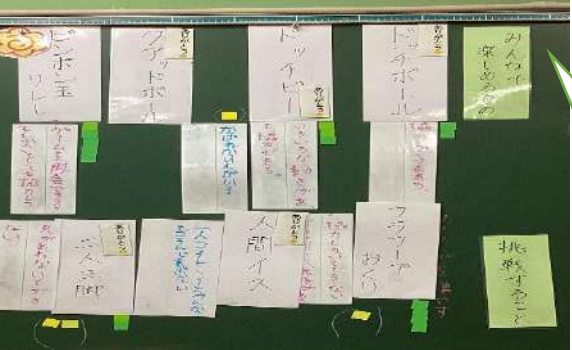

② 本時の活動と児童の活動

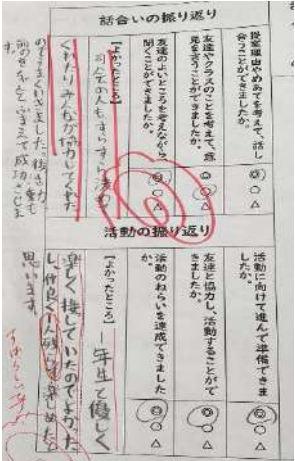
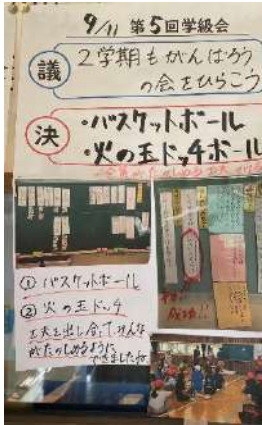
ア 議題 「1年生2学期よくがんばったね会を開こう」

イ ねらい 1年生全員が楽しむことができ、3学期もがんばろうと思える会を企画することができるようにする。

ウ 本時の展開

活動の計画	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】(評価方法)
1 はじめの言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャイムがなる前に机の移動や、板書の準備を完了するようあらかじめ伝えておく。</li> </ul>	
2 計画委員の紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のめあてが言えるように事前に指導する。</li> </ul>	
3 議題の確認	<p>1年1組2学期もよくがんばったね会を開こう</p>	

4 提案理由の説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>提案者の思いや願いが伝わるように、キーワードを提示したり、大事な部分を色分けして示したりすることができるよう事前に一緒に準備しておく。</li> </ul>	
5 決まっていることの確認	<p>【決まっていること】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>12月15日（金）3時間目に行く。</li> <li>遊びは2つ決める。ひとつは1年生がやりたいこと、もう一方は6年生が企画したものにする。</li> </ul>	
6 めあての確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生がひとりも取りのこされず楽しみ、6年生も全員が活躍できる遊びと工夫を考える。</li> </ul>	
7 先生の話		
8 話し合うこと① 「何をするか」	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合うこと①は「くらべ合う」段階から進めることができるよう、事前に短冊を掲示しておく。</li> </ul>	
	<p>【仮説②手立て2 思考の視点の短冊の利用】 思考の視点を表す短冊は色付きのものを利用。視覚的に見やすく、話し合いの流れや、意識するポイントがつかみやすくなった。</p>	
<p>【仮説②手立て1 思考ツールの活用】 2択まで絞れたところでマトリックスを使用。提案理由の願いを達成できるものを選ぶ助けとする。</p>		

<p>話し合うこと② 「会全体の工夫」</p> <p>話し合うこと③ 「役割をどうするか」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童に任せることができない内容（安全面、金銭面）が出た時は、教師が扱いを明確にする。</li> <li>・話し合うこと③では、話し合いで決まったことを受けてどんな役割が必要かを確認する。時間が余れば役割分担まで進める。</li> </ul>	<p>◎理由を明確にして考えを伝えたり、自分と異なる意見も受け入れたりして、合意形成を図っている。</p> <p>【思】 (観察・学級会ノート)</p>
<p>9 決まったことの確認</p> <p>10 振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や友だちのよかったところを学級会ノートに記入し発表する。</li> </ul>	<p>◎めあてをに対して話し合えたかを振り返っている。</p>
	<p>【仮説①手立て1】 学級会の振り返り、実践の振り返りをそれぞれ記入する。次時の計画委員に、ここでの反省を振り返らせ、自分たちの学級会につなげていく。</p> <p>学級会の歩みを掲示する。視覚的に自分たちで作ってきたクラスを実感できるようにする。</p>	<p>【主】 (観察・学級会ノート)</p>
<p>11 先生の話</p> <p>12 おわりの言葉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終末の話では、①合意形成したことへの価値付けや集団への称賛、②今後の課題、③計画委員へのねぎらい、④今後の見通しや実践に向けての意欲付け等について簡潔に述べる。</li> </ul>	

## 2 林小学校による実践事例（第5学年）

(1) 議題 「学年でパワーアップ会をしよう」

(2) 展開の過程

① 事前の活動（本時に至るまでの活動の流れ）

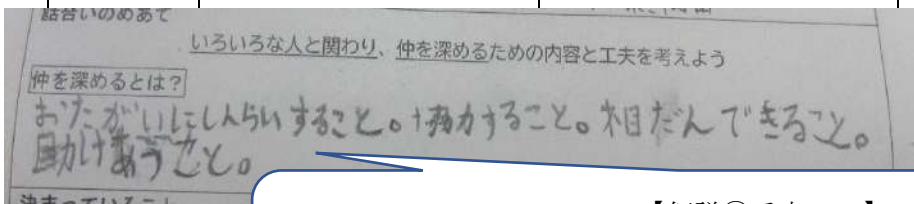
日時 活動の場	児童の活動 ○計画委員会 ●全員の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】（評価方法）
11月20日(月) 業間休み	○議題案を選定する。  ●議題を決定する。	・議題選びの視点を念頭に置いて選定することを指導する。	◎よりよい学級生活をつくるために、進んで課題の選定をしようとしている。  【主】(提案カード・観察)

11月21日(火) 業間休み	○活動計画を作成する。 ○学級会活動コーナーに掲示する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案者の思いや願いが学級全体で話し合うべき議題となるように、提案理由を深めるようにする。</li> <li>・日時や場所などの条件は教師が設定する。</li> <li>・前回の反省を生かそうとする視点をもてるように助言する。</li> </ul>	◎司会グループの役割、話し合いの進行の仕方等を理解している。 <b>【知】</b> (活動計画・観察)
-------------------	---------------------------------	---	--



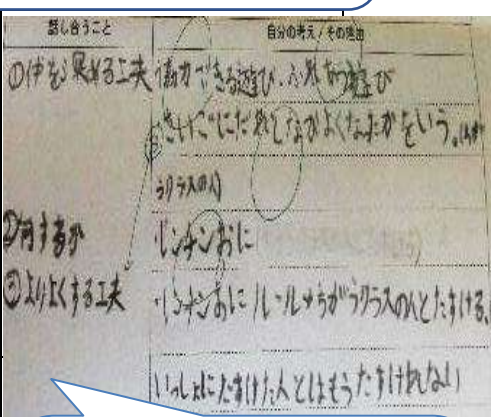
**【仮説①手立て1】**  
 背面黒板に学級会コーナーを作り掲示しておく。今どのような意見が出ているのかを児童に知らせておく。

帰りの会	○話し合うことを全員に知らせる。 ●学級会ノートに自分の考えを記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案理由に沿った意見が書けるように助言する。</li> </ul>	◎提案理由や話し合いのめあてに沿った自分の考えをもち、書くことができる。 <b>【思】</b> (学級会ノート)
------	---	---	--



**【仮説①手立て2】**  
 めあての「仲を深める」とは、どのような状態なのか、どのような姿を目指しているのか自分の考えを学級会ノートに書かせる。

11月22日(水) 業間休み	○学級会ノートの整理、確認する。 ○思考の視点を整理して短冊に記入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見を分類できるように助言する。</li> <li>・学級会前までに出了れた疑問は解決しておくようにする。</li> </ul>
-------------------	---	--



**【仮説①手立て3】**  
 学級会ノートに事前に自分の意見を書かせ短冊を作成する。その中から短冊になる物は司会グループが選定した。

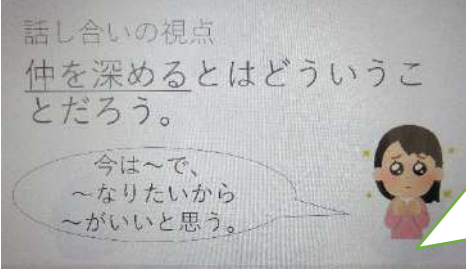
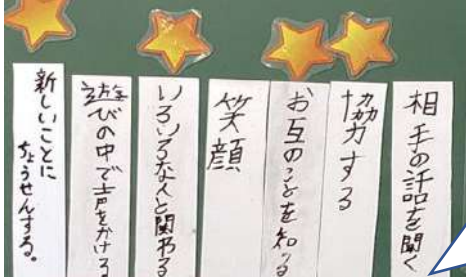
11月24日(金) 業間休み	○司会グループ全員で役割の最終確認、決め方の見通しをもつ。 ●学級会ノートを配り、事前にまとまった案を共有する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いが上手く進まないときの対応策を考えておくように助言する。</li> <li>・全員のノートをチェックする。</li> </ul>
-------------------	---	--


② 本時の活動と児童の活動

ア 議題 「学年でパワーアップ会をしよう」

イ ねらい 色々な人と関わり、仲を深めるための内容と工夫を考えることができるようにする。

ウ 本時の展開

話し合いの順序	指導上の留意点	目指す児童の姿 【観点】(評価方法)
1 始めの言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャイムがなる前に机の移動や、板書の準備を完了しておく。</li> </ul>	
2 計画委員の紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のめあてが言えるように、事前に指導する。</li> </ul>	
3 議題の確認	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">学年でパワーアップ会をしよう</div>	
4 提案理由の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案者の思いや願いを全員が理解し、話し合いの指針となるようにする。</li> </ul>	◎理由を明確にして考えを伝えたり、自分と異なる意見も受け入れた
5 決まっていることの確認	<p>【決まっていること】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日時：12月13日(水)6時間目</li> <li>・校庭で行う</li> <li>・各クラス1つずつ</li> </ul>	りしながら、集団としての目標や活動内容について合意形成を図っている  【知】(学級会ノート)
6 話し合いのめあての確認	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">いろいろな人と関わり、仲を深めるための内容と工夫を考えよう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員でめあてを確認する</li> </ul>	
7 先生の話		<div style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>【仮説②手立て3 大型モニター等の活用】 先生の話で話し合いの視点にふれる。画面は提示したままの状態にしておき、適宜確認できるようにする。</p> </div>
8 話し合い 話し合うこと① 「仲を深める工夫」		<div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>【仮説①手立て2 主体的に話し合いに取り組む工夫】 「工夫」を先に話し合うことによってめあての「仲を深める」のイメージの共通理解を図る。</p> </div>

<p>話し合うこと② 「何をするか」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に質問はしておき「比べ合う」から進められるようにする。</li> <li>・事前に背面黒板に掲示をしておき、出されている意見を共通理解できるようにする。</li> <li>・思考の視点を司会グループと話し合い、視点ごとに分けておき、話し合えるようにする。</li> <li>・話し合いが混乱したとき、ねらいや提案理由などが大きくそれた時には、話し合いを止めて提案理由のキーワードを再度認識できるように指導助言を入れる。</li> </ul>	
	<p>【仮説②手立て1 思考ツールの活用】 話し合うこと①で出た、大切にしたいキーワードを元にチャートを作り、何の遊びをするかを決めた。</p>	
<p>9 決まったことの確認 10 振り返り 11 先生の話 12 終わりの言葉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いを通して、めあてが達成できたか、自分や友達のよかったところを学級会ノートに記入する。</li> </ul>	<p>◎めあてをに対して話し合えたかをふり返っている。 <b>【主】</b> (観察・学級会ノート)</p>

#### IV 成果と課題

##### 1 成果

###### (1) 仮説①に対する成果について

- ・事前に「活動計画書」を書くことによって司会グループは、開始5分以内に柱①へと進行をすることができた。
- ・提案理由を「提案理由（現在の姿）」「だから（何を話し合いたいか）」「そうすれば（なりたい姿）」3段階に分けて書かせる（写真1）ことで、何のために話し合うのかを明確に考えることができた。特に「提案理由（現在の姿）」から「なりたい姿」について共有することで、ねらいに沿った意見を比べることができた。（例：仲良くなるとはどういうことか。→児童同士で協力する内容への工夫）

- ・学級会前に「出し合う」まで終わらせることにより、全ての児童の意見を反映させられ、「比べ合う」に時間を確保したため、時間内に活動の決定ができた（写真2）。
  - ・めあてのイメージの共有を図るために、「工夫」から話し合った。そうすることによって「何をするか」を考えるとときに焦点化された。
- (2) 仮説②に対する成果について
- ・思考ツール（写真3）を使う事によってそれぞれの意見のよさに気がつくことができた。提案理由に沿って考えたりすることができた。
  - ・思考の視点を整理した短冊を用意することによって、当日の学級会では、話し合いの流れのイメージを共有することができた。

写真1 になりたい姿の共有

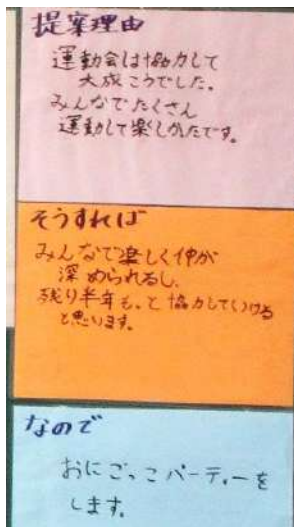


写真2 多くの意見から決定

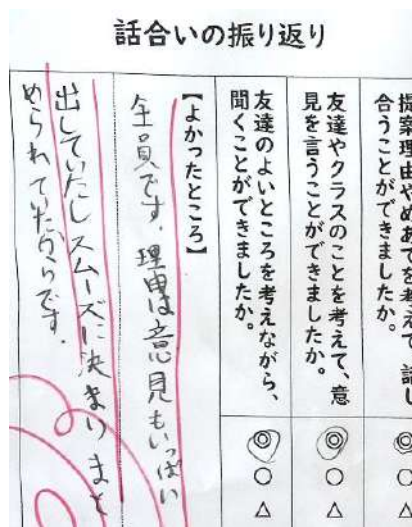
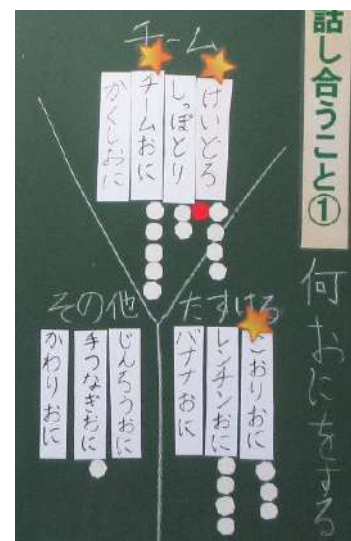


写真3 取組を分類して提示



## 2 課題

- (1) 仮説①に対する課題について
- ・話し合いの目的意識を高めるためには児童自身にクラスの現状を理解させる必要がある。
  - ・思考の視点を与えるときは、誤解のないように抽象的な言葉ではなく活動中の具体的な場面を取り上げる必要がある。
  - ・高学年は委員会活動や各行事の係などで休み時間が忙しい。その中で計画委員を予定通り動かすことは難しい。余裕をもって意欲的に準備を進められるように、活動の見通しを視覚的に示す工夫が必要である。
- (2) 仮説②に対する課題について
- ・今回の話し合いに対して、どのような思考ツールが適切か見極めが必要である。
  - ・思考ツールの活用については、論点整理をするタイミングと方法を吟味して活用し、多数決での決定を助長させないようにする必要がある。（例：対比させる場合は、条件を対照的に比べる、座標を扱う場合は、優先順位をつける等）
- |      | 取組1 | 取組2 |
|------|-----|-----|
| ねらい1 | ○   | ×   |
| ねらい2 | ×   | ○   |
- (3) その他の課題
- ・話型に捉われず、日常の会話のように話し合う集団をつくる。
  - ・学級会で発言しない児童の捉え方を考え直す必要がある。日頃から学級の支持的風土を高め、誰でも発言しやすい雰囲気をつくる必要がある。また、児童それぞれが持つリーダーシップに目を向けることも必要である。

### 3 研究を通して

#### (1) 所沢市立山口小学校 三輪 広樹

本研究では、児童が話し合いの目的を意識して話し合い、「自分もよくて、みんなもいい。」となる合意形成に向けて自発的、自立的に関わっていく児童を育みたいという考えから進めてきました。また、本校では学級活動（1）に焦点をあて、特別活動の研究に取り組むことになっており、特別活動における一連の学習過程を学校全体で統一し、学級会グッズを揃えることから始めました。1学期の学級会では、自分の意見を通そうとする児童が中心の話し合いになり、何のために全員で話し合っているのかという大切な部分が見失われてしまうことが多くありました。しかし、一連の学習過程を意識して、実践を繰り返していくうちに、提案理由を意識して意見を述べたり、友だちの考えを受け入れた上で新たな意見を出したりするなど、よりよい合意形成に向けて主体的に話し合うことのできる児童が増えてきました。それは同時に、児童の教室でのよりよい人間関係につながっていったように思います。今後も児童が安心して過ごすことができ、友だちと協力してお互いを高め合っていける、そんなよりよい学級経営のひとつのツールとして、特別活動に進んで取り組んでいきたいと思っています。

最後に、本研究を進めるにあたり、学級経営の視点からみた特別活動の役割について、今までにない視点で多くのことを御指導いただきました、玉川大学 准教授 川本和孝先生には心より感謝申し上げます。

#### (2) 所沢市立林小学校 新井 愛実

本研究では、「自分もよくて、みんなもいいもの」を合言葉に、よりよく合意形成していける児童を育てていきたいと進めてきました。一人一人の意見を大切に、採用されなかったものについても、生かせる場所や時間を設け、「みんなの意見を大事にする」方法などを、児童に伝えました。学級会も4月当初は前年度までの経験に差があり、他者の発言に耳を傾けず自分の気持ちを押し切ろうとすることでスムーズに進まないことがありました。また、自分のやりたいものに反対され、泣いて机にふせてしまう児童が数名いました。学級に多様な考えを持つ児童がいることを理解し、合意形成するために比べ合いの視点を明確にしたり、思考ツールを活用したりと新たな方法を御教授いただきました。次第に合意形成するためのアイデアを出せる児童が増え、学級会が暖かな雰囲気で行われるようになってきました。今後もよりよい合意形成ができるよう、本研究を活かして指導をしていきたいです。

本研究を進めるにあたり御指導をいただきました、玉川大学 准教授 川本和孝先生には心より感謝申し上げます。

## V 引用・参考文献

- ・文部科学省（2018）「小学校学習指導要領解説 特別活動編」東洋館出版社
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 東洋館出版社
- ・特別活動の教育技術 杉田洋著 小学館
- ・みんなでよりよい学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編 文溪堂
- ・多様な他者と協働する力を育む特別活動 埼玉県連合教育研究会 埼玉県特別活動研究会
- ・アドベンチャーと教育 工藤亘著 玉川大学出版部

専門研究

教育相談 専門研究部

研究主題

どの子ども安心して通えるための  
校内教育相談体制の確立

伸栄小学校

越後 彩美

和田小学校

安田 緑

指導者 星槎大学大学院

教授 阿部 利彦

担当指導主事

和田 里恵

教育相談というと、子どもや保護者が困りを意識してからのスタートというイメージが強いのではないのでしょうか。これを「問題解決的教育相談」と呼びます。

しかし、教育相談には先手の教育相談である「開発的教育相談」と「予防的教育相談」もあります。問題行動の発生を防止する意味合いを持つ、この二つの教育相談こそが、いじめや不登校の予防にとって重要な取り組みなのです。

まず、安田先生が実践研究されたのが「開発的教育相談」の分野です。安田先生はアサーショントレーニングを活用してクラスの子どものよりよい関係づくりに取り組み、また子どもたち一人一人の自己肯定感を高めるような働きかけを行いました。

アサーションとは「自分も相手も大切にしたい自己主張」です。この適切な自己主張の方法については、子どもたちが自ら気づく可能性もありますが、皆で学ぶ場を設定することで、自分一人では気づくことの難しい多様な伝え方を共有化することができます。こうして、クラス全員でアサーションを学んでいく場がアサーショントレーニングです。アサーショントレーニングで獲得された自己主張のコツは、今学んでいるクラスでだけ有効というわけではなく、本実践にもあるように、中学校に進学した後も活用でき、さらには将来大人になった時にもいかせるスキルであると言えるでしょう。

安田先生の実践では DESC 法を導入されています。これは「誠実」「率直」「対等」「自己責任」の4つのキーワードを柱として、相手を尊重しながら自己主張するコミュニケーション方法となっています。3段階のスマールステップで行ったこと、さらに DESC 法を活用してわかりやすく体系化していったことで、「これなら自分らしく伝えられそう」という子どもたちの自信につなげることができたと考えます。

そして、越後先生の実践は「予防的教育相談」に分類されるものです。教育相談や特別支援のケース会議はどの学校でもニーズが高いのですが、時間がかかる、解決方法が見えにくい、会議の成果が把握しにくい、など多くの課題を抱えていることも事実です。そこで越後先生は、問題解決型とインシデントプロセス法のポジティブな側面をミックスして、効率的で効果的なケース会議の在り方を検討されました。

問題解決型の会議のよさは①進め方が明確なので話が拡散しにくい、②取り組むべき問題の優先順位を決めて行うため論点がはっきりする、という点であり、話し合いが焦点化されやすいのです。またインシデントプロセス法は事前の準備が少なくすむため、事例提供者の負担が軽くなる、というよさもあります。

今回のケース会議では、焦点化に加え、情報の共有化、そして進行の明確化、ホワイトボードを使った視覚化などが工夫され、ケース会議のユニバーサルデザイン化が図れたと考えます。ケース会議の参加者の誰もが見通しを持てることは、参加しやすさや発言のしやすさにつながったと言えるでしょう。

事後のアンケートでは「今後の目標が明確になった話し合いだったので、その後の手立てを考えることがスムーズであった。」「流れもわかりやすく、参加者の意見を一目で見られるのがとてもよかった。」などの意見が挙げられています。参加された先生方は「このような有効な会議であればまた参加したい」と実感されたのだと思います。

最後に、お二人が課題として挙げられた点については、課題というよりはよりよい実践に向けた価値ある気づきだと考えます。この気づきを大切にして教育実践を積み重ねていられることに期待しています。

両先生ともに大変ご多忙な中、仮説をしっかりと立て、それを丁寧に検証されました。ご自身の実践を整理し、数値化し、言語化し、リフレクションを行うことで、ポジティブに変容されました。よい教育的実践は先生ご自身の成長につながり、それは必ず子どもたちに還元されていくことでしょう。

## I 研究主題

「どの子ども安心して通えるための校内教育相談体制の確立」

## II 研究主題について

近年、高度な情報化や少子高齢化、核家族化等による現代社会の変容の中で家庭の教育力や地域社会の機能が低下してきていると感じる。また、児童生徒の問題が複雑化・深刻化しており、学校や教員が対応しきれない現状もある。児童虐待や、コロナ禍による生活環境の変化を要因と考えられる不登校、発達障害のある児童生徒は年々増加し、小学校低学年でも多く見られるようになった。そのため、教員の負担は重くなり児童一人一人と向き合う時間が少なくなっている。

こうした多様な要因を背景とした児童生徒の対応について、文部科学省の「教育相談等に関する調査研究協力者会議（平成19年7月）」の報告では教育相談の在り方について「様々な悩みを抱える児童生徒一人一人に対して、きめ細かく対応するためには、学校とともに、多様な専門家の支援による教育相談体制をつくっていくことが大切である」としている。また新しい「生徒指導提要」では、「教育相談とは、一人一人の児童生徒の教育上の諸課題について、本人又は保護者などにその望ましい在り方について助言をするものと理解されてきました。」「生徒指導と教育相談が一体となって、『事案が発生してからのみでなく未然防止、早期発見、早期支援・対応、さらには事案が発生した時点から事案の改善・回復、再発防止まで一貫した支援』に重点を置いたチーム支援体制を作ることが求められています。」と示されている。

そこで、本研究部では、校内における支援体制を確立するために、「効率的かつ効果的なケース会議を実施すること」や児童生徒の悩みの解決において「心理教育的なアプローチを用いてより良い人間関係づくりや自己肯定感を高めていくこと」が重要であると考え、「どの子ども安心して通えるための校内教育相談体制の確立」と定めた。

## III 研究の内容と方法

### 1 研究の内容

＜教育相談の視点・方法＞

児童生徒への援助サービスは、すべての児童生徒を対象とする「一次的援助サービス」、配慮が必要な児童生徒に対する初期段階の「二次的援助サービス」、特別な重大な援助ニーズがある児童生徒に対する「三次的援助サービス」の3段階に分けられる。（大山卓 2021 P20）この中でも「一次的援助サービス」は「開発的教育相談」と「予防的教育相談」があり、特に重要性が指摘されている。「開発的教育相談」は、日頃の学級づくり、児童生徒のよりよい人間関係づくりを目指して心の成長を育む授業ベースの取り組みである。「予防的教育相談」は、学級内での児童生徒同士の人間関係などについて教育相談アンケートを定期的実施したり、個別的教育相談やケース会議を実施したりすることで早期に教師が状況を把握し介入する取り組みである。

本研究は、学校の実情において校内体制（組織）が様々な点や各学校の児童生徒の実態や相談内容の多様性に対応するため、「開発的教育相談」と「予防的教育相談」の2つの視点から校内教育相談体制の確立に取り組むこととした。「開発的教育相談」では、主にアサーショントレーニングを通して「自分も相手も大切にしたいコミュニケーション」を学ぶことに

よって児童生徒の自己肯定感を高める方策を取り入れる。「予防的教育相談」では、「効率的・効果的なケース会議の在り方」を検討することで、より良い支援につなげていけるようにする。

## 2 方法

仮説Ⅰ 児童のより良い人間関係づくりのための開発的教育相談～アサーショントレーニングを通して～

心理教育的アプローチとしてのアサーショントレーニングを実践することで、児童のより良い人間関係づくりをしたり自己肯定感を高めたりすることができるだろう。

【手立て1】 事前アンケートを行い、児童の悩みと実態に合った場面設定をすることで身近な問題と捉え、自分の性格タイプや他者との関わり方について客観的に考える。

【手立て2】 自分の気持ちも他者の気持ちも大切にしたいコミュニケーションスキルである「アサーション」について学び、実践することで対人関係の葛藤が生じないようなスキルを身に付ける。

【手立て3】 事後のアンケートや振り返りを実施することで児童自身の心を見つめ、自身の生活に生かせるようにする。なお、本研究は令和4年度 教育相談研究部の「児童生徒の生き抜く力を9年間通して育む手法の研究」を参考に取り組んでいる。

### <検証方法>

児童の実態把握の際に活用した事前と事後のアンケートや振り返りを実施し、児童の心の変容を見取り、分析する。

仮説Ⅱ 予防的教育相談の視点から

問題解決型とインシデント・プロセス法活用型それぞれの良さを取り入れたケース会議を実施することで、ケース会議が効率的に行われ、かつ今後の支援方法が明確になり、児童のより良い支援につながるだろう。

【手立て1】 問題解決型のステップの導入

問題解決型の9ステップ（ケース会議7ステップ、事後の振り返り2ステップ）を用いて、会議の流れを明確化することで、論点を明確にした会議を行う。また、予め9ステップを参加者に周知するとともに、ホワイトボードに示しておくことで、見通しをもって会議を進められるようにする。

【手立て2】 インシデント・プロセス法の活用と事前情報共有シートの簡易化

情報共有の場面において、一問一答形式で追加情報を共有していく。この時間をとることで、事前シートに記入してもらった情報を必要最低限とし、準備の負担を軽減させる。

【手立て3】 ホワイトボードの活用

ケース会議の流れや出された情報を、参加者全員が見えるように、ホワイトボードに整理して記録をしていく。話していることや、決定したことがわかりやすく示されるようにする。

### <検証方法>

職員へのケース会議前後のアンケート、ケース会議の振り返りにより検証する。

## Ⅳ 実践事例

事例1 アサーショントレーニングの実践（所沢市立和田小学校 第6学年）

1 児童のより良い人間関係づくりのための開発的教育相談～アサーショントレーニングを通して～

## 2 研究主題、視点との関わり

児童が他者との関わりから自己を見つめ、より良い人間関係づくりのためにアサーショントレーニングを行い、児童の心の変容を見ることを計画した。はじめに児童に他者とのコミュニケーションについてアンケート調査を行ったところ以下のような結果になった。

	はい	いいえ	どちらともいえない
①自分の気持ちを友達や家族に上手に話すことはできますか。	80%	8%	12%
②クラスで話し合いをする時、自分の意見を言う事はできますか。	75%	12.5%	12.5%
③友達が間違っただ行動をしている時、注意することができますか。	44%	8%	48%
④友達との会話で「困った」と思った経験はありますか。	24%	64%	12%
⑤「困った」と思った事はどんな事ですか。（自由記述）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帰宅途中の時に話していると、どうしても親友が話をそらしてしまう。</li> <li>・話の内容についていけないことがあった。</li> <li>・話の内容が盛り上げられない。</li> </ul>		

アンケートの結果から、①の結果から日常では児童は自分の気持ちを身近な人へ話すことができていると感じられるが、「どちらともいえない」が12%と「いいえ」より多い結果から家庭で話をしない児童もいるのではと考えられる。③の質問では、44%が「はい」、48%が「どちらともいえない」、8%が「いいえ」という結果から一番意見が分かかれ、注意できないことはないが、注意の仕方が難しい等の意見が出た。友達との関係においては④のような結果だった。⑤の質問では、困った理由を聞いたところ、「自分の言っている事が伝わらない」や「話の内容についていけない」などがあがった。この実態を踏まえて、児童が自分の言いたい事を上手に伝えられるような授業づくりを進める。

## 3 実践計画

実態把握のアンケートの結果から、【手立て1】児童の悩みと実態に合った場面を設定し、3回に分けて段階的に行えるような実践計画を考えた。

実践1 7月19日(水)第2校時 友達に上手に断る際、どんな言葉かけをするのか、3つのタイプの特徴を理解し伝える方法を考える。
実践2 10月5日(木)第2校時 DESC法を用いたアサーショントレーニングを行い、よりアサーティブな表現手法を理解する。
実践3 11月29日(水)第4校時 会話の入り方のポイントや会話を弾ませるポイントを掴み、上手な会話の仕方を学ぶ

## 4 実践した検証授業について 【手立て2】

### (1) 令和5年7月19日(水)第2校時

目的 友達に上手に断る際、どんな言葉かけをするのか、3つのタイプの特徴を理解し、伝える方法を考える。

計画 自己主張の3つの言い方を知る

方法 アンケート school Takt ロールプレイ

構成	展開例・留意点
導入 8分	これから3回に分けて、皆は自分の気持ちと向き合い、相手に上手に気持ちを伝えていくコツを学んで行きましょう。まずは、学習する前の今の皆の心の中の様子を教えてください。（【手立て1】事前アンケート）今日は「自分の言いたいことを友達に上手に伝える方法について考えよう」を学んで行きましょう。

エクササイズ 30分	場面説明Ⅰ 友達のAさんはよく掃除の時間に遅れてきます。また、掃除場所でもまじめに取り組みません。あなたならなんと伝えますか？
	○あなたは自分の考えをどのように伝えようと思いますか？3つの方法から考えてみましょう。 ジャイアンタイプ（攻撃的）：「なんで遅れてくるんだよ！遅いだろ！」 「自分の場所は自分でやれよ！」 のび太タイプ（非主張的）：「（何もいわない、自分でやってしまう）」 「（先生に言ってもらおう）」 しずかちゃんタイプ（アサーティブ）：「Aさん、遅れちゃったね。何かあったの？早くみんなで終わらせよう！」 「一緒にやれば終わるからがんばろう！」
	○3つのタイプを見て、どう感じますか？ ・3つのタイプについて自由に意見を言う。 ・一番相手の気持ちも自分の気持ちも考えているのはどれか話し合う。 ○新しい場面で練習する。
まとめ 7分	場面説明Ⅱ 友達のAさんから、「テスト前だからノートを貸して」と頼まれました。あなたは自分も勉強したいので、断りたいと思っています。何と答えればよいでしょう。 ①先程の場面をふまえての伝え方がいいのか考え、どうすればアサーティブになるのか話し合う。（スクールタクト） ②アサーティブな表現をロールプレイする。
	今日は、「自分の言いたいことを友達に上手に伝える方法」について学びました。 【事後のふりかえり】「どのように感じたか」スクールタクトでふりかえりを行い、共有する。 <b>本時の目的にせまった児童の記述</b> ・『優しい伝え方』というのは意外と難しい事なんだなと思いました。私は、基本論破型なので、いつもは口調が厳しかったんだなと自覚できました。『優しい伝え方』をしたら、平和に解決できるということに気が付くことができました。 ・伝え方が色々あったり逆に質問されたりしたときの対処法も考えないとなと思いました。 ・学んで断るのは簡単だと思っていたけど、しずかちゃんのように断ったり言ったりするのは難しいと思いました。

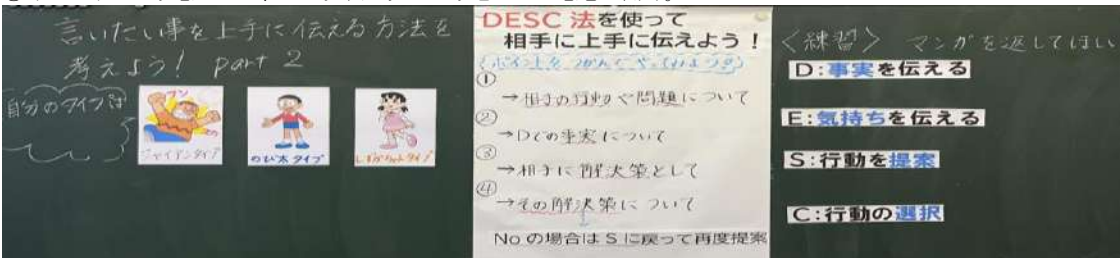
(2) 令和5年10月5日（木）第2校時

目的 自分のことも相手のことも大切にする、コミュニケーションの手法によるアサーティブな言動について学び、実生活に役立てられるようにする。

計画 DESC法を用いたアサーショントレーニングを行い、よりアサーティブな表現手法を理解する。

方法 ワークシート ロールプレイ アンケート

構成	展開例・留意点
導入 8分	【今回のねらいについて確認する】 1学期に3つのコミュニケーションタイプについて学習しましたね。そしてしずかちゃんタイプのさわやかな表現方法ができると良いねという話をしました。今回はよりアサーティブな表現ができるようにDESC法という方法を使って練習していきましょう。 D(Describe事実を伝える) →相手の行動や問題の状況について客観的に事実を伝える。 E(Explain気持ちを伝える) →Dで述べた事実について自分の気持ちを伝える。 S(Specify行動の提案) →相手に解決策を提案する。 C(Choose行動の選択) →行動を選択したり代替案を伝えたりする。
エクササイズ 30分	ある場面についてこんな時どう言えば良いのだろうかDESC法を使って考えてみましょう。場面について説明する。（ワークシート2） 場面説明 Aさんは1か月前にBさんにマンガを貸しました。Aさんは心の中ではもう返してほしいと思っています。そこへ借りているマンガを返さないままBさんは次のマンガを新たに貸してほしいと言ってきます。AさんはBさんに何と言えば良いのでしょうか。 ①Bさんになったつもりで、セリフを考えてみましょう。 【ワークシート2の「DESC法で相手に上手に伝えるセリフを考えてみよう！」に取り組む。】 ②実際にロールプレイングをして、練習してみましょう。 ・2人組を作る。 ・役割を決める。（Aさん役・Bさん役）

	<p>※役割を変えて同じことを2回行う。</p> <p>③できそうなペアにロールプレイングを発表してもらおう。</p> <p>④やってみてどう感じたか、ペア発表を見てどう思ったか感想を聞く。</p> 
まとめ 7分	<p>実際に行ってみてどうでしたか。今日学んだDESC法を使うことでよりアサーティブな表現を見つけられましたね。実生活で生かされると良いですね!</p> <p>【事後のふりかえりを行う】「どのように感じたか」ふりかえり（アンケート）を行い、共有する。</p> <p><b>本時の目的に迫った児童の記述</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この学習を通して、自分の意見も大事だけど、相手の気持ちも考えながら話し合いをしないといけないということがわかりました。</li> <li>・DESC法を覚えて生活の中に活かしていければなと思いました。相手の気持ちを考えて話す、でも自分の意志はしっかりと相手に伝えるという事が大切なんだなと思いました。</li> <li>・友達と本当に会話しているような練習で、自分の意見を言うのが苦手だったけどすこしだけ言えるようになったと思いました。</li> </ul>

(3) 令和5年11月29日（水）第4校時

目的 会話の輪への入り方、会話を弾ませる方法を考える

計画 会話の入り方のポイントや会話を弾ませるポイントをつかみ、上手な会話の仕方を学ぶ

方法 ワークシート ロールプレイ アンケート

構成	展開例・留意点										
導入 3分	<p>今回は最後の学習として、中学校へ向けて「上手な会話の仕方」を学習していきましょう。</p> <p>みなさんは、友達とおしゃべりを楽しくできていますか？</p> <p>上手に会話に参加して、だれとでも楽しく会話ができるように一緒に学んでいきましょう。</p>										
エクササイズ 37分	<p><b>場面説明 I</b></p> <p>中学校に入り、ちがう小学校の子たちと同じクラスになりました。クラスには知っている友達がいません。休み時間になると、ところどころでおしゃべりの輪ができて始めていました。あなたの近くでも3人が話し始めていたので、自分も話に入りたいと思いました。どうしたら仲間に入れるでしょうか。</p>										
エクササイズ ① 10分	<p>○あなたが仲間に入れてあげる側だったら、次のどの態度が仲間に入れやすいですか？</p> <p>①「○○です。よろしく。」と話に割って入る。【△】</p> <p>② 笑顔で「こんにちは。△△小学校から来た○○です。」と自己紹介する。【◎】</p> <p>③「私も入っていいかな。みんなはどこの小学校なの？」と笑顔で聞く。【○】</p> <p>④ 本などを読むふりをして、話しかけられるのを待つ。【△】</p> <p>○②と③はどのような点が良いと思いますか？</p> <p>(予想) ・笑顔で入ろうとしていた。 ・自己紹介をして笑顔で質問していた。</p> <p>○「会話の入り方のポイント」を学ぶ。</p> <p>1: 相手に視線を向ける。 2: 笑顔で話しかけて自己紹介をする。 3: 共通している話題を相手に振る。</p> <p>相手を受け入れやすい行動を取ることが上手に会話に入るためのポイントですね！</p> <p>積極的に話しかけるのは良いですが、難しい場合は相手を見て「話を聴いてるよ」という行動（あいづちや頷き）を示してあげることも大切ですね。</p> <p>では、次に会話を弾ませる方法について考えましょう。AとBの会話を聞いて考えましょう。</p> <p>A:話し役 B:答え役</p>										
	<table border="0"> <tr> <td>会話 1</td> <td>会話 2</td> </tr> <tr> <td>A: 夏休みは何してたの？</td> <td>A: 夏休みは何をしてたの？</td> </tr> <tr> <td>B: ずっと家にいたよ。</td> <td>B: ずっと家にいたよ。宿題も多かったし。</td> </tr> <tr> <td>A: どこかに行かなかったの？</td> <td>A: 宿題をずっとやってたの？</td> </tr> <tr> <td>B: うん。</td> <td>B: うん。早く終わらせたかったんだよね。</td> </tr> </table>	会話 1	会話 2	A: 夏休みは何してたの？	A: 夏休みは何をしてたの？	B: ずっと家にいたよ。	B: ずっと家にいたよ。宿題も多かったし。	A: どこかに行かなかったの？	A: 宿題をずっとやってたの？	B: うん。	B: うん。早く終わらせたかったんだよね。
会話 1	会話 2										
A: 夏休みは何してたの？	A: 夏休みは何をしてたの？										
B: ずっと家にいたよ。	B: ずっと家にいたよ。宿題も多かったし。										
A: どこかに行かなかったの？	A: 宿題をずっとやってたの？										
B: うん。	B: うん。早く終わらせたかったんだよね。										

<p>エクササイズ ② 27</p>	<p>A: テレビとかも見なかったの?      A: すごいね。すぐに終わったんじゃない? B: うん。      B: うん。7月中には終わってごろごろしてたよ。Aさんは? A: …… (沈黙)      A: そうなんだー。私はね……</p>
<p>会話1と2では、Bさんの答え方にどのような違いがありましたか? (予想) ・BさんはAさんとの会話を続けようとしていた。 ・BさんはAさんにも聞き返していた。</p>	
<p>○「会話が弾むポイント」を学ぶ 1: 質問されたら答えだけでなく、一言付け足しをする。 2: 自分の話を聞いてもらったら、「あなたは?」と聞き返す。</p>	
<p>Bのほうがより相手と会話をしよう、相手のことを知りたいという気持ちがありますよね。 では、実際に会話が弾むコツを使って、友達と会話をしてみましょう! (練習) 昨日の夜ご飯は何を食べましたか? &lt;ペアで練習をする。時間があれば発表してもらおう&gt;</p>	
<p>まとめ 5分</p>	<p>今日は、「上手な会話の仕方」について学びました。 【事後のふりかえりを行う】アンケートでふりかえりを行い、共有する。【手立て3】</p>
<p><b>本時の目的に迫った児童の記述</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「昨日の夜ご飯は何を食べたか」というテーマをペアで話してみても、共通の話題があると話しやすいという事に気が付きました。実際にこういう話をしたことがあるけど、すぐに終わってしまったので、広げ方の工夫をすれば話が弾むということに気が付きました。</li> <li>・自分から話して仲良くなった友達がいるのでその友達と同じように話して友達に慣れたら良いなと思ったし、この授業を生かして友達を増やしたいです。</li> </ul>	

5 事例1の成果と課題 【手立て3】

児童の心の変容を見るため、再度アンケートを実施した。結果は以下の通りである。

	はい	いいえ	どちらともいえない
①今までのコミュニケーションの方法を学習して、前よりも自分の気持ちを友達や家族に上手に伝えられそうですか。	<u>96.3% (↑)</u> 実施前 80%	<u>3.7% (↓)</u> 実施前 8%	<u>0% (↓)</u> 実施前 12%
②クラスで話し合いをする時、以前よりも自分の意見を言う事はできそうですか。	<u>77.8% (↑)</u> 実施前 75%	<u>7.4% (↓)</u> 実施前 12.5%	<u>14.8% (↑)</u> 実施前 12.5%
③友達が間違った行動をしている時、以前よりも注意することができそうですか。	<u>70.4% (↑)</u> 実施前 44%	<u>7.4% (↓)</u> 実施前 8%	<u>22.2% (↓)</u> 実施前 48%

(1) 実践を終えての成果

アンケートの結果から、全ての項目で心の変容に良い傾向が見られた。①では、実施前は「どちらともいえない」が12%だったのに対し、実践後は0%になっており、児童が学習した方法を使えば自分の気持ちを上手に伝えられるという学びを得られたと思われる。③の項目では、実施前が44%だったのに対し、実践後は70.4%と大きく上昇していた。児童が相手に対して伝えづらいと思っていた内容でも、自分のコミュニケーションのタイプを知ったりDESC法を用いて体系的に実践したりすることで恐れずに伝えることができたという自信に繋がっ

たと思われる。また、3回の実践を段階的に行ったことで児童自身が自分の心の変容に気づき、前向きな感想が多かったことも成果として大きかった。

## (2) 今後の課題

アンケート②の項目で「どちらとも言えない」と答えた割合が実施前よりも上昇していた点に課題が残る。感想でも、自分の意見を言うのがまだ恥ずかしいという児童もおり、自己表現や他者理解にはアサーショントレーニングを低学年の段階から継続的に行う必要があると感じる。また、今後は主張する側の自己表現だけでなく、受け取る側の自己表現にも注目していき、双方にとってより良いコミュニケーションの向上を目指したい。

## 事例2 ケース会議の実践（所沢市立伸栄小学校）

### 1 「校内支援体制の充実に向けた効率的・効果的なケース会議のあり方について」

### 2 研究主題、視点との関わり

本校において、これまでも何度かケース会議を行ってきたが、会議の時間が長くなってしまふが多かった。また、時間をかけても、結局支援の方法や今後の対応が曖昧なままであることもあった。そこで、より効率的で、かつ、支援方法が明確になりより良い支援につながる効果的なケース会議を行う必要があると考え、このテーマを設定した。

### 3 事前研究

様々な実践例から、ケース会議の持ち方として、大きく4つの型があることが分かった。

①問題解決型、②インシデントプロセス法活用型、③グループワーク型、④ショートケース会議型である。それぞれのメリット・デメリットは以下の通りである。

	方法	留意点・約束	メリット	デメリット
①問題解決型	7つ（実践、その後の振り返り含めて9つ）のステップで行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者は全員発言する。</li> <li>他の人の意見を否定したり責めたりしない。</li> <li>一つ一つのステップごとに、参加者の合意を得て、次のステップに進む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進め方が明確なので話が拡散しない。</li> <li>取り組むべき問題の優先順位を決めて行うので、話し合うべき問題ははっきりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一つ一つ合意形成が必要なため、進め方に慣れるまでは時間がかかる可能性がある。</li> </ul>
②インシデント・プロセス法活用型	一問一答方式で情報収集をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>質問されたことのみで答える。（分からないことには「分からない」と答える。）</li> <li>事例提供者の非難や、努力不足を指摘することは禁止。</li> <li>タイムスケジュールを作り厳守する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前の準備が少なく済むため、事例提供者の負担が軽い。</li> </ul>	
③グループワーク型	4つのステップで行う。小グループでの話し合いから全体の話し合いへつなげる流れで行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1グループの人数が多くなりすぎないように（6人以下）にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大人数で行えるため、いろいろな視点から原因探ったり、支援方法を考えたりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間がかかる。</li> <li>多くの職員の参加を求めため、負担が大きい。</li> </ul>
④ショートケース会議	1回15分で行う。4つのステップで行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題となる行動を絞って話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1回の時間が短いので、1回の負担が少ない。</li> <li>学年会レベルで取り入れられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何回か継続して行う必要がある。</li> </ul>

## 4 実践

### (1) 事前準備

①参加者（校長、教頭、主幹教諭、担任、学年主任、養護教諭、教育相談主任）には、当日の流れと約束を配付し、ケース会議についての見通しをもってもらおう。【手立て1】

②該当児童の担任は、「事前情報共有シート」を記入してもらおう。【手立て2】

③ホワイトボードに、各ステップを見出しとして貼り、事前情報共有シートの内容を簡単に示しておく。【手立て3】

## (2) 問題解決型を取り入れたステップ【手立て1、2】

- ①情報共有（インシデント・プロセス法の活用） ②児童の強み（良さ）の確認  
③目標の設定 ④問題の背景要因の検討 ⑤支援方法の検討 ⑥支援方法の決定  
⑦支援の計画 ⑧支援の実践 ⑨振り返り

### 参加者の約束

- 全員発言すること  
○他の人の意見を否定したり責めたりしないこと  
○ステップごとに合意形成を果たしてから次のステップへ進むこと

### 事前情報共有シートの項目【手立て2】

- 児童名 ○担任名  
○家族構成 ○問題行動  
○今回解決したいこと ○児童の強み（良さ）  
○関係機関 ○その他

ケース会議 事前情報共有シート	
氏名	学年 担任 名前
児童名	
担任	
家族構成	
問題行動 （欠席日数、 学級の様子、 期間行動の 様子、生活面 等）	
今回解決し たいこと	
児童の強み （良さ）、 効果的だっ た支援	
関係機関	
その他	

## (3) ケース会議当日の記録

まず、担任から児童の様子を話してもらい、その後、担任に質問する形でさらに情報を共有していった。学年主任や養護教諭、校長からも情報の追加があり、それらをホワイトボードに追記していった。「思い通りにならない時に攻撃的になる」「友達との距離感が掴めない」「離席」「自己肯定感が下がっている」などの情報が挙げられた。

次に、本人の強みについて確認した。「記憶力が良い」「愛嬌がある」「電車が好き」「漢字が得意」などの強みが挙げられた。

続いて、それらを踏まえて、まず何をできるようにさせるか目標を決めた。今回は「適切な距離でコミュニケーションをとれるようになる」ことを目標とした。

さらに、現在、適切な距離でコミュニケーションをとることができていない背景要因について検討した。「なぜ近すぎると相手が嫌なのかを、理解できていないのではないか」という予想を立てた。

それらを踏まえて、支援方法について話し合った。付箋に支援方法を書いてもらい、それを模造紙に貼りながら、意見を集約していった。大きく4つの支援方法が出された。①なぜ近すぎると嫌なのかを論理的に説明すること、②具体的に適切な距離を教える（電車が好きなことから「出発進行」の腕の長さ分離れることにしたらどうか）、③ロールプレイを学級全体で行い適切な距離を教える、④人からほめられる場面をつくる。

支援方法の案から、できそうなものを選択した。今回は、4つともできそうだと判断で、4つを実践していくこととした。

最後に、2週間の実践期間をとり、2週間後に振り返りを行うこととしてケース会議を終了した。

ケース会議後の職員朝会で、参加者以外の職員にも、会議の内容と今後の支援について報告した。また、「ケース会議ファイル」を作成し、いつでも情報が見られるようにまとめた。

## 5 事例2の成果と課題

### (1) 成果

#### ① 会議の流れの明確化

これまでのケース会議では、決まった流れがなく、事前情報・資料についても担任任せであったため、その場の発言や情報をもとになんとか今後の支援を決めていく、といった曖昧さがあった。しかし、今回、問題解決型の流れを取り入れ、そのステップに沿って話を進めることで、話題が逸れることなく、参加者も見通しをもって検討することができた。事後のアンケートでも、「今後の目標が明確になった話し合いだったので、その後の手立てを考えることがスムーズであった。」「流れもわかりやすく、参加者の意見を一目で見られるのがとてもよかった。」との意見が挙げられた。アンケート項目「ケース会議の流れ・論点が明確になっている。」についての回答も、明確に「なっている」の割合が上昇した。

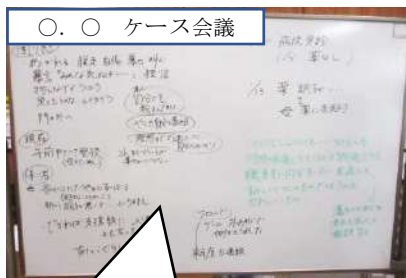
ケース会議の流れ・論点が明確になっている	
事前	事後
なっている・・・0%	なっている・・・83%
まあまあなっている・・・56%	まあまあなっている・・・17%
あまりなっていない・・・44%	あまりなっていない・・・0%
なっていない・・・0%	なっていない・・・0%

② ホワイトボードの活用

これまでのケース会議では、出された情報を羅列するだけであった。今回のケース会議では、ステップをプレートにしてホワイトボードに示し、今何を話しているのか、結論がどのようになったのかが分かりやすいようにした。その結果、アンケート項目「ホワイトボード等を活用し、会議の流れや結論が分かりやすく示されている。」についての「示されている」の割合が上昇した。

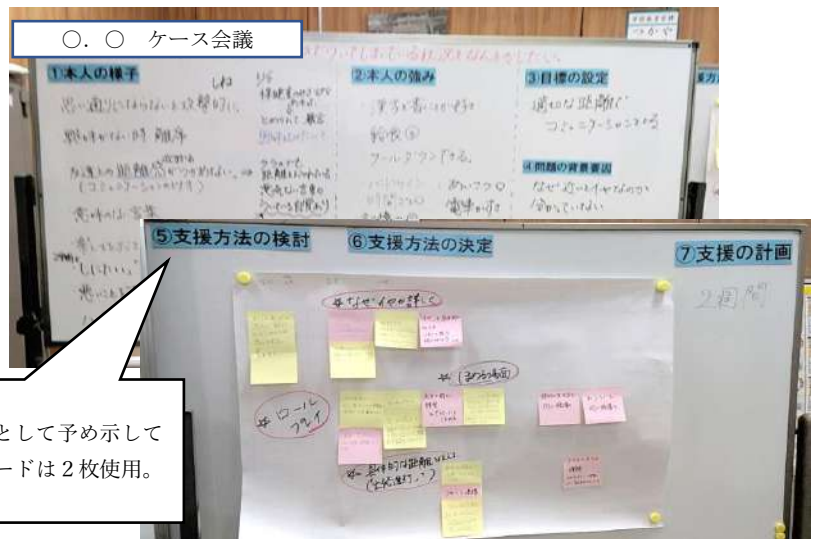
ホワイトボード等を活用し、会議の流れや結論が分かりやすく示されている	
事前	事後
示されている・・・50%	示されている・・・100%
まあまあ示されている・・・37%	まあまあ示されている・・・0%
あまり示されていない・・・13%	あまり示されていない・・・0%
示されていない・・・0%	示されていない・・・0%

<以前のホワイトボード>



決まった項目はなし。挙げられた情報を順に書いていくのみだった。

<今回のホワイトボード>



ステップを見出しとして予め示しておく。ホワイトボードは2枚使用。

③ 効率化

時間としては、1時間10分程度かかってしまったが、論点を明確にして検討が進められたため、体感としては「適切な時間内」と感じられたのではないかと考えられる。アンケート項目「効率的に進められ、適切な時間内に終わることができている。」についての回答で「できていない」「あまりできていない」の割合が0%となった。

効率的に進められ、適切な時間内に終わることができている	
事前	事後
できている・・・11%	できている・・・17%
まあまあできている・・・45%	まあまあできている・・・83%
あまりできていない・・・33%	あまりできていない・・・0%
できていない・・・11%	できていない・・・0%

(2) 課題

① 会議の時間配分

全体としては、1時間10分程度で終わることができたが、各ステップの時間配分を振り返ると、最初の情報共有に30分近くの時間を使ってしまった。予め、ホワイトボードに時間を示し、参加者にも時間の意識をもって意見を出してもらう必要があった。そして、支援方法の検討に時間をかけられるようにしたい。

## ② インシデント・プロセス法の活用

今回のケース会議では、一問一答方式での情報共有というよりは、質問も交えながら追加情報を話していく形になった。参加者への事前の説明が不十分であったことが原因と考えられる。しかし、参加者が話しやすい形で進めることが重要であるため、型にこだわりすぎず、今回のような形でも良いのではないかと感じた。

## ③ 振り返り、今後の支援についての検討

今回は、振り返りの設定を2週間後とした。しかし、支援の内容や緊急性の高さによっては、より短い期間での実践・振り返りが必要である可能性もある。それぞれのケースに応じて、適切な期間を検討、決定していく必要がある。

## VI おわりに

研究を通して、教育相談体制の確立のためには、開発的教育相談の側面（集団へのアプローチ）と予防的教育相談（個へのアプローチ）がどちらも重要であることが改めて分かった。集団へのアプローチとしては、児童たちへアサーショントレーニングを知識として伝えたが、低学年のうちから実践することによってより良い人間関係づくりができるようになる。個へのアプローチとしては、論点を明確にしたケース会議を効率的に行うことで、限られた時間を有効に使い、より良い支援につなげることができると考える。2つの視点を組み合わせることで、教育相談体制を充実させ、どの子も安心して通える学校づくりを目指していきたい。

最後になりましたが、星槎大学大学院教授阿部利彦先生には本研究の基盤となる大切なことをご教示いただきました。研究協議会では、児童の様子を細かく把握し、次の実践ではどのような手立てがより合うのか、また、今後どのようにケース会議を進めていくことが校内のより良い支援体制につながるのか、ご教示いただきました。ありがとうございました。

## VII 参考文献・資料

- ・大山卓 2021年 『これ一冊でわかる「教育相談」 - 学校心理学と障害福祉の基礎 - 』ジース教育社
- ・埼玉県立総合教育センター 「1時間でできるケース会議(インシデントプロセス法)」  
HP [https://www.center.spec.ed.jp/blogs/blog\\_entries/view/176/635daedc9715a525fcb543f1e9baf599?frame\\_id=384](https://www.center.spec.ed.jp/blogs/blog_entries/view/176/635daedc9715a525fcb543f1e9baf599?frame_id=384)
- ・埼玉県立総合教育センター 指導相談担当 平成23年3月 「よりよい人間関係をはぐくむアサーション・トレーニング指導プログラムの開発に関する調査研究」
- ・嶋田麻貴 2015年 「発達障がいの可能性のある児童に対する校内チーム支援における効率的・効果的なケース会議のあり方」 『大分大学教育福祉科学部附属教育実践総合センター紀要 No. 33, p81-96』
- ・生徒指導提要 令和4年12月 文部科学省
- ・馬場幸子 2013年 『学校現場で役立つ「問題解決型ケース会議」活用ハンドブック』明石書店
- ・平木典子 2003年 『アサーショントレーニング - さわやかに自己表現>のために - 』日本・精神技術研究
- ・真金千草・千川隆 2016年 「特別な支援を必要とする児童と校内支援体制に及ぼす課題解決モデルに基づくショートケース会議と効果」 『LD研究 vol. 25, No. 4, p489-502』
- ・宮口幸治 2022年 『グループワーク型ケース検討会ハンドブック』東洋館
- ・令和4年度所沢市教育相談研究部 令和5年2月 「児童生徒の生き抜く力を9年間を通して育む手法の研究 別冊資料」

委託研究

## E S D調査研究協議会

研究主題

### 「所沢市のE S D」の普及

宮前小学校長	五十嵐和彦（委員長）
宮前小学校	佐藤 杏咲
向陽中学校教頭	坪井 健（副委員長）
向陽中学校	市川 智弘
伸栄小学校教頭	溝越 由仁
伸栄小学校	相川 麗弥

指導者 学校法人湘南学園

学園長 住田 昌治

担当指導主事

鈴木 進也 石坂 祐樹

所沢市E S D 調査研究協議会に関わって3年が経ちます。長年にわたって独自の取り組みをされてきた所沢市では他と比べてE S D の認知度は高く、それぞれの考えのもとで実践されている先生も多くいらっしゃいます。しかし、学校としての取り組みとして行う「ホールスクールアプローチ」として定着している学校は少ないようです。この3年、E S D のさらなる浸透と学校全体での取り組みに発展するように取り組んできましたが、「E S D の分かりにくさ」「S D G s とE S D の違い」「E S D の実践」などの課題から、なかなか成果が上がりにくい状況でした。そこで、昨年までは、研究協議会内での取り組みを市全体に発信することがメインでしたが、今年度は授業を伴う研修会を計画し、E S D の考え方を取り入れた授業の在り方、ホールスクールで進めるE S D について共有できるように実践しました。このことは、所沢E S D にとって大きな一歩を踏み出せたと考えています。昨年度までに培ってきた実践と研究をベースとして、上記に記したホールスクール・アプローチに迫るためのスタートを切れたと思います。来年度は、さらに研修の機会を増やしながらか多くの学校に伝わっていくことを願います。

所沢市が長年にわたってE S D に取り組んでこられたことは、先見の明があったと思います。実は学習指導要領にE S D が位置付けられていることを知っている教員は多くありません。すでに学校現場でE S D が行われていたにも関わらず、半数以上の教員がそのことを把握していないのです。2008年と2009年に公示された幼稚園教育要領と小中高校の学習指導要領に「持続可能な社会の構築」の観点が盛り込まれ、さらに2017年と2018年に公示された各要領にはより踏み込んだ形で「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられました。世界でも類を見ない全国的な取り組みとしてE S D が行われているのです。所沢市の取り組みを大いに自負し、自信をもって取り組んでいただきたいと思います。

※ESDは、SDGsを達成するための手段であると同時に、SDGsを通して達成したい目標のひとつでもあります。

また、E S D は学校だけが担うものではありません。「E S D を効果的に推進するためには、E S D の実施を学校経営方針に位置付け、校内組織を整備して学校全体として組織的に取り組むこと、E S D を適切に指導計画に位置付けること、地域や大学・企業との連携の視点を取り入れること、児童・生徒による発信と学習成果の振り返りを適切に行うことなどが重要」(ESD-j) 保護者や地域を含めた学校外との連携しながら取り組むことも確認しておきたいと思います。学校が地域や企業のハブとなり、人的物的資源を共有・活用して、一人でも多くの「未来の社会の創り手」を育てていくことを目指して、来年度も研究を持続していくことが求められます。多くの学校関係者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

# E S D 調査研究協議会

## I 研究主題

「『所沢市のE S D』の普及」

## II 研究主題について

E S D 調査研究協議会は、平成 22 年に発足し、今年で 13 年目を迎えている。「E S D とは何か」という問いに常に向き合い、E S D の視点での授業改善を目指して調査研究を行っている。

環境汚染、気候変動、人権、福祉、エネルギーなど現代社会において未来を担う子供たちの生活を脅かす課題が山積している。このような社会的な課題を解決し、豊かな社会を持続発展させていくためには、教育によるアプローチが必要となる。

令和 3 年度より、湘南学園 学園長 住田昌治先生を指導者に招き、ホールスクールアプローチを意識した学校づくりの視点から研究を進めている。次世代の子供たちのために地球環境や資源が守られ、今の状態が持続し、すべての人が安心して自分の能力を発揮しながら満足して暮らせる社会を築くための「持続可能な社会の創り手」の育成を目指し、本研究主題を設定した。

## III 研究の内容と方法

### 1 研究内容

E S D 通信による啓発活動と、E S D 研修会を通じた「E S D の普及」

### 2 研究方法

- (1) E S D 通信（令和 4 年度作成）の計画的配布による啓発
- (2) E S D 研修会の実施
- (3) E S D に関するアンケートによる分析

## IV 実践

### 1 実践報告

回	月 日	研 究 内 容	備 考
1	5/24 (水)	委嘱状交付 研究の方向性について確認 指導者による基調講演	立ち読み ESD No1・2 発行
2	6/14 (水)	検証方法と目標設定 E S D 研修会の概要について ・時期及び会場	立ち読み ESD No3・4 発行
3	7/12 (水)	アンケート項目の決定 E S D 研修会の内容について ・公開授業と全体会で構成 ・協議による対話を重視	立ち読み ESD No5~8 発行 ESD 通信 No5・6 発行
4	9/6 (水)	E S D 研修会の詳細について ・各項目の分担と時間配分 ・各学校の実践報告について	立ち読み ESD No9・10 発行

5	10/18 (水)	E S D 研修会会場校 (伸栄小学校) での現地確認 ・運営についての打合せ ・実際の会場でのリハーサル	立ち読み ESD No11・12 発行
	11/1 (水) ~11/29 (水)	E S D に関するアンケート実施 ・経験年数ごとの Google Forms で実施	
6	11/2 (木)	E S D 研修会実施 (伸栄小学校) ・公開授業 (3 年生 社会科) ・全体会 (協議・実践報告・指導者講義) ・研修会終了後に協議会	立ち読み ESD No13・14 発行
7	12/6 (水)	研究紀要の分担 (実践紹介・アンケート分析・研修会等) アンケート結果の分析 研究発表の分担	ESD 通信 No7 発行
8	1/10 (水)	研究発表準備 ・発表内容の打合せ ・発表用動画の撮影	立ち読み ESD No15・16 発行
	2/9 (金) ~2/26 (月)	所沢市研究発表会においてオンデマンド発表 ・期間中、市内教職員向け Classroom へ発表動画を掲載	
9	2/27 (火)	1 年間の振り返り・次年度への引き継ぎ事項について	立ち読み ESD No17・18 発行

上記計画の中で実践した事例を、別添資料として以下のとおり記す。

別添資料 1 「各校での実践」 宮前小学校の実践  
伸栄小学校の実践  
向陽中学校の実践

別添資料 2 「E S D 研修会報告」

別添資料 3 「E S D に関するアンケート分析結果」

## V 成果と課題

### 1 成果

- ESD研究協議会がこれまで積み上げてきた研究内容を継承しながら、今年度3校（宮前小・伸栄小・向陽中）が、新たに各校でのESD教育の実践（ESDの視点による社会科研究授業・総合的学習の校内研究・福祉・緑化活動等）に取り組み、市内に発信できた。
- 今現在行われている各校の教育実践がすでにESD（持続可能な取組）であり、ESDはこれから新たに創造・計画・構築するという高いハードルではなく、認識・継続・進化するものという意識が市内で少しずつ浸透してきた。（感想等より）
- 前年度以前からのアンケート調査継続により、市内教職員の多くがESD教育の重要性や課題意識を持っていることが確認できた。
- 「ESD通信」が各学校に掲示され、「ESD・SDGs・持続可能な…」という言葉や実践内容が児童生徒・教職員・来校者の目に幅広く留まるようになり、認知の輪が広がった。

### 2 課題

- △アンケート調査から近年 SDGs や ESD の認知度はかなり高まっているが、ESD 教育の授業や取組を行っていないと回答した教職員が 5 割近くにのぼった。ESD の視点が普段の教育活動の至る所に存在するという認識を、まずは広げていく必要がある。
- △今年度市内 3 校から 2 名ずつの研究者が ESD 研究協議会に参加したが、年数回の協議だけでは、各校それぞれの ESD 推進も市内への推進も簡単ではない。モデル校、パイロット校、実践重点校のように、研究実践が学校全体で蓄積できるように位置付け、市内を牽引する学校が必要との考えもある。
- △市内教職員の ESD 教育の課題意識は高まっているものの、さらなる研修機会の確保、授業での取り上げ方や実践の共有、ホールスクールアプローチ（学校全体での取組意識）の高揚等、ESD 教育の推進には課題が多い。粘り強く実践を積み上げていく必要がある。

学校教育目標

「自立する子 かしこく やさしく たくましく」

1 学校教育目標と ESD のつながり

本校では、学校教育目標の具現化に向けて、「自分の考えを豊かな言葉で表現できる児童の育成」をテーマに研究を進めている。考えを伝えるために語彙を増やし、様々な伝え方を経験させている。これは ESD の 7 つの能力・態度のうちの「コミュニケーションを行う力」と「他者と協力する力」にあてはまる。授業における問題解決の場面で、ペアやグループワークを通して、コミュニケーションを図り、新しい言葉や表現の仕方を学ぶ。さらにそれを書いたり、発言したりすることで、自分の言葉となるよう長期的に指導している。言葉が豊かになることで、より他者に自分の考えが伝わることを実感させたい。

2 宮前小学校における ESD の取組

宮前小学校では「福祉」をテーマに 3～6 年生で学習し、4 年間を通じて探究的な学習を実践するとともに、豊かな情操を育てている。さらに福祉と並行して発達段階に応じた「テーマ」を設定している。



3 年生の福祉では、知的障害者施設「光の園」で生活する人たちと共に、作業をしたり、話をしたりしている。楽しく時を過ごす中で、ともに生きる大切さを実感している。また、里芋の栽培と消費について学習し、食糧生産の重要性や収穫した時の喜びを知り、食べ物の大切さを学んでいる。

4 年生の福祉では、地域で生活する高齢者や障害者が抱える問題を知り、それらを解決するにはどうしたらよいか考えている。さらに住みよい町づくりにつながる設備を製作している。また、地域の特産物「狭山茶」のよさや生産者の苦労に出会いながら、自分の興味を大切に、お茶について広く学んでいる。

5 年生の福祉では、幼い子供とのかかわりを通して、人とのかかわり方を見つめ直し、よりよい関係を築くために、どうしたらよいか考え実践している。また、地域の環境問題に目を向け、ふるさと狭山ヶ丘を守るために、自分に何ができるかを、林間学校等での自然とのふれあいを通して考え、課題に対する環境保全に取り組んでいる。



6 年生の福祉では、地域の福祉施設で生活している人との交流を通して、思いやりの心を育てるとともに、地域社会の一員として、自分に何ができるか考え実践している。また、様々な職業に目を向け、自分の将来とかかわりを持たせながら仕事について考えている。

変容と今後に向けて

本校では、「立ち読み ESD」を各学級に掲示し、ESD の取組を広めていった結果、教員及び児童の ESD や SDG s の認知度は上がった。しかし「ESD や SDG s とは何か」を説明できる教員及び児童は少なく、どんな活動をしているか不明確であるとアンケートに答えていた。このことから今後は、ESD や SDG s は、学習活動の場面で新しく位置付けるものではなく、既に現在の教育現場で取り組んでいるものであると認知する必要がある。「既存の取組とのつながりに気付けばよいこと」を周知することで、ESD や SDG s へのハードルが下がると考える。

学校教育目標

やさしく かしく つよい子

1 学校教育目標とE S Dのつながり

本校の学校教育目標は「やさしく」「かしく」「つよい子」である。それらをE S Dの視点から実現することに向けて、三つの重点目標を定めた。

一つ目は、掲示教育の充実である。学校内で様々な掲示物を活用し、多様性、相互性、有限性、公平性、連携性、責任性など持続可能な社会づくりに必要な概念の意識付けを行っている。

二つ目は、体験活動の充実である。様々な体験の中で、五感を通して子供たちが自らの課題を見つけ、それを改善、解決するため能力育成を目指して教育活動が営まれている。

三つ目は、食育活動の充実である。生活の基礎作りに役立つ食事について学ぶことにより、子供たちが自分自身のよりよい食生活について理解を深めることとともに、子供たちの心身の健やかな成長の促進を図っている。

2 伸栄小学校E S Dの取組

掲示教育では、各校務分掌や各委員会による様々な分野のものが校内に掲示されている。人権教育部では、学校生活を通して、子供たちの「他者と協力し合う力」や「コミュニケーションを深める力」を伸ばすために、挨拶に重点を置いている。そして、「挨拶は心からの贈り物」というキャッチコピーを掲示し、啓発している。また、感謝や挨拶の言葉を集めて紹介し、互いに伝え合うことで皆が気持ちよく生活できる学校づくりを行っている。

外国語活動・国際理解教育部では、海外の国について興味・関心を持つことから、それぞれの国への理解を深められるように取り組んでいる。一例として、サッカーワールドカップが行われている際には、試合の進行状況を確認しながら、その国について簡単に知ることができるよう国旗やそれぞれの言語で記された国名が載ったトーナメント表を作成、掲示した。

さらに、各委員会では、校内をよりよくするために子供たち自身で課題を見つけ、改善に取り組んでいる。それにより、「節水」「節電」「残菜を減らそう」などを呼びかけるポスターが至る所に掲示され、学校全体で課題の改善、解決への意識を高めている。

体験活動では、取組の一つとして、各学年の学年園で野菜の栽培・収穫を行っている。夏にはトマト、ナス、ピーマン、オクラ、きゅうり、モロヘイヤ等を収穫し、冬には白菜、大根、ブロッコリー、水菜などを収穫している。子供たちは、より大きく、味の良い野菜を収穫するために、除草、水やり、芽かきなどに自ら進んで取り組むとともに、体験の中で「キャベツの葉にアオムシがいる」「トウモロコシのひげが枯れてきたよ」などと日々新たな発見をし、学習している。そのほかには、プール清掃の活動でヤゴを捕獲し、ビオトープに放流し観察を続けるなど、自分たちの手で環境を保全していくことの大切さを学ぶなどの取り組みをしている。

食育活動では、体験学習の野菜栽培と関連づけて、給食時間中の校内放送や廊下などの掲示板を活用して旬の野菜等の食育につながる様々な情報を紹介し、子供たちの興味関心が高められるように取り組んでいる。また、体験活動で収穫した野菜を食べる喜びを知るとともに、おいしさを実感できるようにするため、食に関する授業を行っている。しかし、食への関心が高まっている反面で、給食の残菜量が多いという課題もある。そのため、残菜量の報告、給食センターや農家などの想いの紹介、「全校児童があと一口食べると〇kgの残菜が減る」などの具体的な内容を紙芝居にし、Google ClassroomのMeet（ビデオチャット）で配信している。

変容と今後に向けて

本校はESD教育を推進して1年目である。これまではESDとは何か分からないという教職員がほとんどであったが、組織全体として徐々に理解が深まっている。しかし、現在行われている校内の活動のほかに、ESDの視点を取り入れた授業を個々が行っていくにあたっては課題がある。そのため、今後は「総合的な学習の時間」等の教育課程の見直しや、各教科の年間指導計画の中でESD教育に位置づけられるものを、各教科部会や各学年で見直し、改善を図っていききたい。

学校教育目標

自律 貢献 共生

1 学校教育目標とE S Dのつながり

本校では、学校教育目標について令和2年度の当時の生徒会本部生徒と学校長が対話を重ねていった。そして令和3年度より学校教育目標が「自律 貢献 共生」となった。

生徒同士、生徒と教員との関係が良好な関係の中で、生徒が「自分を知ること」を大切に教育活動が営まれている。成長を支援する教員の働きかけが、生徒自身の気づきを生み、自らの行動を考え、決定する。また、多様な考えに触れる機会として対話型芸術鑑賞の取り組みが、多様性を感じ、尊重する人間関係の醸成に寄与している。他者とのつながりを感じる学校生活の中で、自分にできることを考え、行動できる生徒の育成を目指している。

2 向陽中学校E S Dの取組

1年生では、主に自然体験学習と進路学習に取り組んでいる。1年生は7月に、校外学習で富士山周辺での自然体験学習を行っており、生徒は青木ヶ原樹海にある洞窟の中で現地のガイドと樹海を洞窟まで歩く。その道中では、何千年もかけて育まれた自然を体感することができている。また、富士山の五合目付近でトレッキングを行い、埼玉県では感じることでできない自然に直接触れる。事前学習とこれらの体験活動を通して、自然についての探究的な学習を行った。進路学習は、働くことについて学習した。夏休みの課題では身近な大人に「職業に関するインタビュー」を行い、その内容をまとめ、発表した。また、11月には地域の事業所等にご協力いただき、職場体験学習に取り組んだ。これは将来の自分自身の生き方について考えるきっかけとなる学習として取り組んだ。

2年生では、修学旅行に向けた学習を行った。1学期は日本の文化と海外の文化を比較し、日本文化への造詣を深めるとともに、海外の文化の多様性を学んだ。2学期は事前学習で京都、奈良方面の寺社仏閣について調べて、模造紙大の新聞にまとめた。その後、学年で発表会を行った。さらに、発表後は自分たちの学習やまとめ方発表方法を振り返り、次の学習に向けて自分たちで新たな問いを立てる探究活動を行った。

3年生では、「シントコロザワのミライをつくる」という探究課題で学習を進めた。自分たちの生活拠点である新所沢の町が、より魅力的に、住みやすい街になるために、自分たちの故郷を残すためにどのような課題が今あるのか、その解決に向けて自分たちは何ができるのかを考えて、課題解決に向けて学習に取り組んだ。生徒が実際に今の新所沢には公園はどういうものが、いくつあるかというのを調べた。例えば、「公園」というものに視点を当てて、住みよい街づくり、住み続けられる街づくりについての探究的な学習を進めた。

<総合的な学習の時間の年間計画 イメージ>

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 学年	課題設定／情報収集／体験／発表／振り返り						課題設定／情報収集／体験／発表／振り返り					
2 学年	国際理解教育						課題設定／情報収集／まとめ					
3 学年	課題設定／情報収集／前期まとめ／振り返り//情報収集／まとめ／振り返り											

変容と今後に向けて

本校職員がESD 調査研究協議会委員になり、ESD 教育を推進して2年目である。学校組織として教職員の意識改革は徐々に進んでいる。一方でホールスクールアプローチの視点からは改善の余地は残っている。また、生徒たちの行動や意識には変容が見られる。各教科や領域の授業において、「めあてや学習課題を理解して、授業に取り組んでいる」という学校評価項目で数値の上昇が見られる。学びの主体である生徒が当事者意識を持ち、課題解決学習を進めるようになってきていると言える。今後の取り組みとしては、今年度の総合的な学習の時間を柱とした取り組みを、教育課程の見直しを継続することである。各教科等で身に付けた資質・能力を十分に把握して、組織し直すことである。学ぶ生徒、支援する教師ともに総合的な学習の時間との関連を意識して、各教科の学習を進めていきたい。

概 要	<p>令和5年11月2日に所沢市立伸栄小学校にて行われた研修会である。市内にESDを広めるために公開授業と参加者による協議、本会委員の所属校でのESDの実践、ESD調査研究協議会の指導者である住田昌治先生の講演会で構成した。</p>
実践内容	<p>平成22年から始まったESD調査研究協議会であるが、コロナ禍後、初めて研修会を実施した。市内小中学校の先生方、会場校である伸栄小学校の先生方にも参加していただき、主に4つのことを行った。</p> <p>1 研究授業</p> <p>小学校3年生の社会科で行った。単元は「店で働く人」であった。地域のスーパーマーケットを題材に主に販売の仕事で行われている工夫にどのような意味があるのかを追求していく単元である。この研究授業で授業者は本授業のめあてを「スーパーマーケットは品物を売ることのほか、利用者のためにどのようなことをしているのだろうか」として、スーパーマーケットが販売以外にも様々な取り組みをしていることに児童が気づくように授業を展開した。児童は身近なスーパーマーケットが販売だけではなく、環境保護などのために様々な取り組みを行っていることに気づいていた。持続可能な社会の実現に向けたESDの視点を取り入れている授業であった。</p> <p>2 本会委員の所属校でのESD実践の報告</p> <p>本年度の調査研究協議会は市内の2つの小学校と1つの中学校の計6名の委員で構成されている。各校で本年度取り組んだESDについて実践報告を行った。1校目の小学校では福祉施設の訪問や校内の緑化活動などの取り組み、2校目の小学校は主に校内の緑化活動の取り組みがESDの実践であることについて報告した。中学校は各学年の総合的な学習の取り組みがESDの実践であること報告した。</p> <p>3 参加者による協議</p> <p>協議では参加者を複数のグループに分けて3つの協議題で行った。1つ目の協議題は「授業におけるESDはどんなこと？」2つ目の協議題は「もしかしたら、これもESD？」3つ目の協議題が「明日、取り組みそうなESDは何か？」であった。参加者はこれまで行ってきた教育活動がすでにESDの実践であること、ESDが特別な取り組みではなく日常の教育活動であることに気づき、参加者の視野が広がる協議となった。また、2つ目の協議題と3つ目の協議題の間に後述する住田先生の講演があったことで、より協議を深めることができていた。</p> <p>4 指導者による講演</p> <p>住田先生は参加者の1つ目の協議と2つ目の協議の様子を見ていただき、その後ご講演をいただいた。住田先生からは「ESDの根底にはその学校の文化がある」「世界的な課題を身近なことに落とし込む」「SDGs達成の鍵はESDにあり、ESDは学校教育だけではなくすべての教育の基盤であること」などのご教授をいただいた。</p>
成果と課題	<p>成果はこの研修会を開催できたことである。この研究協議会の目的でもある所沢市内へのESDの普及には研修会の計画と実践が今後も必要であることを実感できた。</p> <p>課題は参加者の人数である。市内小中学校47校にESDが普及し、ESDが所沢市の教育に広がっていくために開催時期や開催方法、開催内容等を検討し、参加人数を増やしていくことが必要である。</p>

概要

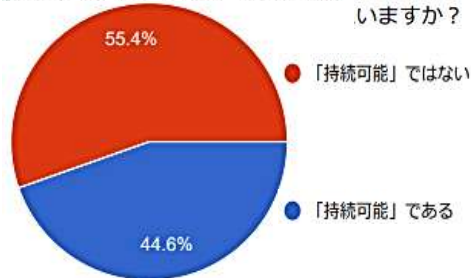
令和 5 年 11 月中の約 1 カ月間、市内県費負担教職員を対象に、Google フォームによるアンケート調査を行った。調査目的は、ESD（持続可能な開発のための教育）の意義や概念を学校に浸透させる具体的な取組について調査し、その普及に向けた具体的な提言を行うために ESD に関する本市教職員の意識等の状況を正確に把握することである。

実践内容

市内教職員を経験年数別（9 年目まで、10～19 年目、20 年目以降）に調査し、604 名から回答をいただいた。以下、12 月 6 日（水）第 7 回協議会において協議した、分析・考察等をまとめた内容である。

※経験年数 9 年目までの教職員の回答

あなたは現在、世界が「持続可能」だと思いますか？



○持続可能ではない理由

- ・エネルギー資源や経済格差などの問題があるため。
- ・SDGs が世界的に広まれば可能だが現状は厳しい。
- ・温暖化・生態系の破壊・政治的不安などがあるため。
- ・人々の関心がまだまだ薄いと感ずるから。 他

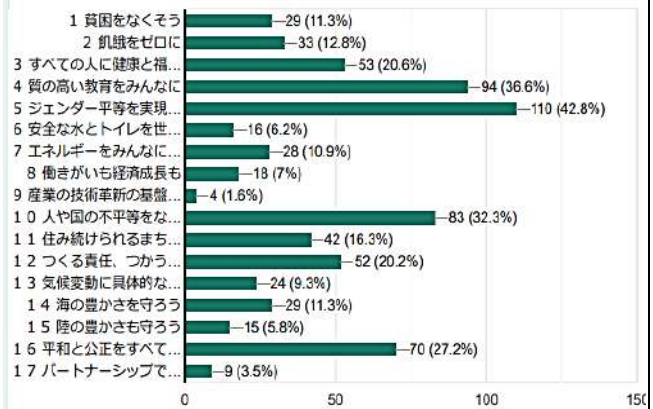
○ESD を実施する上での課題

- ・年間指導計画に位置付けられていない。
- ・学校全体で取り組むには管理職の意向がないと難しい。
- ・教職員が ESD をあまり理解していない。
- ・ESD に対する学校風土の醸成
- ・授業時間の確保、仕事量の削減 他

SDGs の 17 個の目標を学校教育で取り扱う場合、どの目標から取り掛かりますか

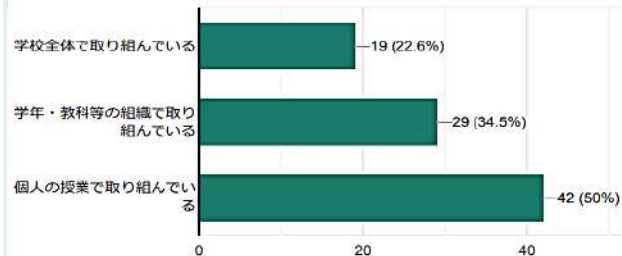
（3 つまで選択可能）

257 件の回答



ESD の取組の規模はどの程度ですか

84 件の回答



成果と課題（考察・分析から）

- 令和 3 年度との比較において、366 名から 604 名へとアンケートの回答数が増加した。
- SDGs・ESD の認知については、2 年前と設問が違うので単純比較はできないが、「説明できる・知っている」を合わせて SDGs はほぼ 100%、ESD は 80% となり、認知が浸透してきている。
- 「ESD 授業や取組を行っているか」については、「よく行う・少し行う」を合わせて 43% から 59% へ増加した。その中で授業・取組の規模は「個人」が 52% 「学校全体」が 13% 「学年・教科」が 33% となった。まだまだ教職員個人の取組にとどまっている。
- △ESD を「行っていない」との回答は 46% から 41% と微減となり、ESD の認知は広がっているが、実践があまり広がっていないとの見方ができる。今後実践を広げていくために ESD の視点が普段の教育活動の至る所に存在するという認識やホールスクールアプローチ（学校全体での取組意識）の概念の高揚が課題と言える。また、こうした認識の確認や概念の高揚を図るためにも、市内 ESD 研修会への参加や ESD を校内研究として取り扱うなどの取組が必要である。
- ・「現在の世界が持続可能か」の設問では、「可能」が 44% 「不可能」が 56% となり、記述回答からは危機意識・問題意識の温度差や持続可能性についての考え方が様々であることが分かった。SDGs・ESD の理解・浸透には時間がかかり、理念概念の認識を一致させることも簡単ではない。本研修会では、今後も様々な視点から ESD 教育推進に向けてアプローチすることによって、こうした課題への解決策を講じていきたい。



所沢市立教育センター

〒359-1118 埼玉県所沢市けやき台 2-44-2

TEL:04-2923-2396 Fax : 04-2923-2395

E-mail : [edc@tokorozawa-stm.ed.jp](mailto:edc@tokorozawa-stm.ed.jp)

<https://edc-tokorozawa.edumap.jp/>